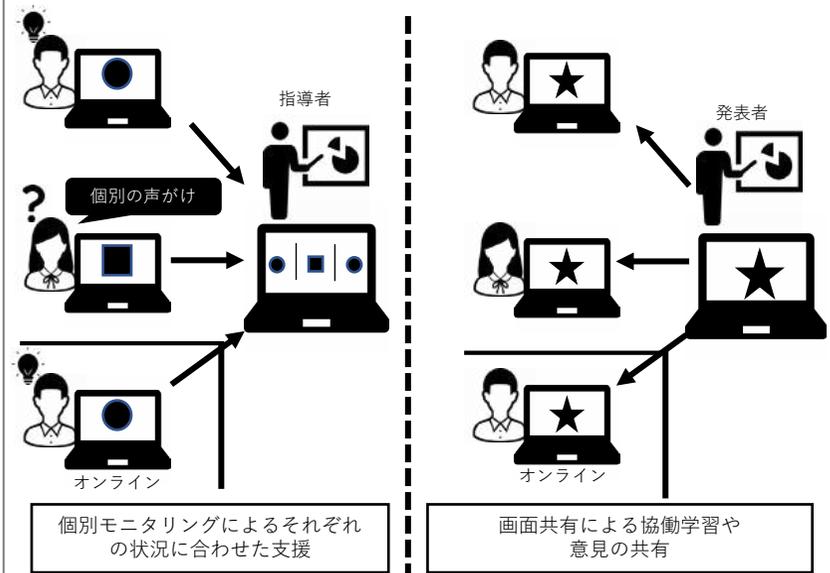


# 事業概要 【授業支援システム導入事業】

自治体名	北海道室蘭市	人口	76,676人	事業費	7,130千円
事業概要	<p>小中学校において一人一台の児童生徒用端末が配布され、授業において有効活用を進めているところであるが、各児童生徒の画面状況等を教員が把握できていない。授業支援システムを導入することにより、教員用端末から児童生徒用端末の画面を一覧表示し、状況をリアルタイムで把握することにより、各児童の進捗状況に合わせた適切な支援を実施したい。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>○授業支援システムの導入により、学習用端末の効果的な活用やオンライン授業を円滑に行うことができる体制を整備する</p> <p>○主な機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒用端末のモニタリング機能により、学習状況の可視化することで、支援を必要とする児童生徒の把握と適切なサポートを行う。</li> <li>・画面共有機能により、アプリや会場等に制限されことなく、効果的なグループ学習や発表等のプレゼンテーションが可能となる。</li> <li>・端末の持ち帰り学習や遠隔による授業参加を行う場合も、教員側から端末の活用状況を確認し、個別に資料提示や支援が可能となる。</li> <li>・児童生徒用端末のコントロールやロックなどの操作により、授業内での指示がスムーズになることで、授業の効率化につながる。</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①システムを活用した授業時間数</p> <p>②オンライン授業の実施率</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①全国学力・学習状況調査結果の全国比較</p> <p>②児童生徒のICTを活用した授業の満足度</p>		



# 事業概要 【教育DX推進事業】

自治体名	北海道稚内市	人口	31,046人	事業費	15,169千円
事業概要	本市学校教育分野においては、児童生徒の学力が低位にあることや一人一台端末の効果的な活用が進んでいないことから、教育DXの推進により、ICTを活用した授業支援や学力向上への取組を加速度的に進めるとともに、教職員の働き方の改善による教材研究等の時間の確保により、児童生徒の学力向上や教育の質の向上を目指す。				
具体サービス	<p>【校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>統合型校務支援システム（学籍管理・成績管理・グループウェア等）の導入</li> </ul> <p>【AIドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドリルパーク（予定）の導入</li> </ul> <p>【クラウド型授業支援アプリ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロイロノートスクールの導入</li> </ul> <p>【デジタル教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師用デジタル教科書の導入</li> </ul>	<div style="text-align: center;"> <p><b>教育DX推進事業</b> ～児童生徒の学力向上・教育の質の向上を目指して～</p> <p><b>教育DX推進</b></p> <p>単にアナログからデジタルに切り替えるのではなく、学習の在り方や教育手法、教職員の業務など、学校教育のあらゆる面において「変革」を起こすことが目的</p> </div>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムログイン回数</li> <li>AIドリル利用回数</li> <li>授業支援アプリの利用率</li> <li>デジタル教科書使用率</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査結果（小学校）</li> <li>全国学力・学習状況調査結果（中学校）</li> <li>授業内容の理解度</li> </ol>			

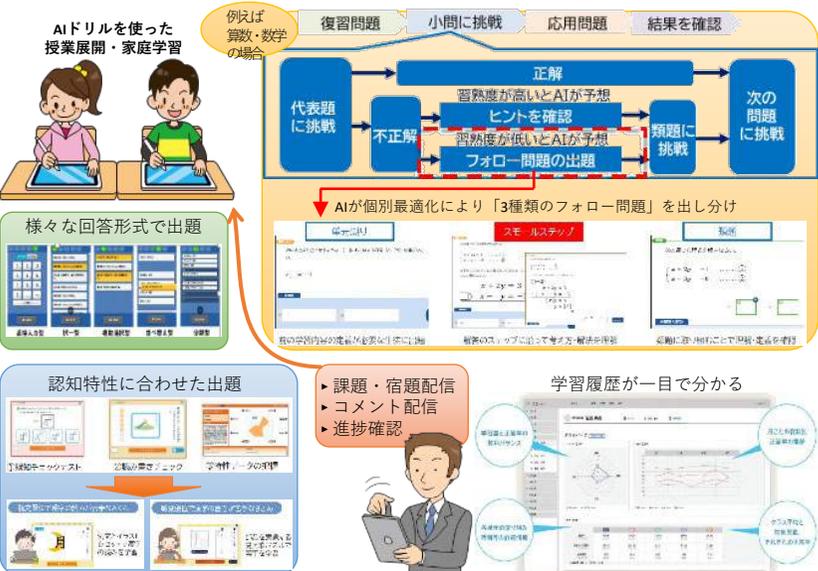
## 事業概要 【学力向上プロジェクト推進事業（AIドリル実装）】

自治体名	北海道美唄市	人口	19,038人	事業費	3,095千円
事業概要	<p>児童生徒がこれまでの学習内容の定着に課題があること等から、AIドリルを活用することで個々に応じた振り返りや異学年の先学習が可能となるなど、個別最適な学びを支援することにより、これらの課題を解決し、児童生徒の学力向上に繋げる。</p>				
具体サービス	<p>【AIドリルの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の理解度に応じた問題が自動的に構成されたり、異学年の先学習も可能となるなど、個々の学力向上につながる。</li> </ul>		<p>The diagram illustrates the AI Drill process. On the left, a child student is shown using a tablet. This is connected to a central box labeled 'AIドリル'. Below this box is a dashed box containing '学習履歴' (Learning history), '苦手克服問題' (Problem-solving for weak points), and '分析助言' (Analysis and advice). A large blue arrow points down from this dashed box to the text '学習の効率化、学力の定着' (Efficient learning and mastery of skills). On the right, a teacher is shown at a laptop. A dashed box above the teacher is labeled '取組方向の工夫改善' (Improvement of organizational methods). A blue curved arrow points from this box back to the 'AIドリル' box, indicating a feedback loop.</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①家庭学習におけるAIドリル利用時間</li> <li>②家庭学習における学習時間</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査結果における全国平均との差</li> <li>②教員におけるICT活用指導力等の向上</li> <li>③児童生徒におけるAIドリル使用に係る満足度</li> </ol>		

# 事業概要 【学校教育DX推進事業】

自治体名	北海道江別市	人口	118,749人	事業費	24,463千円
事業概要	<p>学校教育のDX推進のため、A Iドリル、自動採点システムを導入し、児童生徒の習熟度に応じた個別最適な学習を支援し、学力向上を目指す。また、宿題の印刷や採点等の校務の効率化により、教員が児童生徒と向き合う時間の確保や教員の時間外在校等時間の短縮を後押しする。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【A Iドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人ひとりに合った演習問題の出題</li> <li>問題が解けない原因をAIが自動判定</li> <li>個々の学び直しの把握（学年を超えた復習）</li> <li>学習継続のサポート（苦手分野の把握）</li> <li>データ分析機能による教育のEBPMの推進</li> </ul> <p>【自動採点業務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIによるテストの採点・自動集計・成績分析</li> <li>生徒用タブレット端末との連携（答案や成績のデータの返却）</li> </ul>		<p><b>AIドリル 出題ロジック</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="1110 505 1456 596"> <p>■過去の履歴も踏まえた出題ロジック</p> <p>今取り組んでいる内容の状況だけでなく、これまでに取り組んできた学習履歴まで詳細に分析して最適な問題をおすすめする。独自のロジックを搭載。苦手を解消し、得意を伸ばす内容を出題します。</p> </div> <div data-bbox="1520 505 1860 579"> <p>■適切なタイミングで復習を促し、理解を定着</p> <p>理科・社会では、学習してから30分間の間に復習を行うことで、重要な用語などをしっかり定着させていくのに役立ちます。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1110 615 1456 819"> <p>〈AIドリルの出題イメージ〉</p> </div> <div data-bbox="1520 615 1860 819"> <p>〈復習による定着のイメージ〉</p> </div> </div> <p>自動採点のイメージ</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>AIドリルの問題解答実績</li> <li>自動採点業務支援システムの利用回数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オンライン学習に取り組む児童生徒の割合</li> <li>課題解決に向けて、自分で考え、自分で取り組む児童生徒の割合</li> <li>児童生徒の利用満足度</li> </ol>		

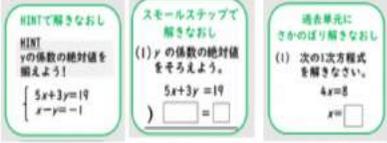
# 事業概要 【小中学校情報機器整備事業（AIドリル導入）】

自治体名	北海道名寄市	人口	25,418人 (令和5年11月末現在)	事業費	8,690千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想で全児童生徒がICT端末を活用した授業を受けられるようになり、今後のICT端末を更に活用した学習を実施していく上で、ドリル教材のデジタル化に取り組む。デジタルドリル（AIドリル）を導入することで、児童生徒は個別最適化されたドリルに取り組み、学習習慣の定着や学習意欲の向上につながり、教員は採点業務や集計業務の負担軽減につながり、学校・教育委員会は学習状況確認をデジタルで可視化が図れる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【デジタルドリル（AIドリル）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領・教科書に準拠した基本問題や応用問題が小1～中3まで出題され、様々な回答形式で一問一問を思考して答えを導く。</li> <li>児童生徒一人ひとりの習熟度に合わせた出題がされる。（個別最適化された学習）</li> <li>自動採点・集計・結果の可視化により、教員の負担軽減を図る。また、児童生徒は自身の学習履歴を確認できる。</li> <li>個々の認知特性に合わせた出題がされる。</li> </ul>		 <p>The diagram illustrates the AI Drill system's workflow and features. At the top, a flowchart shows the process: '復習問題' (Review) -&gt; '小問に挑戦' (Challenge) -&gt; '応用問題' (Application) -&gt; '結果を確認' (Check Results). A central box details the AI's decision logic: '代表題に挑戦' (Challenge representative problem) leads to '不正解' (Incorrect) or '正解' (Correct). If correct, '習熟度が高いとAIが予想' (AI predicts high proficiency) leads to 'ヒントを確認' (Check hints) and then '次の問題に挑戦' (Challenge next problem). If incorrect, '習熟度が低いとAIが予想' (AI predicts low proficiency) leads to 'フォロー問題の出題' (Issue follow-up problem) and then '類題に挑戦' (Challenge similar problem). A red box highlights 'AIが個別最適化により「3種類のフォロー問題」を出し分け' (AI issues 3 types of follow-up problems due to individual optimization). Below, screenshots show '様々な回答形式で出題' (Various answer formats) and '認知特性に合わせた出題' (Personalized questions). A teacher is shown with a tablet displaying '学習履歴が一目で分かる' (Learning history visible at a glance), with callouts for '課題・宿題配信' (Assign homework), 'コメント配信' (Send comments), and '進捗確認' (Check progress).</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒のAIドリル活用状況 (授業及び家庭学習での活用状況)</li> <li>②家庭学習（宿題）におけるAIドリル活用率 (教員による宿題への活用状況)</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもたちの学力向上 (全国学力・学習状況調査 学力の結果)</li> <li>②子どもたちの家庭学習時間 (平均学習時間1時間以上の割合)</li> <li>③児童生徒のAIドリル満足度調査</li> </ol>		

## 事業概要 【インターネット出願システム導入事業】

自治体名	北海道名寄市	人口	25,418人	事業費	3,432千円
事業概要	<p>現在、名寄市立大学での受験志願にあたっては、志願者が紙の募集要項を郵送などで入手し、自身で必要事項を自筆した志願票等一式を本学に提出する形としているが、この志願票一式の作成及び書類提出についてインターネットを用いた出願システムを利用し運用するものである。</p>				
具体サービス	<b>【インターネット出願サービス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターネットを介した志願票作成及び志願書類の提出</li> </ul>	<p>インターネットを介する志願</p>			
主なKPI	<b>【アウトプット指標（活動指標）】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①インターネット出願システムでの志願数</li> <li>②入学検定料振込のコンビニ利用件数</li> <li>③</li> </ol>	<b>【アウトカム指標（成果指標）】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>①志願者の出願書類作成及び郵送等所要短縮時間</li> <li>②紙の使用及び郵送数の減</li> <li>③サービスの満足度</li> </ol>			

# 事業概要 【AIドリル導入事業】

自治体名	北海道滝川市	人口	37,376人	事業費	8,816千円
事業概要	<p>滝川市では共働き世帯が多く、子どもが帰宅しても保護者による学習支援や見守りができない家庭もあり、そのためスマホやゲームの利用が長時間にわたっており、家庭学習が習慣化せず、学力が低下しているのが課題である。全小・中学校にAIドリルを導入することで、一人ひとりの習熟度にあわせた個別最適な学びを充実させ、保護者の学習支援や見守りがなくてもひとりで取り組める学習環境を整備し、家庭学習の定着と基礎学力の向上を目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p><b>【AIドリル】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本となる問題から思考力を問う応用問題まで学習指導要領に準拠。小1～中3まで主要教科を収録</li> <li>・児童生徒の学習状況をAIが分析し、習熟度に応じた問題が出題される。</li> <li>・自動で正誤判定・採点され、漢字の字形や筆順についても判定が可能。</li> <li>・子どもの学習内容の難易度が高く、保護者が家庭学習をみたり、教えるのが難しくなっており、AIが児童生徒の理解度に応じたヒントを出してくれる。</li> <li>・保護者の学習支援や見守りがなくても、子どもが自主的に、ひとりでもAIドリルによる家庭学習に取り組める。</li> <li>・正解するとメダルやポイントが付与され、児童生徒の学習意欲の向上につながる。</li> </ul> </div> <div style="width: 48%;"> <p><b>基礎基本から応用問題まで搭載</b></p>  <p><b>AIによる出し分け</b></p>  <p><b>教科単元に応じた解答形式</b></p>  <p><b>宿題配信&amp;コメント機能</b></p>  <p><b>リアルタイム進捗確認</b></p>  <p>子どもが自主的に、ひとりでもAIドリルで家庭学習ができる</p>  </div> </div>				
<p>主なKPI</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①AIドリルの利用率</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①小学校：全国学力・学習状況調査における正答率                  ②中学校：全国学力・学習状況調査における正答率                  ③利用者の満足度</p> </div> </div>				

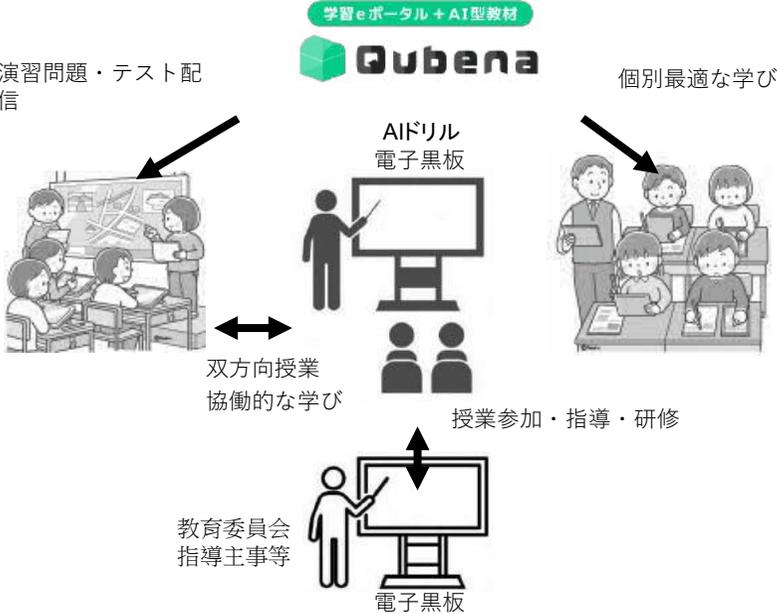
# 事業概要【すべての子どもを取り残さない教育DX推進事業】

自治体名	北海道富良野市	人口	19,883人	事業費	10,513千円
事業概要	<p>増加し続ける不登校児童生徒を対象に、仮想空間（メタバース）「オンラインの居場所」をつくり、学習支援や交流活動を行う他、民間の支援団体や地域特有の資源（博物館・富良野自然塾・富良野演劇工場）を活用した体験活動に誘導するなど、多様なつながりを形成する。また、学校においては、本市が目指す主体的・対話的で深い学びを実現するため、ICTを活用した授業改善が必須であり、そのために必要な条件整備を行う。</p>				
具体サービス	<p>【①メタバース「オンラインの居場所」の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メタバースとは、インターネット上の仮想空間で、利用者はアバターとよばれる分身を操作して空間内を移動し、他の参加者と交流する。</li> <li>教育支援センター内に、「オンラインの居場所」を整備し、不登校児童生徒に対し、学習支援や交流活動を行う他、この場所を入り口に民間の支援団体や地域特有の資源とつなげる。</li> </ul> <p>【②ICTを活用した授業改善に係る条件整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導者用デジタル教科書の整備</li> <li>大型提示装置（電子黒板等）の整備</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①メタバース「オンラインの居場所」年間200日開設 教育支援センター入室者数20名</li> <li>②デジタル教科書利用授業回数 年間200回</li> <li>③大型提示装置利用授業回数 年間200回</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①不登校児童生徒数の減少 64名⇒50名</li> <li>②デジタル教科書利用満足度 4ポイント（5段階）</li> <li>③大型提示装置利用満足度 4ポイント（5段階）</li> </ul>		

# 事業概要 【デジタル教材導入事業】

自治体名	北海道恵庭市	人口	70,348人	事業費	12,537千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想により整備された1人1台端末を活用して、市内小中学校全13校にAI型デジタルドリル及び授業支援ソフトを導入することで、児童生徒の学習進度および理解度に応じた「個別最適な学び」を推進し、併せてテストや宿題、学習教材のデジタル化により、教職員の負担軽減を進めるとともに、児童生徒が主体的に参加する「協働的な学び」の充実を図り、進んで学び、自らの道を切り拓く子どもの育成を目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【デジタルドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に準拠した主要教科の問題を搭載</li> <li>・AI機能により、児童生徒の学習理解度に応じて、応用問題や振り返り学習に適した出題が可能</li> <li>・児童生徒の学習履歴や進行度を可視化し、授業改善や家庭学習の課題作成に役立てる</li> <li>・自動採点機能や課題配信機能で、教員の業務負担を軽減</li> </ul> <p>【授業支援ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果物を共有したり、共同で作成することも可能</li> <li>・課題に取り組む様子を、教職員がリアルタイムで確認できる</li> <li>・手書きだけでなく、テンプレートの図形やイラスト、撮影した画像等の貼り付けもできる</li> </ul>		 <p>AI機能により 個人の理解度や レベルに合わせた 学習が可能</p> <p>児童生徒の学習 状況を可視化し、 授業にフィードバック</p> <p>簡易な操作で 配付や共有など の機能が使える</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタルドリル等の取組状況</li> <li>②児童生徒のICTを活用した授業の割合</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査の調査結果</li> <li>②標準学力検査（NRT）の結果</li> </ol>		

# 事業概要 【 ICT活用教育推進事業】

自治体名	北海道森町	人口	13,923人	事業費	31,515千円
事業概要	<p>当町の1人1台の学習用端末は、Wi-Fi環境がない場所でも月20GBまで利用できるようになっている。AIドリルを導入することにより、学習用端末の更なる利活用と個別最適な学びの支援を目指す。また、各小中学校に電子黒板を整備することにより、デジタル教科書の有効活用など授業のデジタル化を促進する。更に、教育委員会と連動することにより、指導主事等による遠隔での授業参加や教師への指導・研修など、授業改善が図られる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【AIドリル（Qubena）の導入】</b> 町内全小中学校に導入することにより、児童・生徒の家庭環境や特性に左右されず、「学びたい」という気持ちになったときに、いつでも学ぶことができる、個別最適な学び（AIが解析し、児童生徒一人ひとりに合わせた学び）を実現する。</p> <p><b>【電子黒板の導入】</b> 電子黒板を導入し、デジタル教科書を組み合わせることにより、児童・生徒に着目しなければならない箇所を示しやすくなるとともに、学習用端末を活用し双方向の授業や協働的な学びを実現する。また、教材の準備時間を軽減することにより、教師の働き方改革に寄与することができる。更に、教育委員会と連動することにより、遠隔での授業参加や教師への指導・研修を通して、授業力向上を図る。</p>				
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①AIドリル1日平均活用時間</li> <li>②授業における電子黒板の利用率</li> <li>③電子黒板を活用した指導主事等による1日複数回の授業参加等で使用した日数</li> </ul>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童・生徒のAIドリル使用に係る満足度</li> <li>②電子黒板利用の児童・生徒の満足度</li> </ul>		

# 事業概要 【奥尻町教育DX・Step-Up事業】

自治体名	北海道奥尻町	人口	2,292人	事業費	22,340千円
事業概要	奥尻町が誇る自然と歴史、人を敬う心を大切にしながら、ICTを活用することで、離島（離島山間部等）であるが故に町民が抱える教育課題を解消し、高度情報化やグローバル化等、急激な社会経済環境の変化の中でも、成長し続ける人材の育成を目指す。				
具体サービス	<p>① 「Web AI 塾」による（幼）・小・中・高一貫した学力向上対策強化 （含む、「Web教育DX支援センター」による現場（学校、家庭、教育委員会）支援強化）</p> <p>② 「Web STEAM学習」を活用した確かな情報活用能力育成</p> <p>③ 「Webキャリア教育」による発達段階に応じた進路意識醸成</p> <p><b>Web教育DX支援センターによる現場支援の強化</b></p> <p>行政・学校・家庭が取り組む教育DXを強かにサポート。マネジメント力の強化。</p> <p><b>Web「AI塾」、Web「STEAM学習」による学びの質の向上</b></p> <p>ICTを活用した学習効果の見える化、家庭学習を支える支援体制の整備。Society5.0時代に必須の情報活用能力の育成。</p> <p><b>Webキャリア教育による進路指導の強化</b></p> <p>Web進路体験と奥尻町ならではのリアル進路体験のBest-Mix。教育DX時代の進路学習による奥尻を支える、世界に羽ばたく人材の育成。</p>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>① AIドリル教材の学校外での活用日数</p> <p>② AIドリル教材の学校での活用日数</p> <p>③ Web教育DX支援センターの年間相談件数</p> <p>④ Web STEAM学習の実施時間数</p> <p>⑤ Webキャリア教育の実施時間数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>① 全国学力学習状況調査の結果</p> <p>② Web教育DX支援センターのサービスに対する住民の満足度</p> <p>③ Web STEAM学習に対する児童生徒の満足度</p> <p>④ Web STEAM学習に対する住民の満足度</p> <p>⑤ Webキャリア教育に対する児童生徒の満足度</p> <p>⑥ Webキャリア教育に対する住民の満足度</p>		

## 事業概要 【デジタルドリル導入事業】

自治体名	北海道島牧村	人口	1,287人	事業費	317千円
事業概要	<p>確かな学力の向上と家庭学習のさらなる定着のため、村内の小学校及び中学校にデジタルドリルを含むオールインワンソフトを導入することで個別最適な学びを提供し、学力及び学習意欲の向上を図る。</p>				
具体サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI搭載デジタルドリルアプリ</li> <li>・協働学習アプリ</li> <li>・授業支援アプリ</li> </ul> <p>学習eポータル「まなびポケット」経由で活用できるミライシードを導入することで、学習eポータルを起点とした学習が可能となり、児童生徒及び教員が複数のアカウントを持つことなくSSOでのログインが可能となり混乱することなく使用できる。 ドリルアプリでは宿題の配信が可能であることから端末の持ち帰り学習などでも活用できる。</p>		<pre> graph TD     A[学習eポータル] --&gt; B[ミライシード]     B --&gt; C[授業で活用]     B --&gt; D[帯学習]     B --&gt; E[家庭学習]     </pre>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①1週間あたりのアプリ起動回数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①家庭学習が身につけている児童生徒の割合 ②全国学力学習調査での各教科の勉強が好きな児童生徒の割合</p>		

# 事業概要【ICT教育推進事業】

自治体名	北海道岩内町	人口	11,111人	事業費	5,994千円
事業概要	<p>本町の教育執行方針では「タブレット型端末やデジタル教科書などを有効活用し、「Society5.0時代」にふさわしい学校づくりを目指す」としているため、一人一台端末を整備し、デジタル教科書を導入しておりますが、その効率的な運用に課題を抱えております。</p> <p>また、本町は過去3年間の全国学力・学習状況調査の結果を見ても、小中学校ともに全国平均を下回っている状況にあることから、学力の低下も課題として挙げられます。本事業は、「デジタルドリル」及び「指導者用デジタル教科書（教材）」の導入によって、タブレット型端末等を効率的に運用し、学力の向上、児童生徒一人ひとりの深い探求の学びの実現を図るものです。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【デジタルドリルの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校と家庭のシームレスな学習環境の実現（学習支援）</li> <li>デジタルドリルはオフライン環境にも対応したものを使用</li> <li>学習状況の把握により、児童生徒の特性に応じた個別最適な学びを実現（学習支援）</li> <li>教員のDX活用能力の向上（校務DX）</li> <li>教具準備の負担軽減（校務DX）</li> </ul> <p>【指導者用デジタル教科書（教材）の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が使用する教科書と連動しているため、授業進度に応じて最適な学びを提供（学習支援）</li> <li>紙面だけではわかりにくい情報、例えば、外国語の発音や場面に応じた会話でのやりとりなどをわかりやすく表現できる（学習支援、校務DX）</li> <li>教具準備の負担軽減（校務DX）</li> </ul>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>学校</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルドリルでタブレット型端末を有効活用</li> <li>指導者用デジタル教科書（教材）を併用することで学力向上を促進。教員の業務負担軽減も。</li> </ul> </div> <div style="font-size: 2em; color: orange;">➔</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>家庭</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルドリルをインストールしたタブレット型端末を持ち帰ることで、シームレスな学びの実現</li> <li>家庭学習の定着により、学力向上を図るとともに、課題準備にかかる教員の業務負担を軽減</li> </ul> </div> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; width: 45%; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>学校</b></p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルドリルの解答状況等をデータベース化し、学習状況を把握することで、個別最適な学びを実現</li> </ul> </div>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタルドリルの活用時数</li> <li>②指導者用デジタル教科書（教材）の活用時数</li> <li>③宿題のデジタル化率</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力テストの平均点向上</li> <li>②児童生徒の満足度向上</li> </ol>			

# 事業概要 【ICTの活用による学力向上事業】

自治体名	北海道上砂川町	人口	2,474人	事業費	2,514千円
事業概要	<p>AIドリルの導入により、児童生徒一人ひとりの特性に合わせ、最も適した学習支援を行う。さらに、校務支援システムを活用することで生徒情報の管理業務を効率化、一元管理することで、校務を効率化し、より多くの時間を児童生徒や保護者と向き合うために利用できると考えている。結果として、学習成果の向上やいじめ問題の解決に向けた取組がより効果的に進むことが期待される。このことから、児童生徒と保護者にとってより良い教育環境の実現を目指す。</p>				
具体サービス	<p>【AIドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人1台のタブレット端末を活用し、演習問題や宿題を一括配信</li> <li>児童・生徒の回答を自動採点、学習状況をクラウドで管理</li> <li>導入対象者数 小学校児童：71名 中学校生徒：40名</li> </ul> <p>【校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒情報の管理、出欠管理、成績管理、指導要録、健康記録など子ども1人ひとりの情報を校務支援システムによりデータで管理、一元化し業務を効率化する</li> <li>クラウドベースのシステムであり、教育情報セキュリティポリシーに関するガイドラインなど文科省から示されているセキュリティ要件に合致している</li> </ul>		<p>The diagram illustrates the integration of technology in education. At the top, 'Qubena' (represented by a brain icon) provides '習熟度に応じた問題の提供と回答' (personalized question provision and answers) to '児童・生徒' (children/students), resulting in '学力向上' (academic improvement). A downward arrow from Qubena indicates '苦手の原因提言' (recommendations for reasons of difficulty) to '教職員' (teachers). The '校務支援システム' (school support system), shown as a cloud icon, manages '校務データのクラウド管理' (cloud management of school data) and connects '教職員' and '教育委員会' (education committee) through '連携' (collaboration). This system leads to '授業の質・向き合う時間の向上' (improvement in lesson quality and time spent interacting).</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学期ごとのAIドリル使用状況</li> <li>②児童生徒・保護者との対話機会の増強</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査(小6・中3)の調査結果</li> <li>②児童生徒に対する学校アンケートの結果</li> </ol>		

# 事業概要 【電子黒板導入によるICT活用推進事業】

自治体名	北海道浦臼町	人口	1,605人	事業費	7,865千円
事業概要	<p>学校のICT環境整備や教職員のICT指導体制が十分ではないため、整備されていない電子黒板をGIGAスクール構想に基づき整備したタブレット端末と併せて運用することで、児童生徒のICT機器利用率の改善、教職員のICT活用指導力向上を目指す。また、遠隔合同授業の実施、吹雪や感染症等による臨時休校時、不登校児童生徒の対応などオンライン通信による学習機会を構築し、児童生徒へのICTを活用した教育を推進する。</p>				
具体サービス	<p>【学習環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習などの資料の作成、発表</li> <li>中学生が教える小学生のオンライン学習会の実施</li> <li>オンラインによる小学校、中学校乗り入れ授業の実践</li> <li>交流地域の学校と遠隔合同授業の実施</li> <li>臨時休校時や不登校児童生徒の学習機会の構築のために別教室や家庭へのオンライン配信</li> </ul> <p>【教職員の研修体制の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT環境を活用する研修会の実施</li> <li>小中学校教員合同研修会の実施</li> <li>実践例の共有とソフトを使った詳細研修</li> </ul>	<p>授業配信・電子黒板による協働作業</p> <p>中学校・他地域学校との遠隔合同授業の実施</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板を利用した授業の回数</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力学習状況調査による評価</li> <li>②電子黒板・タブレットの利用満足度</li> <li>③ICT機器の授業での使用頻度</li> </ol>			

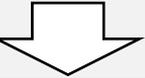
# 事業概要 【デジタルの活用による教育環境等充実事業】

自治体名	北海道東川町	人口	8,568人	事業費	17,646千円		
事業概要	<p>東川町は、子育て環境の良さなどから、子育て世代等の移住者が増加し（1993年：7,063人→2023年8,589人）、それに伴い、子どもの数も増加（毎年出生数約40名→小学校入学時80名程度で毎年40名程度増）している。このような状況の中で、様々な環境で育った多様な子どもがおり、特別支援が必要な子どもの割合も多く、個に応じた最適な学びの提供が大きな課題となっていることから、ICTによる学習支援サービスを活用することで、課題解決に取り組む。具体的には、GIGAスクール事業で整備した学習者用端末で利用できるデジタルドリルを導入するほか、学習支援教材やデジタル教科書の活用により、デジタル教育環境の充実を図る。また、校務支援システムの活用により児童生徒の個別データの蓄積や可視化を行い、児童生徒をより理解しながら、個別最適な学びの提供を行うほか、保護者間連絡用ICTの活用により保護者への迅速な情報共有や、保護者の負担軽減について取り組む。</p>						
具体サービス	<p>【学習支援サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIドリル（Qubena） つまづきや、個別課題を把握し、個別最適な学びを実現するとともに、児童生徒の興味関心を喚起し、自ら学び考えることで、学習内容の定着を図る。</li> <li>・教師用指導用デジタル教科書（EduMall） 確かな学力向上を実現するため、国語・算数・理科・社会・地図のデジタル教科書を活用し、デジタル教育の充実を図る。</li> <li>・デジタル英語教材（SWITCH ON!） 確かな学力向上を実現するため、英語のデジタル教材を活用し、デジタル教育の充実を図る。</li> <li>・集合学習用プロジェクター 東川小学校における学年による集合学習や町内小学校合同の集合学習、学校行事等など、協働的な学びを行う際に体育館で投影できるプロジェクターを設置。</li> </ul> <p>【校務支援システムによるデータの可視化・活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名簿情報管理、出欠席情報管理、成績管理、通知表作成、指導要録などをデータ管理・蓄積による生徒の個別データの可視化・活用による個別最適の学びの機会提供。</li> </ul> <p>【保護者間連絡用ICT活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アプリへのお知らせ一斉配信、アンケート配信・自動集計、欠席・遅刻受付などICT活用により、情報伝達の利便性の向上。</li> </ul>		<div style="text-align: center;"> <p>＜現 状＞</p> <p>移住者が多く、様々な環境で育った多様な子どもが多い</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>＜課 題＞</p> <p>個に応じた最適な学びの提供が大きな課題</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>個別最適化・協働化された学びの提供</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>＜学習支援サービス＞</p> <p>AIドリル（Qubena）・教師用指導用デジタル教科書 デジタル英語教材・集合学習用プロジェクター</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p><b>児童生徒データの蓄積・可視化、保護者への迅速な情報共有・負担軽減</b></p> </div> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <p>＜校務支援システム＞</p> <p>名簿情報管理、出欠席情報管理、成績管理、通知表作成、指導要録など</p> </td> <td style="width: 50%; text-align: center;"> <p>＜保護者間連絡用ICT＞</p> <p>保護者アプリへのお知らせ一斉配信、アンケート配信・自動集計、欠席・遅刻受付など</p> </td> </tr> </table>			<p>＜校務支援システム＞</p> <p>名簿情報管理、出欠席情報管理、成績管理、通知表作成、指導要録など</p>	<p>＜保護者間連絡用ICT＞</p> <p>保護者アプリへのお知らせ一斉配信、アンケート配信・自動集計、欠席・遅刻受付など</p>
<p>＜校務支援システム＞</p> <p>名簿情報管理、出欠席情報管理、成績管理、通知表作成、指導要録など</p>	<p>＜保護者間連絡用ICT＞</p> <p>保護者アプリへのお知らせ一斉配信、アンケート配信・自動集計、欠席・遅刻受付など</p>						
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①AIドリルを活用した授業回数</li> <li>②校務支援システムデータを活用した個別指導の回数</li> <li>③保護者連絡のデジタル化率</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査における正答率の向上</li> <li>②校務支援システムデータを活用した児童生徒面談による満足度の向上</li> <li>③保護者間連絡用ICTアプリの利用満足度の向上</li> </ol>				

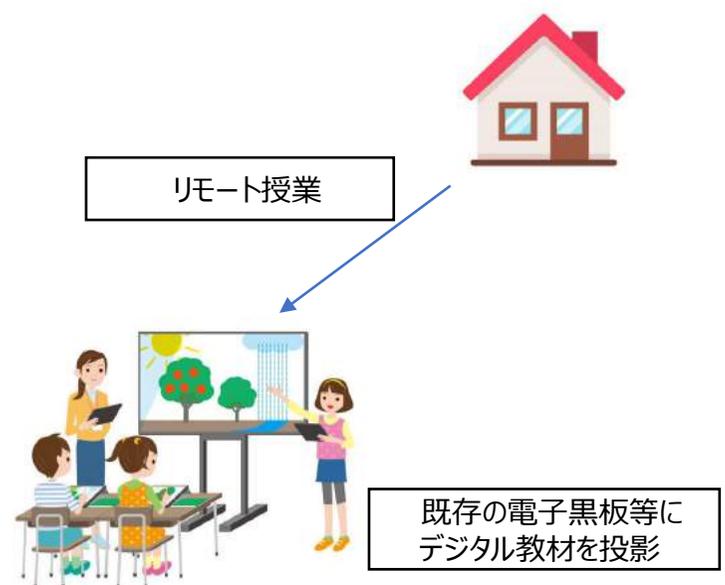
# 事業概要 【羽幌町GIGAスクール運営事業】

自治体名	北海道羽幌町	人口	6,154人	事業費	4,473千円
事業概要	<p>現在当教育委員会では、1人1台タブレットの整備が終わり、その「効果的な活用」や「日常的な活用」が町内各学校共通の地域課題として求められている。このことから、町内各学校における一人一台端末環境の安定的な運用を図ることを目的とし、タブレット端末を効果的に活用するための学習支援システムや電子黒板を導入するもの。児童生徒の学力向上、デジタル教科書の有効活用、教職員の指導体制の充実化を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【学習支援システム・各種電子機器の導入】</p> <p>○AIドリルの導入</p> <p>学校での学習のほか、家庭での宿題等、個別学習にも対応しているもので、児童生徒の学力向上だけでなく、教員の指導方法の改善にもつながるものであり、教育情報化の一つのツールとして活用する。</p> <p>○電子黒板の設置</p> <p>電子黒板にタブレット画面のミラーリングやデジタル教科書や教材を画面に反映させることが容易にでき、画面に書き込みながら指導ができるため、ICT教育に適した授業環境を構築できる。</p>		<p>電子黒板での授業</p> <p>タブレット端末の有効活用 (デジタル教科書)</p> <p>個別学習による 学力の向上</p> <p>タブレット学習 (AIドリル)</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①AI学習支援システムのアクセス数</p> <p>②電子黒板を使用した授業数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①AI学習支援システム利用満足度</p> <p>②電子黒板使用による授業理解度</p>		

# 事業概要 【学校DX推進事業】

自治体名	北海道斜里郡斜里町	人口	10,731人	事業費	38,044千円
事業概要	ICT機器等の整備拡充により、GIGAスクール構想において整備を行った1人1台端末の活用頻度を高め、双方向型の主体的・対話的で深い学びを実現する。				
具体サービス	<p>【AIドリル等整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIドリル整備</li> <li>1人1台端末フィルタリング整備</li> </ul> <p>【電子黒板・教育支援アプリ整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板整備</li> <li>書画カメラ兼オンライン授業用WEBカメラ整備</li> <li>教育支援アプリ（ロイロノート）整備</li> </ul>	<p>【地域の課題】 ICT機器の整備やGIGAスクール構想による学習環境の向上が遅れており、教育格差が拡大している。</p> <p>【住民の困りごと】 ICT機器の整備が遅れていることで、児童生徒が最新テクノロジーを活用した学習にアクセスできず、学習機会の不均等が生じている。</p> <p style="text-align: center;">学校のDXを推進し課題解決する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>学校</p> <p>電子黒板や教育支援アプリによる、双方向型授業の展開</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>家庭</p> <p>自宅からオンライン授業の参加、AIドリルによる家庭学習</p> </div> </div>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>電子黒板の使用率</li> <li>AIドリルへのアクセス数</li> <li>教育支援アプリ（ロイロノート）の活用回数</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>電子黒板の利用満足度</li> <li>全国学力・学習状況調査（小6・中3）の調査結果</li> <li>教育支援アプリ（ロイロノート）の利用満足度</li> </ol>			

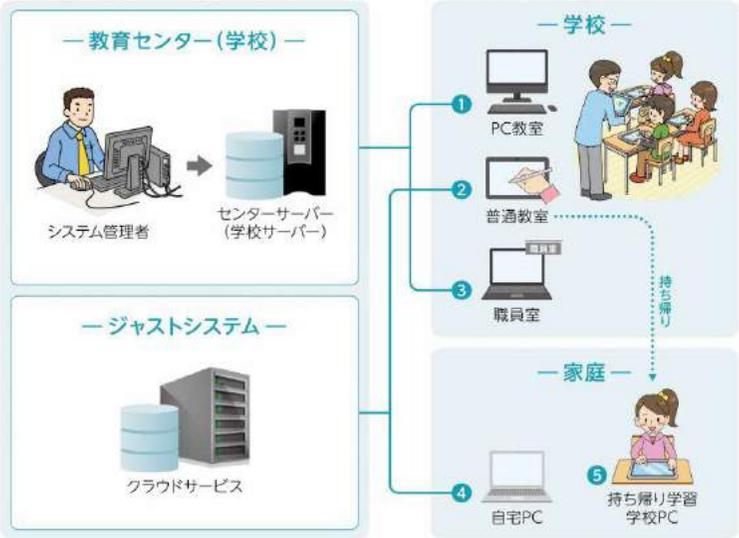
## 事業概要 【教師用デジタル教材導入事業】

自治体名	北海道日高町	人口	11,130人	事業費	12,836千円
事業概要	教師用デジタル教材を導入することにより、魅力的な授業を提供し、児童の学習理解度を高め、ひいては、効率的な学びを実現し、学力向上を図る。				
具体サービス	令和6年度に改訂される小学校用教科用図書に対応した教師用デジタル教材を導入することにより、授業のICT化を図り、教職員のICT機器を活用した授業（リモート授業等も含む）に係るスキルアップを図る。また、児童生徒についても貸与しているタブレット端末の利用機会を増大させICT機器への順応性を高めるなど、教育現場における授業改善と学習効率の向上が可能となる。		 <p>リモート授業</p> <p>既存の電子黒板等にデジタル教材を投影</p>		
主なKPI	【アウトプット指標（活動指標）】 ①教師用デジタル教材の利用率		【アウトカム指標（成果指標）】 ①教師用デジタル教材を用いた授業の理解度 ②学力テストの平均点の向上		

# 事業概要 【教育DX推進事業】

自治体名	北海道河西郡芽室町	人口	17,950人	事業費	4,949 千円
事業概要	<p>主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業支援ソフト（ロイロノート）の導入、電子黒板の導入、地域副読本のデジタル化を通して、個別最適な学びと協働的な学びを一体的な充実を図り、学力の向上の実現と、新しいデジタル社会で活躍する人材を育成する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【授業支援ソフト（ロイロノート）の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・双方向的授業の実現、個性と学びあいを一体的に可視化する授業支援ソフト（ロイロノート）を導入する。</li> <li>・教材配布と回収・回答を一覧にして共有し学びあう、児童生徒の協議をリアルタイムに共有、提案・発信のツールなどの活用により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を図る。</li> </ul> <p>【電子黒板の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備されていない学級に導入。特に複式学級における「わたりの授業」の際に、必ずしも教師が指示・指導できない時間において、児童生徒がより主体的で対話的な活動を行うために電子黒板を活用し、電子黒板が学びのプラットフォームとなる学びを実現する。【地域副読本のデジタル化】</li> <li>・小学校3～4年生社会科教材の地域副読本をデジタル化し、1人1台端末ならではの様々な機能を活用し学習の定着を図る。</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業支援ソフトの利用日数</li> <li>②電子黒板活用日数</li> <li>③デジタル地域副読本を活用した授業時数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査質問紙：授業が分かると感じる児童生徒の増加。</li> <li>②全国学力・学習状況調査質問紙：ICT機器を活用していると感じる児童生徒の増加。</li> </ol>		

# 事業概要 【個別最適化学習のためのAI型学習ドリルの導入】

自治体名	北海道本別町	人口	6,190人	事業費	3,417千円
事業概要	<p>本事業では、町内小中学校における授業中の教材、宿題、家庭学習等への利用のためAI型学習ドリルを導入し、児童・生徒の学びを個別に最適化することを目指す。学習ドリルは、児童・生徒の学習状況に合わせて問題を出題し、適切な学習指導の実効を目的とする。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>AI型学習ドリルの導入により、学年や学習目標に合わせて提供される問題集が、基礎的な知識と問題解決能力の向上を支援</p> <p>学習状況と進度に応じて最適な問題や学習プランが提供され、AIは学習データを分析して誤答傾向や苦手な分野を把握し、それに基づいてカスタマイズされた問題集や学習指導を提供</p> <p>さらに、学習データの分析結果や正答率、学習時間などが可視化され、児童・生徒、保護者、教育者に提供</p> <p>これにより、学習の理解度や進捗状況を把握し、必要なサポートや指導を行うことが実現</p> <p><b>【AI型学習ドリル】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校（全学年）～スマイルネクストドリル</li> <li>・ 中学校（全学年）～eライブラリアドバンス</li> </ul> <p><b>【対象科目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校～国語、算数、理科、社会、英語</li> <li>・ 中学校～国語、数学、理科、社会、英語 保健体育、技術家庭、音楽、美術</li> </ul>		<p>スマイルネクスト（ドリル学習）小学校</p>  <p>参考資料 JUST SYSTEMS スマイルネクストドリル学習</p>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①AIドリルの利用実績（家庭学習時間）</p>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①全国学力・学習状況調査における成績の向上 ②AI型学習ドリルの利用満足度</p>		

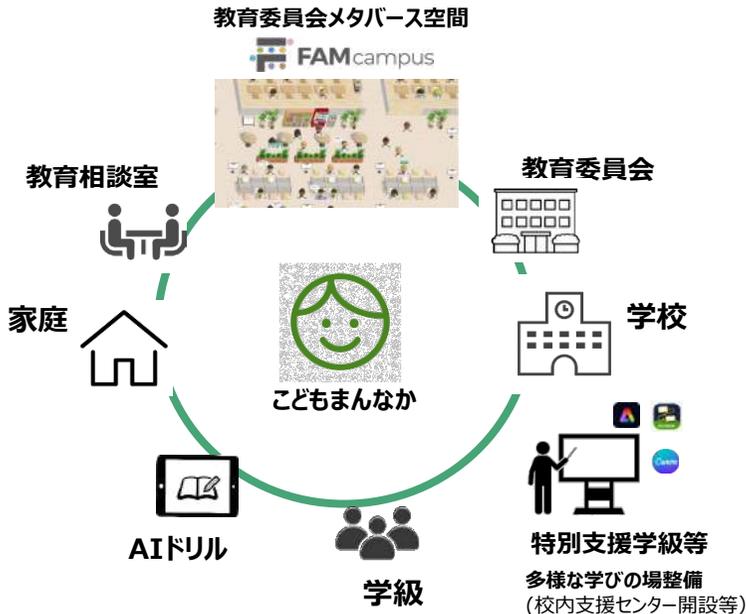
# 事業概要【県立学校DXスタートアップ事業】

自治体名	青森県	人口	1,207,096人	事業費	75,695千円
事業概要	<p>本県において学校と家庭が一体となって、デジタル社会やグローバル社会を生き抜くことができる多種多様な人材を育成するため、県立学校にデジタル教材、自動採点システムを導入し、児童生徒が自分の学習状況を把握したり教職員が個別最適な学習を支援したりすると同時に、校務の効率化、省力化を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。また、児童生徒及び保護者等とデジタルツールを活用して学校との情報連携を深めていき、学びと校務の両面から教育DXを推進する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【デジタル教材の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「情報Ⅰ」のデジタル教材を導入し、プログラミングやデータサイエンス等の実践力を備えた学力向上を図る。（対象：教育課程に「情報Ⅰ」を設定している県立高等学校39校）</li> <li>「外国語（英語）」のデジタル教材を導入し、生徒個々のレベルに合わせて技能強化を図る。（対象：県立高等学校のモデル校12校）</li> </ul> <p>【校務ツールのデジタル化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動採点システムを導入し、採点業務の効率化、省力化を図る。（対象：全県立高等学校）</li> </ul>		<p>児童生徒、家庭と教職員が一体となった教育DXの実現</p> <p>クラウドツール（学習、校務）</p> <p>デジタル人材 グローバル人材</p> <p>個別最適な学び</p> <p>児童生徒 デジタル教材 （情報、外国語）</p> <p>学校</p> <p>家庭</p> <p>働き方改革</p> <p>情報の共有</p> <p>教職員 自動採点システム</p> <p>保護者連絡ツール （※県事業として実施）</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタル教材使用時間（情報Ⅰデジタル教材）</li> <li>②CEFR A2レベル（英語デジタル教材）</li> <li>③自動採点システムの利用率</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の授業満足度</li> <li>②全国学力・学習状況調査の全国平均との差</li> <li>③テスト返却までの時間割合</li> </ol>		

# 事業概要 【学力向上対策事業（A I デジタルドリル教材）】

自治体名	青森県十和田市	人口	58,383人	事業費	2,223千円
事業概要	<p>A I デジタルドリルを導入することにより、各教科において個別最適な学びを実現させ、主体的に学ぶ意欲とその機会を保障し、学力の確実な定着と向上を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【市立中学校にA I デジタルドリルを導入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の理解度に応じた問題演習が可能となり、個別最適な学びが可能となる。</li> <li>・総合学力調査の結果に応じたA I デジタルドリルの活用が可能となり、個々の結果に応じた学習を進めることができる。</li> <li>・特別な配慮が必要な生徒や不登校生徒も、個に応じた学習を進めることができる。</li> <li>・生徒の学習状況の把握、問題作成や採点、分析に要する時間が大幅に削減され、教員の負担軽減となる。</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】 AIデジタルドリルの起動時間（1週間あたり）</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】 アンケート評価（5段階評価） 全国学力・学習状況調査の全国到達率</p>			

# 事業概要 【むつ市こどもまんなかICT学習環境整備事業】

自治体名	青森県むつ市	人口	52,836人	事業費	59,746千円
事業概要	<p>不登校または不登校傾向を示す児童生徒が増加傾向にあり、すべての子に多様な学びの場を保障することが喫緊の課題である。一人一台端末を活用したメタバースによる不登校児童生徒への支援、校内支援センター開設等の学校内での多様な学びの場の保障、AIドリルを活用した個別最適な家庭学習の充実など、こどもをまんなかに据えたICTの環境整備を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【メタバースを活用した不登校支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不登校支援を目指したメタバース空間の提供</li> </ul> <p>【授業支援システムを活用した双方向型学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業支援システム（ロイロノート、Canva、Adobe Express）の配備</li> </ul> <p>【AIドリルを活用した個別最適化学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AI機能搭載のデジタルドリルの配備</li> <li>市学力調査とID連携し、個別最適な学びを支援</li> </ul> <p>【大型提示装置を活用した学習支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通常学級分の電子黒板及び大型提示装置を配備し、個別最適な学びの具現化を図る。</li> </ul>	 <p>The diagram illustrates a central hub-and-spoke model for ICT learning environment preparation. At the center is the 'こどもまんなか' (Kodomomanna) logo, representing the child. Surrounding it are various stakeholders and services, all connected by a green circular line. Clockwise from the top: '教育委員会メタバース空間' (Education Committee Metaverse Space) with 'FAMcampus' logo; '教育相談室' (Education Consultation Room) with an icon of two people; '教育委員会' (Education Committee) with a building icon; '学校' (School) with a school building icon; '特別支援学級等 多様な学びの場整備 (校内支援センター開設等)' (Special Support Classrooms, etc. Preparation of diverse learning environments (including in-school support center opening, etc.)) with an icon of a teacher at a whiteboard; '学級' (Classroom) with an icon of three people; 'AIドリル' (AI Drill) with a tablet icon; '家庭' (Home) with a house icon; and '教育相談室' (Education Consultation Room) with an icon of two people. At the top, '教育委員会メタバース空間' (Education Committee Metaverse Space) is also connected to 'FAMcampus'.</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①メタバース授業利用率</li> <li>②AIドリル利用件数</li> <li>③ロイロノートログイン率</li> <li>④大型提示装置活用件数</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①メタバースの児童生徒の満足度</li> <li>②AIドリルの児童生徒の満足度</li> <li>③ロイロノートの児童生徒の満足度</li> <li>④大型提示装置の児童生徒の満足度</li> <li>⑤市学力調査の平均正答率</li> <li>⑥全国学力・学習状況調査 質問紙調査の肯定的な回答率</li> </ol>			

# 事業概要 【校務支援システム導入事業】

自治体名	青森県むつ市	人口	52,836人	事業費	14,556千円
事業概要	<p>児童生徒の多様化・複雑化（不登校、特別支援、家庭環境等）する問題に対して、限られた時間の中で適切に対応するため、市内全小中学校（21校）に統合型校務支援システムを導入し、教職員が事務処理に費やす時間や負担を軽減し、その分を本来担うべき子どもたちに向き合う時間の十分な確保やデータベースで一元管理された情報を活用することにより教育の質の向上を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内全小中学校（21校）に統合型校務支援システムを導入（小学校12校、中学校9校）</li> <li>事務処理時間を短縮し、児童生徒と向き合う時間を十分に確保する</li> <li>児童生徒の成績や日々の様子などの情報をデータベースで一元管理し、一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導や生活指導に活用する</li> </ul>		<p>児童生徒との向き合う時間の十分な確保 教育の質の向上</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>校務支援システム活用率（指導要録等の作成）</li> <li>校務支援システム活用率（学習指導、生活指導）</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学校での相談支援に対する児童生徒の満足度</li> <li>先生の学習指導に対する児童生徒の満足度</li> <li>市学力調査の平均正答率</li> </ol>		

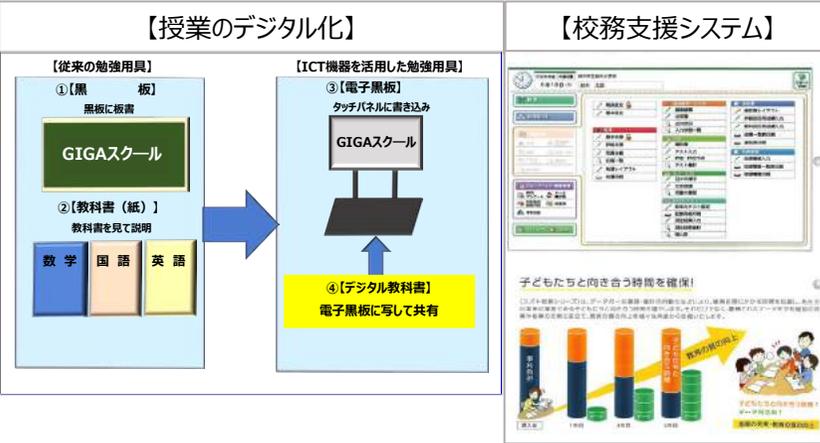
# 事業概要 【学校教育DX推進事業】

自治体名	青森県板柳町	人口	12,457人	事業費	3,660千円
事業概要	<p>教員の校務環境を改善し、児童生徒への教育活動の質を高めるため、校務データが連動し一括処理することが可能な統合型校務支援システムを導入する。また、学校・保護者間連絡システムではコドモンを導入し、学校・保護者間の情報連携をより深めるとともに、スクールバスの乗降管理、学童クラブの利用者管理等の安全性に配慮した運用を図るなど、ICTの利点を最大限活かしていく。なお、コドモンは町内の民営保育所で導入済みであり、一層の利便性や円滑な運用が図られる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【統合型校務支援システム】 中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績処理や健康管理など各校務をシステム化し、業務の効率化と教育情報セキュリティポリシーに関するガイドラインを遵守したセキュリティ強化を図る</li> <li>・中学校では教育情報との連携を見据えたクラウド型システムを導入する（小学校は将来導入予定）</li> </ul> <p>【保護者連絡システム】 小学校4校・中学校1校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アプリへのお知らせ一斉配信</li> <li>・アンケート配信・自動集計</li> <li>・欠席・遅刻受付</li> <li>・学童クラブ（4箇所）の利用者管理</li> <li>・連絡帳（小学校、学童）</li> <li>・中学校バス乗降者管理（2台運行、QRコードで乗降の記録等）</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒に向き合う時間数</li> <li>②保護者アプリのユーザー登録累計数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①サービスに関する満足度（保護者）</li> <li>②サービスによる保護者への配信数累計</li> <li>③バス運行管理サービス利用に伴う保護者の安心度</li> </ol>		

# 事業概要 【校務支援システム導入事業】

自治体名	青森県五戸町	人口	15,676人	事業費	19,432千円
事業概要	管内小中学校に統合型校務支援システムを整備することにより、従来、教職員が個別作業で行っている「生徒情報の管理」「出欠管理」「成績管理」「指導要録」等の業務において、システムによる一元化により、業務時間削減が可能となり、児童生徒と向き合う時間が増えることによって、学力の向上やいじめ対策などさらなる教育活動の充実が図られる。				
具体サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒情報の管理 児童生徒の住所や氏名など基本的な情報のほか、学習や生活の状況など共有し、生徒指導に活用。</li> <li>・出欠管理 児童生徒の出席、欠席、遅刻、早退の情報を管理登録し、成績処理、指導要録、進路指導等で活用。</li> <li>・成績管理 定期テストの結果や日常の学習への取組状況等を様々な評価方法と組み合わせて処理し、評価評定を行う。</li> <li>・通知表・指導要録の作成 登録しやデータに評価・評定や所見を入力することで、通知表や指導要録、調査表を作成できる。</li> </ul>				
主なKPI	【アウトプット指標（活動指標）】 ①面談時間・回数の増加		【アウトカム指標（成果指標）】 ①全国学力・学習状況調査（学力向上） ②児童生徒質問紙調査（肯定的回答率向上） ③児童生徒とのコミュニケーション強化		

# 事業概要 【学校教育環境DX促進事業】

自治体名	青森県階上町	人口	12,754人	事業費	39,871千円
事業概要	<p>デジタル機器及びICTの活用をより学校生活に「定着」させる。「電子黒板及びデジタル教科書」を導入し、GIGA端末と組み合わせることで授業をデジタル化し、より効果的な授業を行う。また、校務支援システムにより事務作業を効率化し、教員が児童生徒と向き合う時間を創出。デジタル機器及びICT活用を定着させ、恒常的な端末持帰り学習や、面談のオンライン実施を目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【授業のデジタル化】</b> GIGAスクール構想で導入したタブレットと組み合わせることで、より効果的な授業を実施するため、町内小中学校へ電子黒板及びデジタル教科書を導入し、デジタル機器とICTの活用をミックスした授業を実施する。</p> <p><b>【校務支援システム】</b> 事務作業を効率化することで、教員が児童生徒と向き合う時間を創出する。校務支援システムを活用し、全児童生徒の日常の様子・変化を記録することで、全教員がシームレスに情報共有可能となり、一人一人の児童生徒に対し、それぞれの傾向に応じた支援対応、教育を実施することができる。また、保護者への通知をシステム経由に置き換えることで、学校・保護者間の情報伝達を円滑なものとする。</p>				
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①1校当たりの電子黒板利用授業数</li> <li>②1校当たりのデジタル教科書の利用授業数</li> <li>③1校当たりの端末の持帰り学習の実施回数</li> <li>④1校当たりの校務支援システムを活用した指導回数</li> <li>⑤1校当たりの校務支援システムを活用し通知書等を作成した割合</li> </ul>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板・タブレット等使用の満足度（児童生徒）</li> <li>②家庭での学習方法等に変化があると感じる保護者の割合</li> <li>③児童生徒と向き合う時間の増加数</li> <li>④児童生徒の個別指導対応における満足度</li> <li>⑤学校からの通知書等が分かり易くなったと感じる保護者の割合</li> </ul>		

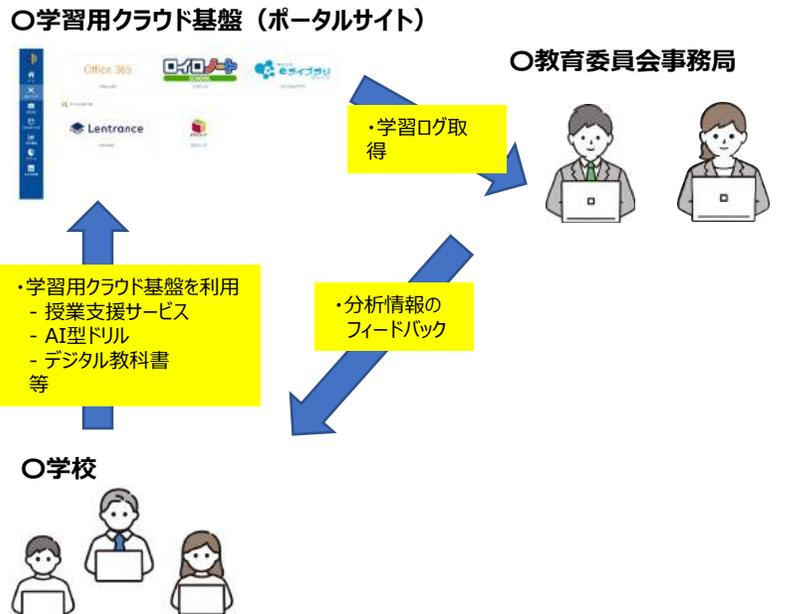
# 事業概要 【デジタル技術を活用した学校教育の情報化】

自治体名	岩手県盛岡市	人口	282,922人	事業費	68,957千円
事業概要	<p>児童生徒の学力や日常的な行動、心身の健康状態などの多様な情報を、学校や市町村、又は県単位で一元管理・共有・発信・受信することができる全県統一の統合型校務支援システムを県と市町村が連携して導入することにより、データ分析等による多様な児童生徒個々に応じた指導など、学習指導要領が目指す「個別最適な学び」を実現するための指導改善等に役立て、当市を含めた岩手県教育の質的な向上を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒に関する学力や健康診断等の情報を一元管理することにより、多様な児童生徒個々に応じた指導改善等が可能になる。</li> <li>全県統一システムとすることで、市町村域を越えた転校などの際にも、データ連携によるスムーズな手続等が可能になる。</li> <li>中高のデータ連携を行うことで、高校受検時の生徒個々の調査書や指導要録等のデータによる提供など、スムーズな手続等が可能になる。</li> <li>システムに保護者連絡ツールを導入することにより、保護者の学校への欠席連絡等の負担が軽減できる。</li> </ul>		<p style="text-align: center;"><b>岩手県クラウド統合型校務支援システム</b></p> <p style="text-align: center;">県内どこの学校でも 同じシステムが使えます</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①出勤日に校務支援システムを毎日利用した教職員数</li> <li>②指導要録の電子原本化を行った学校数</li> <li>③保護者連絡のデジタル化率</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合</li> <li>②授業等でICT機器を活用し、児童生徒にICT活用について指導できる教員の割合</li> </ol>		

# 事業概要 【新聞活用支援ツール（+日報）を活用した探求学習プログラム事業】

自治体名	岩手県宮古市	人口	46,939人	事業費	1,934千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想で整備したタブレットを活用し、児童生徒一人ひとりの興味関心に応じた探求学習、実生活や地域の課題解決に向けた協働的な学び、過去の災害を知り伝承する学び、郷土愛の醸成等を推進するため、新聞の紙面データベース検索機能やデジタル版記事を活用できる環境整備を行う。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【紙面データベース検索機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩手日報に掲載された地域ニュースから政治・経済・文化・スポーツまで、幅広いテーマの記事をキーワード検索できる。</li> </ul> <p>【岩手日報デジタル版】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紙面をデジタル版で読むことができる。</li> </ul> <p>【記事の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タブレットに導入済みの学習支援ソフト「ロイロノートスクール」を活用して記事を取り込むことができ、簡単にスクラップや線引き、要約・意見の書き込み等を行い、交流することができる。</li> </ul>		 <p>【紙面データベース検索機能】</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①一定期間（7月・11月・3月）における利用回数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①新聞活用支援ツール（+日報）の満足度 ②全国学力・学習状況調査の正答率</p>		

# 事業概要 【学習用クラウド基盤導入事業】

自治体名	岩手県久慈市	人口	32,061人	事業費	7,995千円
事業概要	<p>当市は、知識・技能、思考・判断・表現が得意な児童・生徒の割合が全国平均を下回っている。G I G Aスクール構想において整備された一人一台端末をより有効に活用し、学習履歴を集計・分析が可能となる環境を構築することで、教職員が児童・生徒の学習状況や習熟度を把握し、クラスの理解度に合わせた授業実施、家庭学習の充実を図り、児童生徒の学校への満足度向上を目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【1. A I型ドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIドリル、学習者用デジタル教科書・デジタル教材を活用する学習用クラウド基盤として、ポータルサイトを構築する。</li> <li>・紙のドリルをデジタル化するため、A I型ドリルを導入する。</li> </ul> <p>【2. 学習者用デジタル教科書・デジタル教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書等のデジタル教材を導入する。</li> </ul>		 <p>○学習用クラウド基盤（ポータルサイト）</p> <p>○教育委員会事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ログ取得</li> <li>・学習用クラウド基盤を利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 授業支援サービス</li> <li>- AI型ドリル</li> <li>- デジタル教科書等</li> </ul> </li> <li>・分析情報のフィードバック</li> </ul> <p>○学校</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ポータルサイト 各クラウドサービスの起動回数</li> <li>②A I型ドリル 教職員からの学習指示回数</li> <li>③A I型ドリル 児童生徒の問題実施回数</li> <li>④クラウド型デジタル教科書の利用回数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒のICT活用を指導することができる教職員の割合</li> <li>②ICTを活用した授業に関する積極肯定回答率（小学校）</li> <li>③ICTを活用した授業に関する積極肯定回答率（中学校）</li> </ol>		

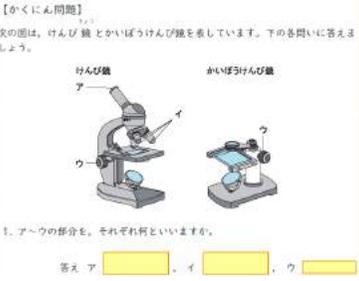
## 事業概要 【電子黒板を活用した効果的・効率的な授業展開】

自治体名	岩手県陸前高田市	人口	17,689人	事業費	6,996千円
事業概要	小中学校の特別支援学級において障害等により配慮が必要な児童生徒の学習の手助けとするために、新たに電子黒板を導入することで、児童生徒のニーズに応じた学習・生活指導をより充実させる。視覚的に分かりやすい授業や他校との同時双方向型のオンライン通信により、質の高い教育環境を整備する。				
具体サービス	<p>電子黒板導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板等のICT機器を整備</li> <li>・特別支援学級におけるICT活用授業</li> <li>・授業においてデジタル教材と組み合わせた同時双方向授業</li> <li>・配慮が必要な児童生徒への授業</li> <li>・他校とのオンライン通信</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別支援学級におけるICT活用授業の実施回数</li> <li>②他校とのオンライン通信回数</li> <li>③</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別支援学級におけるICT活用授業に対する児童生徒の満足度</li> <li>②他校とのオンライン通信に対する児童生徒の満足度</li> <li>③</li> </ol>		

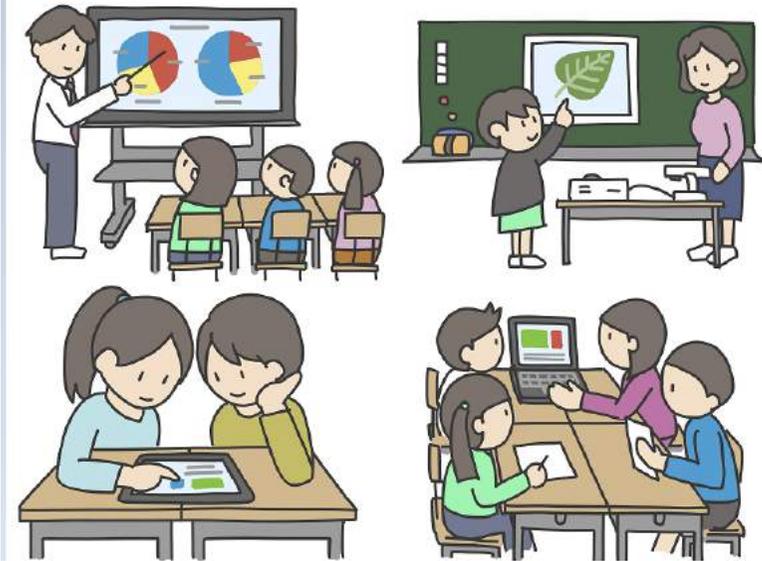
# 事業概要 【大型提示装置を用いた共同学習の実施事業】

自治体名	岩手県矢巾町	人口	26,366人	事業費	31,834千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想による1人1台端末の利活用の更なる促進に向けて、町内全中学校（2校）の普通教室、特別支援教室及び特別教室に電子黒板機能付き大型提示装置を整備し、オンライン上でのリモート学習や授業配信の実施を図る。2校ある中学校間の交流や沿岸との交流について、感染症拡大時には中止を余儀なくされたが、リモートでの実施を図ることで学校間格差の減少や、復興教育の推進を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>1 GIGAスクール構想のさらなる推進のため、普通教室、特別支援教室及び特別教室に電子黒板機能付き大型提示装置を整備し、各科目の授業においてデジタル教材と組み合わせた同時双方向授業を行う。</p> <p>2 電子黒板機能付き大型提示装置を活用したオンライン同時双方向授業を行う。</p> <p>① 自宅待機中・不登校の児童生徒への授業配信                  ② 総合的な学習の時間における合同授業の実施                  ③ ICT活用事例のオンライン配信                  ④ 授業研究会のオンライン配信</p>	 <p>大型提示装置を利用した同時双方向授業</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>① オンライン同時双方向授業を実施した回数                  ② ICT活用の取組の動画配信及び授業研究会の実施回数                  ③ 電子黒板を活用した授業回数</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>① 教員のICT指導力の向上                  ② 全国学調の平均正答率が県又は全国平均を上回った学校の数                  ③ 同時双方向授業に満足と回答した児童生徒の割合</p>			

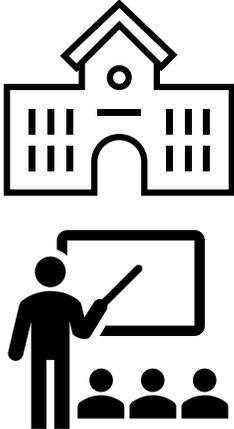
# 事業概要 【 AI型ドリル活用による個別最適な学習支援事業】

自治体名	岩手県西和賀町	人口	4,856人	事業費	2,022千円
事業概要	<p>小中学校のGIGAスクール端末（タブレットPC）にAI型ドリルを導入しているが、教員による使用頻度により児童生徒の習熟度に差が生じていること、ペーパーレス化が進んでいないことから、児童生徒一人ひとりの学習状況に対応した個別最適な学習を実現し、子どもたちの主体的な学びを促すとともに、学校からの連絡や宿題等にアクセスしやすい環境を整備する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【AI型ドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元学習…教科書に合わせた学習</li> <li>おすすめ学習…苦手科目の復習など子どもの自主性に合わせた学習</li> <li>タイルマップ学習…進捗を視覚的に楽しむ学習</li> <li>テーマ学習…分野や学年を超えた関心のある科目に取り組む学習</li> <li>確認テスト…テスト結果により単元の理解度を把握し、児童生徒に見合った教材を提供する</li> <li>プリントパック…復習や基礎定着のためのプリント学習機能で宿題のペーパーレス化、教員の負担軽減が図られる。</li> </ul>	 <p>○単元学習</p>  <p>○確認テスト</p>  <p>○テーマ学習</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①AI型ドリルの活用日数</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒のAI型ドリルの利用満足度</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>			

# 事業概要 【ICTによる教育推進事業】

自治体名	岩手県金ケ崎町	人口	15,197人	事業費	38,517千円
事業概要	<p>「生涯教育の町」及び「平和国際交流の町」を宣言した当町の「まちづくりは人づくり」という基本理念に基づき、新たに導入するデジタル教科書やデジタルドリルの活用やオンライン学習を促進し、子どもたちの確かな学力や創造力の向上、多様な視野を持った人材の育成を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>電子黒板を活用し、下記のサービスを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規に導入するロイロノートスクールと電子黒板を連携させることで、児童生徒それぞれの考え方や進捗状況を画面に一括して表示が可能となる等、従来までのアナログな授業よりも効率的かつ興味関心を惹きつける授業を提供する。</li> <li>・新規に導入するデジタル教科書と電子黒板、デジタルドリルを連携させ、質の高い授業を提供する。例えば算数のデジタル教科書では、電子黒板の画面上で図形を操作してそれをタッチして動かしたり加工することが可能であり、そのことが子どもたちにとっての分かりやすさを生み出す。</li> <li>・ロイロノートスクールでは全国の教師が作成した授業案を利用できるため、これを活用し、児童生徒一人ひとりに適したユニバーサルな授業を展開する。</li> <li>・グループ学習で電子黒板を活用し、ロイロノート上でお互いの考えを共有したり、共同作業を行ったりすることで協働的な学びの機会を得る。</li> <li>・オンライン通信による学校間の交流学習の機会を提供する。</li> <li>・姉妹都市をはじめとする海外との双方向型オンライン交流機会を提供する。</li> </ul>		<p>イメージ図</p> 		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板を活用した授業の実施数</li> <li>②学習用端末を利用した児童生徒の1日あたりの人数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の満足度</li> <li>②学習定着度状況調査県平均点差</li> <li>③英検I B A県平均点差</li> </ol>		

## 事業概要【教育分野におけるICT活用事業】

自治体名	岩手県平泉町	人口	6,873人	事業費	13,516千円
事業概要	<p>本町では、電子黒板の小中学校全教室での導入が実現しておらず、GIGAスクール構想で導入したタブレット端末の効果的利活用が実現できないでいる。</p> <p>電子黒板を各小中学校に導入・活用して、タブレット端末のさらなる効果的利活用につなげ、「授業がもっとよくなる電子黒板活用」を実現していきたい。</p>				
具体サービス	<p>電子黒板や電子教科書を町内の小中学校全体へ展開・導入することで、授業の時間効率を向上し、楽しく分かりやすい授業を実施する。</p> <p>また、指導主事やICT指導員による教職員側のレベルアップと合わせて、学校教育におけるICT活用を進めていく。</p>		 <p>電子黒板導入によるICT機器のさらなる活用</p>		
主なKPI	【アウトプット指標（活動指標）】 ① 電子黒板を利用した授業コマ数		【アウトカム指標（成果指標）】 ① 学校を楽しいと思う生徒の割合 ② 学力調査が全国平均以上の校数		

# 事業概要 【採点業務デジタル化推進事業】

自治体名	宮城県	人口	2,262,002人	事業費	40,001千円
事業概要	<p>県立中学校・高等学校におけるテストをデジタル化し、採点業務を効率化することにより、教職員の負担を軽減しながら、生徒一人ひとりに対する学習指導や相談体制の充実を推進し、きめ細やかな支援を実現する。また、生徒の学習の定着状況を的確に見取することで、教師の経験に基づく学習評価からデータに基づいた学習評価への転換・改善を推進し、個別最適化された学習機会の提供を実現する。</p>				
具体サービス	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p><b>【デジタル採点支援システム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テストの採点・集計をデジタル化する機能を有するアプリケーションにより、紙によって実施している定期考査や入試等の採点結果をデータ化する。</li> <li>• 出力された採点データを、形成的な評価として生徒の学習支援や教師の指導改善に活用する。</li> <li>• 採点業務効率化によって捻出された時間を、個別の学習指導や相談に活用する。</li> </ul> </div> <div style="flex: 2; text-align: center;"> <pre> graph TD     A[定期考査 解答用紙] --&gt; B[デジタル採点支援システム]     C[入試等 解答用紙] --&gt; B     B --&gt; D[成績情報の細分化 ・生徒の自己分析 ・教員による多角的分析]     B --&gt; E[入学生徒の多角的分析]     D --&gt; F[生徒の学びの充実]     D --&gt; G[教師の指導の改善]     E --&gt; H[データに基づいた指導計画の作成]             </pre> <p>採点業務の効率化</p> <p>生徒一人ひとりに対する学習指導や相談体制の充実</p> </div> </div>				
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①デジタル採点支援システム（通常版）を使用している教員の割合</li> <li>②デジタル採点支援システム（入試版）を利用している学校数</li> <li>③システムを用いた採点結果の分析を指導に活用した回数</li> </ul>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学習指導に関する満足度</li> <li>②学校生活の満足度</li> <li>③テスト返却までの日数</li> </ul>		

# 事業概要 【校務支援システムによる児童生徒情報連携事業】

自治体名	宮城県石巻市	人口	134,919人	事業費	52,173千円
------	--------	----	----------	-----	----------

**事業概要**

文部科学省が示すGIGAスクール構想下での校務DX化に基づき、セキュリティ基準に合致するクラウド技術を用いた総合型校務支援システムを導入し、児童生徒の教育情報を一元化することで、児童生徒の理解度、進捗度に応じた個別最適な学びを確保する。また、教育情報をもとに、教育支援センターと連携を図りながら、不登校等児童生徒への早期対応及び支援を行うとともに、保護者との連絡アプリを導入することにより、出欠や相談などの学校と保護者がつながりやすい環境を整備する。さらに、本に親しみ、生涯にわたり読書を楽しむ習慣を養うため、児童生徒が利用しやすい図書室環境を整備する。

**【統合型校務支援システム（クラウド）】**

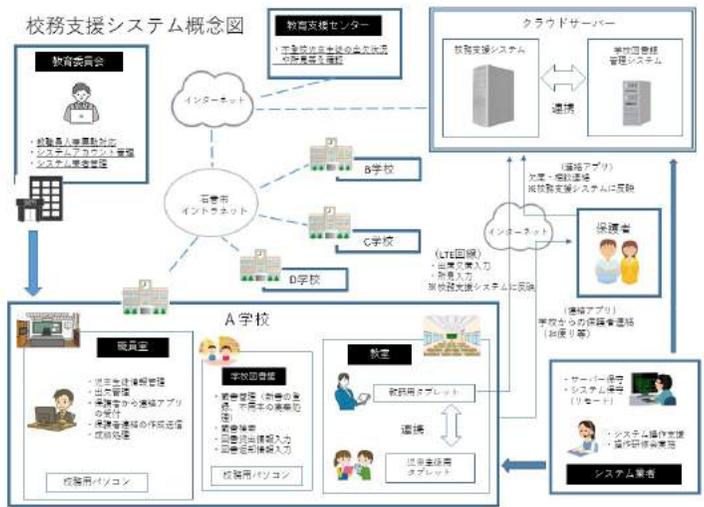
- 児童生徒一人ひとりへの気づき、学籍、出欠、成績、各種相談記録など、学校入学から中学校卒業までの9年間のデータを可視化し、児童生徒の学びの進捗度に応じた学びや学校生活における支援を提供する。
- 児童生徒の気づきや成績等のデータを一元管理することで、全教員が共通認識のもと、児童生徒一人ひとりに対し、必要とする学習や学校生活における支援を実施する。
- 不登校児童生徒等の学習や生活情報の共有化により、教育支援センターと連携を図りながら、不登校等児童生徒への効果的な支援を実施する。

**【保護者連絡アプリ】**

- 校務支援システムとの連携により、スマートフォン等で、保護者への必要な情報発信が確実、早急に行えるとともに、保護者との情報共有（出欠や相談連絡等）ができる体制を構築する。

**【学校図書館システム】**

- 学校図書館システムの導入により、図書検索や貸出管理機能により、読みたい本や借りたい本の情報を確認することができるようになるため、図書室を利用する児童生徒の利便性が向上する。
- 興味のある図書の情報が容易に得られることから、児童生徒の読書意欲が向上し、生涯にわたり読書を楽しむ習慣が養われるとともに、読解力や語彙力等の基礎学力の向上が図られる。



主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①登校できるようになった不登校児童生徒数</li> <li>②学校図書室利用児童生徒数</li> <li>③児童生徒1人当たりの年間平均読書冊数</li> </ul>	<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒が学校が楽しいと感じている割合</li> <li>②全国学力・学習状況調査における正答率</li> <li>③読書が好きな児童生徒の割合</li> </ul>
-------	---	---

# 事業概要 【EdTech推進事業】

自治体名	宮城県気仙沼市	人口	57,726人	事業費	55,938千円
事業概要	<p>全国的な学力調査では低位の状態が続き、その一因として従来から変わらない一斉授業スタイルや家庭学習時間の減少がある。デジタル教材を導入し、ICT支援員等により活用促進を図りながら、一斉一律・教師主導型の授業から、個別最適・協働的な学びへの転換を図り、確かな学力の定着と学習意欲の向上、デジタル社会に対応できる人材を育成する。</p>				
具体サービス	<p>EdTechの推進により、児童生徒一人一人に最適な学びを推進する。</p> <p><b>【AIドリル (Qubena)】</b> 市内全小中学校にAIドリル (Qubena : 国, 社, 算・数, 理, 英) を導入し、授業や家庭学習における個別最適な学びの充実させる。</p> <p><b>【学習者用デジタル教科書 (算数・数学)】</b> 音声や動画等とのデジタルコンテンツを活用することで、児童生徒の学習の習熟度を高める。</p> <p><b>【プログラミング教材 (MESH)】</b> 理科等の授業の中で、プログラミング制作を取り入れ、論理的思考を育み、科学への興味を高める。</p> <p><b>【特別支援教育ソフト (LITALICO教育ソフト)】</b> 市内全小学校に導入し、特別支援学級に在籍する児童等の個別支援計画や指導計画を作成し、特性に合わせた教材、支援を提供する。</p>		<p>これまでの… 一斉一律 教師主導型授業</p> <p>AIドリル ⇒ 個別最適な出題 学習内容の定着</p> <p>特別支援教育ソフト ⇒ 多様な子供への支援</p> <p>ICT支援員 (ICTマイスター教員)</p> <p>学習者用 デジタル教科書 ⇒ 子供の学びを支援</p> <p>プログラミング教材 ⇒ 論理的思考の育成</p> <p>自ら考え表現し学ぶ 子供</p> <p>個別最適な学び 協働的な学び 探究的な学び</p> <p>確かな学力 情報活用能力</p>		
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標 (活動指標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 一定期間 (6月,12月) でのAIドリルの利用率</li> <li>② 学習用デジタル教科書の利用開始率</li> <li>③ プログラミング教材利用回数</li> <li>④ 個別支援計画, 指導計画を特別支援教育ソフトで作成した割合</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標 (成果指標)】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 全国学力・学習状況調査結果 (国語, 算数・数学)</li> <li>② 全国学力・学習状況調査結果 (算数・数学のみ)</li> <li>③ 市主催科学作品展への応募数</li> <li>④ 特別支援教育ソフトの活用により負担が軽減したと答える教員の割合</li> </ol>		

## 事業概要 【個別最適化学習事業】

自治体名	宮城県白石市	人口	31,293人	事業費	8,264千円
事業概要	<p>本市では、不登校や別室登校などの児童生徒の増加が見られる。このような状況の中、多様化する児童生徒に対応した個別最適な学びを実現するとともに、教職員の働き方改革を進めていくことが課題である。AIドリルの導入により、学校の内外を問わず、すべての児童生徒が個別最適な学びを実現することで、夢や志を実現するために必要な力を育むとともに、教職員の働き方改革を推進していく。</p>				
具体サービス	<p>【個別最適化学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 端末を用いた学習（学校/家庭）や教員からの問題の配信</li> <li>• 個々の児童や集団毎の学習状況・理解度を可視化</li> <li>• 個々の児童の理解度に応じた出題（レコメンド機能）</li> <li>• 児童の学習ログの蓄積と理解度分析</li> </ul>		<p>The diagram illustrates the interaction between three main components: Teachers (教員), AI Drill (AIドリル), and Children (児童).      - <b>Teachers (教員):</b> Represented by an orange box at the top. They send '問題配信' (Problem distribution) to the AI Drill and receive '集団毎の学習状況・理解度把握 学習ログの蓄積' (Group learning status and understanding grasp, accumulation of learning logs) from it.      - <b>AI Drill (AIドリル):</b> Represented by a grey box in the middle. It is labeled '1人1台端末' (1 device per person). It sends '解答・自動採点 学習状況・理解度把握' (Answers and automatic grading, learning status and understanding grasp) to the Children and receives 'レコメンド機能による出題・学習' (Problem and learning by recommendation function) from them.      - <b>Children (児童):</b> Represented by a green box at the bottom. They are grouped as '学年・学級集団など' (Year, class group, etc.).</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①日毎の利用した児童生徒の割合の平均</li> <li>②児童生徒一人当たりの平均月間解答数</li> <li>③研修会に参加した教員の割合</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学力調査における基礎・基本の達成率の経年変化</li> <li>②質問紙調査の授業改善の質問における調査結果</li> </ol>		

# 事業概要 【クラウド型校務支援システム導入事業】

自治体名	宮城県名取市	人口	79,673人	事業費	22,724千円
事業概要	<p>文部科学省が示す「学校情報化セキュリティポリシーに関するガイドライン」に基づき、クラウド型校務支援システムを導入し、学習支援システム(学習eポータル)と連携して運用することで、エビデンスに基づいた教育の推進と校務効率化による教職員の事務作業時間削減を推進する。</p> <p>これにより、教職員が児童と向き合うための時間を増加させ、きめ細やかな学習指導、支援を実現する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>調達対象 クラウド型校務支援システム 【サービス内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の一元化</li> <li>・出席簿、成績処理、通知表、指導要録までの流れを一元化</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒との面談時間・回数の増加</li> <li>②不登校や別室登校等の児童生徒の学びの保障</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教員の児童生徒へのきめ細やかな支援</li> <li>②不登校や別室登校の児童生徒の減少</li> </ol>			

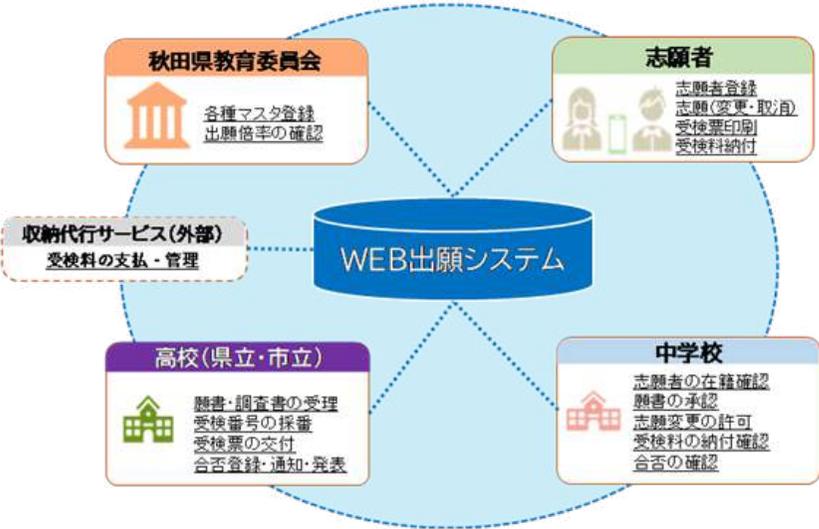
# 事業概要 【授業支援システム導入事業】

自治体名	宮城県角田市	人口	26,967人	事業費	2,693千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想実現に向け、授業支援システムの本格導入によってICTを活用した教育を電子化（デジタイゼーション）から最適化（デジタイゼーション）へシフトしていくとともに、協働的な学びと個別最適な学びへのアプローチを促進し、当市の教育の基本理念「学びって楽しい！」を実現しながら児童生徒が自ら進んで学びに向かっていく環境づくりに取り組み、課題となっている学力向上へつなげていく。</p>				
具体サービス	<p>【授業支援システム（スクールタクト）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答一覧機能</li> <li>・ 発言マップ</li> <li>・ ワードクラウド</li> <li>・ ルーブリック評価</li> <li>・ 課題テンプレート</li> <li>・ 振り返りAI分析 等</li> </ul> <p>既存のアプリケーションには搭載されていない機能を活用し、授業改善と学習内容の定着を図る。</p> <p>また、ICTを活用した教育の選択の幅を広げることで、多様化する児童生徒に対応し、教育の最適化（デジタイゼーション）への橋渡しとする。</p> <p>なお、授業支援システムは学習eポータルコンテンツとして導入し、アカウント作成の省略、シングルサインオン、ダッシュボード機能の活用等を実現する。</p>		<p>クラウド</p> <p>学習eポータル 授業支援システム</p> <p>シングルサインオン</p> <p>教師</p> <p>児童生徒</p> <p>＝期待される効果＝</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ICTを活用した教育の促進</li> <li>②授業改善</li> <li>③協働的な学びと個別最適な学びへの取り組み</li> <li>①学びに向かっていく力の育成</li> <li>②学習内容の定着</li> <li>③学力向上</li> </ul> <p>100</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①課題配布枚数</li> <li>②学習eポータルダッシュボード機能の利用回数</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ICT活用に関する調査</li> <li>②宮城県児童生徒学習意識等調査</li> </ul>		

# 事業概要 【次世代型校務支援システム導入事業】

自治体名	宮城県大崎市	人口	123,915人	事業費	25,567千円
事業概要	<p>次世代型校務支援システムを導入することで、児童生徒一人ひとりに対する学習指導、及び支援の充実を図ります。また、課題解決型学習や地域と連携した「探求学習」の充実による、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進することで教育全体の質的向上を図り、保護者の教育環境に対する理解度、及び満足度の向上を実現します。次世代型校務支援システムは、文科省の示す「学校情報化セキュリティポリシーに関するガイドライン」、大崎市学校教育情報化推進計画（令和5年度～令和9年度）に準拠する、次世代型校務支援システムを導入します。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【次世代型校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績機能一式</li> <li>・通知表・指導要録作成機能等</li> <li>・出欠管理機能</li> <li>・保護者連絡機能</li> <li>・ダッシュボード機能</li> <li>・アンケートシステム</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「探求学習」の実施時間</li> <li>②ダッシュボードを用いた個別指導・支援の実施回数</li> <li>③保護者とオンラインを活用した連絡機能の利用率</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域や社会に貢献する意欲の向上</li> <li>②児童生徒の自己肯定感、自己効力感の向上</li> <li>③保護者の学校に対する理解度、満足度の向上</li> </ol>			

# 事業概要 【高校入試WEB出願システム構築事業】

自治体名	秋田県	人口	910,988人	事業費	113,388千円
事業概要	<p>公立高校入試に係るあらゆる手続きをデジタル化・オンライン化し、入試業務の大幅な効率化と省力化を図るため、「高校入試WEB出願システム」を導入することにより、生徒や保護者の利便性の向上を図るほか、教職員の業務の負担軽減し、生徒と向き合う時間を確保することで、県全体の教育の質の向上を目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>「高校入試WEB出願システム」を導入し、出願から合格発表までの一連の手続きをデジタル化・オンライン化する。また、入学検定料の納付についても、キャッシュレスに対応させる。</p> <p>【WEB出願システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システム上で願書・各種資料の作成</li> <li>数的データの自動集計</li> <li>多様な納付方法による入学検定料の決済</li> <li>願書・調査書のオンライン提出</li> <li>システム上での合格発表・得点開示</li> </ul>	 <p>The diagram illustrates the 'WEB出願システム' (WEB Application System) at the center, connected to five stakeholders:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>秋田県教育委員会 (Akita Prefectural Education Commission):</b> 各種マスタ登録 (Various master registration), 出願倍率の確認 (Confirmation of application ratio).</li> <li><b>志願者 (Applicants):</b> 志願者登録 (Applicant registration), 志願(変更・取消) (Application (change/cancellation)), 受検票印刷 (Application ticket printing), 受検料納付 (Application fee payment).</li> <li><b>中学校 (Middle Schools):</b> 志願者の在籍確認 (Confirmation of applicant's residence), 願書の承認 (Approval of application), 志願変更の許可 (Permission for application change), 受検料の納付確認 (Confirmation of application fee payment), 可否の確認 (Confirmation of eligibility).</li> <li><b>高校(県立・市立) (High Schools):</b> 願書・調査書の受理 (Acceptance of application/questionnaire), 受検番号の採番 (Assignment of application numbers), 受検票の交付 (Issuance of application tickets), 可否登録・通知・発表 (Registration/Notification/Announcement of eligibility).</li> <li><b>収納代行サービス(外部) (Collection Agency):</b> 受検料の支払・管理 (Payment/Management of application fees).</li> </ul>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①WEB出願を利用する中学校の割合</li> <li>②WEB出願の利用者数（累積）</li> <li>③キャッシュレス決済利用者の割合</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①WEB出願による生徒（保護者）の満足度</li> <li>②教職員の入試選抜事務に要した時間の減少数</li> <li>③</li> </ol>			

# 事業概要【A I ドリル導入事業】

自治体名	秋田県能代市	人口	48,400人	事業費	4,224千円
事業概要	<p>I C T 端末の利用率について、同じ学校の同じ学年でも格差が生じている現状を踏まえ、先端技術を活用し、児童生徒の個別最適な学びを推進するほか、業務内容が多様化・複雑化している教員の多忙化を防止するため、個々の習熟度に応じた学習が可能となるAIドリルを導入する。</p>				
具体サービス	<p>【AIドリル導入】：ライズ e ライブラリアドバンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AI技術により個々の興味関心、学習ペース等に応じた問題が出題されるため、児童生徒が主体的な学習に取り組むことが可能になる。</li> <li>教員や保護者が児童生徒の学習進度や到達度等を視覚的に把握可能になる。</li> </ul> <p>【中学校プリントパック導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公立高等学校入試の過去問題が利用できることから、児童生徒においては苦手分野の把握や学力向上が見込め、教員においては教材準備にかかる時間を縮減できることから、負担軽減が図られる。</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①長期休業期間（夏季、冬季）においてI C T 端末を持ち帰り、A I ドリルを利用した児童生徒数の割合</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①全国学力・学習状況調査結果の平均正答率（小6、中3）</p> <p>②児童生徒のA I ドリルへの満足度</p>		

# 事業概要【小中学校ICT環境整備事業】

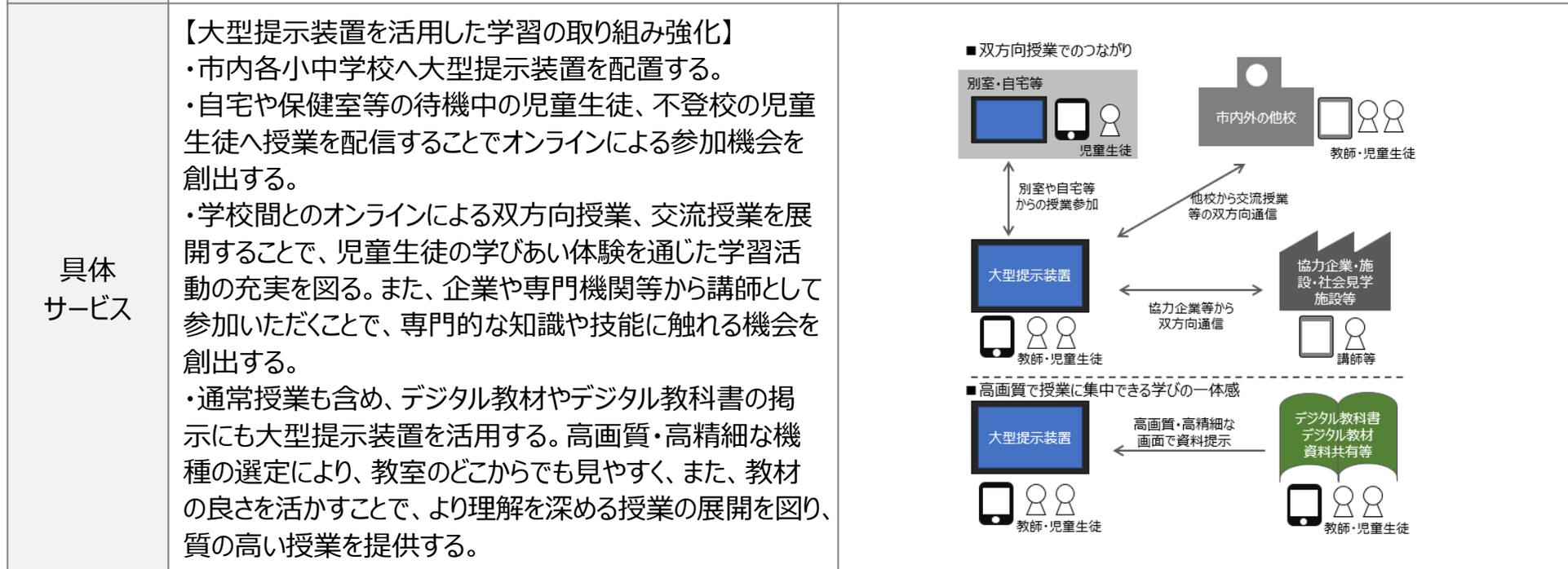
自治体名	秋田県横手市	人口	82,610人	事業費	21,006千円
------	--------	----	---------	-----	----------

**事業概要**

大型提示装置を用いた学習の取り組み強化に向けて整備を進める。大型提示装置を通じた学校間でオンライン交流授業の実施や、企業・専門家を講師とする授業等へのオンライン参加など専門的な知識や技能に触れる機会の創出、また、デジタル教材の良さを活かす高画質・高精細な機種を選定し、より理解を深める授業の展開を図るなど、質の高い学習環境を整える。

**【大型提示装置を活用した学習の取り組み強化】**

- ・市内各小中学校へ大型提示装置を配置する。
- ・自宅や保健室等の待機中の児童生徒、不登校の児童生徒へ授業を配信することでオンラインによる参加機会を創出する。
- ・学校間とのオンラインによる双方向授業、交流授業を展開することで、児童生徒の学びあい体験を通じた学習活動の充実を図る。また、企業や専門機関等から講師として参加いただくことで、専門的な知識や技能に触れる機会を創出する。
- ・通常授業も含め、デジタル教材やデジタル教科書の掲示にも大型提示装置を活用する。高画質・高精細な機種を選定により、教室のどこからでも見やすく、また、教材の良さを活かすことで、より理解を深める授業の展開を図り、質の高い授業を提供する。



**主な KPI**

**【アウトプット指標（活動指標）】**

- ①大型提示装置によるオンライン通信を活用した授業の実施回数
- ②大型提示装置とデジタル教材を組み合わせる授業を実施（週1回以上）する教職員の割合

**【アウトカム指標（成果指標）】**

- ①全国学力・学習状況調査結果の平均正答率（小6、中3）
- ②児童生徒のA Iドリルへの満足度
- ①大型提示装置を使った授業はわかりやすいと思う児童生徒の割合
- ②大型提示装置などを活用して効果的に提示（児童生徒の意見などを含む）できる教員の割合

# 事業概要 【ICT活用教育推進事業】

自治体名	秋田県美郷町	人口	17,831人	事業費	14,605千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想の推進により、1人1台端末の導入が行われたが、全ての児童生徒および教員が活用するためには、授業の中で効率的かつ効果的に扱える環境が必要になる。</p> <p>本事業では、実績のある使いやすい授業支援ソフトを、クラウドサービスによって導入し、全ての教員・全ての児童生徒が、毎日デジタルを利用した授業を実施して、日常的なICT活用を推進していく。</p>				
具体サービス	<p>①授業支援ソフト「リアルタイム授業支援アプリ MetaMoji Classroom」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生の操作や書き込みをリアルタイムに共有</li> <li>児童生徒の学習状況をモニタリング</li> <li>選択した児童生徒の解答を全員に表示</li> <li>グループでワークシートを共有してリアルタイムに編集可能</li> <li>遠隔授業・オンライン授業もまるでその場で授業を受けているような感覚で利用</li> </ul> <p>②電子黒板整備（12台）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の活動状況の把握や画面の共有</li> <li>電子黒板上で自由に文字を書いたり、書き込んだりでき保存も可能</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①授業支援ソフトの週当たりの使用頻度</p> <p>②電子黒板の週当たりの使用頻度</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①授業支援ソフトの児童生徒の満足度</p> <p>②電子黒板の児童生徒の満足度</p>		

# 事業概要 【子どもの学び充実事業】

自治体名	山形県山形市	人口	241,802人	事業費	199,995千円
事業概要	<p>個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実と、社会に開かれた学びを実現するために、市立小中学校の全普通教室と一部の特別教室に電子黒板を導入する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>市立小中学校の全普通教室と、一部の特別教室に電子黒板を導入する。 整備後は、電子黒板を普段使いした授業の展開と子どもたちの学びの質の深化のために、操作研修会や実践研究を行う。</p>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】 ① 教員1人あたりの電子黒板を活用した授業回数 ② 1学級あたりの電子黒板を使った授業数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】 ① 電子黒板を用いた授業がわかりやすいと回答する児童生徒の割合 ② 電子黒板を用いた授業が当たり前になったと回答する児童生徒の割合</p>		

# 事業概要 【子ども・学校・保護者連携事業 ～統合型校務支援システムを中心に据えて～】

自治体名	山形県山形市	人口	241,802人	事業費	37,913千円
事業概要	<p>統合型校務支援システムを中心に据え、デジタルの力を活用しながら、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を抱える子どもに対し、きめ細やかで途切れのない指導や支援を行うことによって、将来の自立や社会参加を目指し、未来を創る子どもたちを育成する。また、教員の指導力に加え、保護者との連携を強化することによって、一体となって子どもを育てる意識を醸成する。</p>				
具体サービス	<p>① 保護者向け情報発信ツール 保護者への一斉連絡ができることや、保護者による出欠連絡を校務支援システムに連携させることで、保護者の負担を軽減し、教職員が子どもに向き合う時間を創出できる。</p> <p>② 心と学びの記録・振り返り支援システム 児童生徒が自身を客観視することで、自分をコントロールできるようになる力（非認知スキル）を向上させることができる。 また、児童生徒の気持ちを教員が確認することで、いじめや不登校の早期発見、即時対応のきっかけとなるなど、個に応じた指導に役立てることができる。</p> <p>③ デジタル採点ソフト 採点・集計・分析が同時に完了するため、児童生徒が集計されたデータを元に、自らの苦手分野等を確認し、すぐに復習できる。</p>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①保護者向け情報発信ツールの保護者利用率 ②心と学びの記録・振り返り支援システムを利用した児童生徒の割合</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①保護者連絡ツールを使った保護者の満足度評価 ②学校に悩みや不安を打ち明けられる（もしくは打ち明けられた）児童生徒の割合</p>		

# 事業概要 【GIGAスクール構想実現に向けたデジタル化推進事業】

自治体名	山形県河北町	人口	17,018人	事業費	16,277千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想実現に向け、ICTの活用による効果的な授業を展開していくため、電子黒板の整備を進める。また、学校・保護者間における連絡手段のデジタル化を推進するため、連絡網システムを導入する。さらに、町唯一の高等学校である県立谷地高等学校存続に向けた町の支援体制の一つとして、学習支援サービス導入に対して支援を行い、学力向上・進学率向上を図り志願者の増加に繋げるとともに、学校運営を幅広くサポートしていく。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>◆小中学校  <b>【(1)電子黒板の整備】</b>          &lt;電子黒板 21台&gt;  <b>【(2)連絡網システムの導入】</b>          &lt;さくら連絡網（株式会社マンタ）&gt;          ・学校、保護者間のメッセージの送受信          ・資料配付のデジタル化          ・欠席、遅刻連絡のオンライン化          ・安否確認、アンケートのオンライン化          ・健康チェック（検温報告等）</p> <p>◆県立谷地高等学校  <b>【(3)学習支援サービスの導入】</b>          &lt;スタディサプリ（株式会社リクルート）&gt;          ・学習支援（講義動画、テスト教材、課題配信・管理機能、総合的な探求の時間）          ・校務支援（活動メモ、アンケート、進路希望調査、生徒・保護者へのお知らせ）</p>		<p>(2)連絡網システムの整備</p> <p>(1)電子黒板の整備</p> <p>(3)学習支援サービスの導入</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板の使用回数</li> <li>②連絡網システムアプリ登録割合</li> <li>③学習支援サービスを活用した日数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業内容の理解度</li> <li>②システム利用者（保護者）の満足度</li> <li>③システム利用者（生徒・保護者）の満足度</li> </ol>		

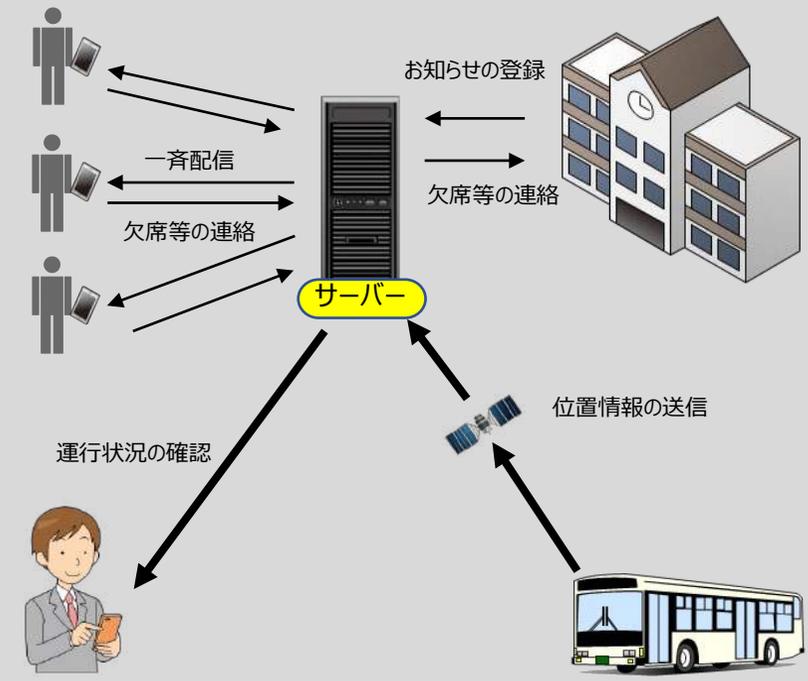
# 事業概要 【学校図書デジタル環境整備事業】

自治体名	山形県大江町	人口	7,295人	事業費	7,622千円
事業概要	<p>本事業は、「大江町教育委員会第3次大江町教育振興計画」及び「デジタル田園都市国家構想」理念の下、児童生徒が知識と豊かな感情を育み、創造性を高め、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠かすことのできない「読書」をより身近なものとし、学校図書を利用しやすいものとするため、学校図書館のデジタル環境の整備を実施します。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【学校図書館電算化システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>蔵書をデータ化し、貸出、返却作業等の管理を簡素化することにより、学校図書館の機能を充実させる。</li> <li>読書傾向の分析、貸し出し状況の把握を行う。</li> <li>一人一台タブレットを活用し、児童生徒が自校の図書館の蔵書を検索したり、児童生徒が自分の読書履歴を閲覧できるようにすることで読書活動を推進する。</li> <li>将来的には学校間、公立図書館とのネットワーク構築を鑑みて公立図書館で使用しているTRCMARC（書誌データ）での構築を行う。</li> </ul>	<p>イメージ図</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①子ども一人当たりの児童書貸出冊数</li> <li>②子ども一人当たりのタブレット端末での検案件数</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①読書が好きな児童生徒の割合</li> <li>②不読児童生徒の割合</li> <li>③図書紹介の掲示の充実(掲示変更回数の増加)</li> </ol>			

## 事業概要 【デジタル採点システム整備事業】

自治体名	福島県郡山市	人口	321,508人	事業費	3,854千円
事業概要	<p>学習活動のデータを共有・分析することで、教師の経験に基づく学習評価から学力向上や学習過程に対する評価への転換・改善を促進し、児童・生徒一人ひとりにきめ細やかな支援と個別最適化された学習機会の提供を実現する。また、市立学校にけるテストの採点をデジタル化し、個々の児童・生徒への指導や作問にも活かすことにより、児童・生徒の力を最大限伸ばす質の高い学びの実現を目指す。</p>				
具体サービス	<p>【デジタル採点システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テストの採点・集計をデジタル化する機能を有するソフトウェアにより、紙によるテスト結果をデータ化する。</li> <li>• 出力した採点データを活用し、観点別得点等のデータを既存の統合型校務支援システムへのデータ連携により業務の一元化と効率化を図る。</li> <li>• 解答用紙の返却は、○×や点数等が付いた解答データを印刷またはデータで行うため、不正防止や事故防止に繋がる。</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタル採点システム利用者割合</li> <li>②ICT活用指導力のある教職員の割合</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「先生が分かるまで教えてくれている」と感じている生徒の割合</li> <li>②「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができている」と感じている生徒の割合</li> </ol>			

# 事業概要 【公立小中学校における教育業務支援ツール導入事業】

自治体名	福島県石川町	人口	13,893人	事業費	1,259千円
事業概要	<p>公立小中学校に校務支援サービスを導入することで教員の校務に関する負担を軽減することで授業準備時間を確保し、義務教育課程における教育内容の充実を図る。また、導入するサービスを現在公立保育所で使用しているものと同一のものとすることで、保護者に対しワンストップのサービスを提供する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【連絡ツールアプリ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連絡ツールの導入による連絡の即時性の高い連絡体制の構築</li> </ul> <p>【スクールバス運行管理アプリ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バス位置情報提供アプリの導入による運行状況の確認</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①連絡ツールアプリのダウンロード率</li> <li>②スクールバス利用者のアプリダウンロード率</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①連絡ツールアプリに対する保護者の満足度</li> <li>②スクールバス運行管理アプリに対する保護者の満足度</li> </ol>		

# 事業概要 【教育ダッシュボードを活用した中学生一人一人に応じた教育の実現】

自治体名	茨城県水戸市	人口	268,265人	事業費	6,934千円
事業概要	<p>1人1台端末を活用した教育活動が推進される中、「教育ダッシュボード」により一元化した学習データ（スタディ・ログ）や生活データ（ライフ・ログ）から、正確に生徒の学習の状況や生活上の悩みを把握し、多様な生徒一人一人に最適な学びや支援を行うことにより、生徒の学力差や不登校生徒数の増加、いじめの対応件数の増加などの課題を解決し、全ての子どもたちの力を最大限に引き出すことのできる教育を目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>教育データとして、学習活動等で得られるデータ（スタディ・ログ）と学校生活等で得られるデータ（ライフ・ログ）を教育ダッシュボードにおいて一元化し、これらのデータを活用して、本市の教育課題である学力向上や不登校・いじめ対策に生かすこととする。</p> <p><b>【教育ダッシュボード】</b>  <b>&lt;学力向上対策&gt;</b>          ・学習成果物等のデータを確認・分析することにより課題を把握し、個に応じた指導を実施する。          ・授業の振り返りから授業の理解度を把握・分析し、教員の授業改善につなげる。  <b>&lt;不登校等対策&gt;</b>          ・「こころの健康観察」から生徒の心の状態を把握し、悩みなどの早期発見につなげる。</p>		 <p>The screenshot displays the 'Education Dashboard' interface. It includes a '生徒検索' (Student Search) sidebar, a main area for '課題の履歴と平均点' (Subject History and Average Scores) with a table of subjects and scores, and a 'こころの健康観察' (Heart Health Observation) section with weather icons and a '授業の振り返り' (Lesson Reflection) section with smiley face icons.</p>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b>          ①スタディ・ログのファイル数          ②こころの健康観察の回答率</p>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b>          ①授業が理解できたと回答した生徒数の割合          ②新たに不登校になる生徒数の割合</p>		

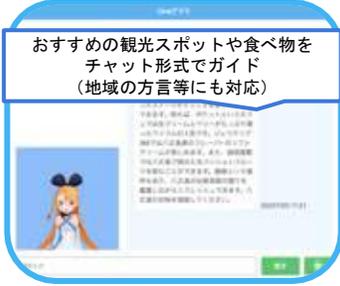
# 事業概要 【 ICT化による教育環境の充実】

自治体名	茨城県石岡市	人口	70,197人	事業費	1,119千円
事業概要	<p>令和6年度に統合再編される市内小学校2校において、保護者向け連絡支援システムを導入することで、保護者用アプリを介して学校と保護者が双方向での連絡が可能となり、出欠連絡、スクールバスの運行状況確認、教育委員会・学校側からの一斉連絡ができるようになる。学校と保護者のコミュニケーションを円滑化し、学校の統合再編により新しい教育環境となる児童・保護者の不安緩和を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>&lt;保護者向け連絡サービス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校ごとに連絡支援システムを導入。</li> <li>保護者の方はアプリをダウンロードし、個別にアカウント登録。</li> <li>学校と保護者間の連絡について、保護者用アプリを介して一斉メール配信及び個別メールでの双方向連絡が可能。</li> <li>欠席、遅刻、早退連絡をアプリ上で24時間行うことができるようになる。</li> <li>スクールバスの利用連絡や位置情報の確認も保護者用アプリで行うことができる。</li> <li>現在は紙での配布がメインとなっているお知らせ配信やアンケート調査をデジタル化する。</li> <li>教育委員会事務局でシステム導入校における出席状況を一括管理。教育委員会から各学校の保護者に対して、一斉にお知らせを配信したり、アンケートを実施することも可能。</li> </ul>	<div data-bbox="1108 468 1922 721"> <p>学校再編への不安</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校が遠くなるけどうちの子はちゃんと通学できるかな</li> <li>はじめてのスクールバス、時間通り来るかな…乗らない時の連絡は？</li> <li>新しい学校での生活</li> <li>何かあったとき先生とのやりとりはスムーズにできるか</li> <li>行事やPTA活動も変化するからよく確認しなくては</li> </ul> </div> <div data-bbox="1108 735 1939 1135"> <p><b>保護者用アプリに登録するとスマホから連絡・確認が可能！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一斉・個別メール配信</li> <li>欠席・遅刻・早退連絡</li> <li>バス不要連絡</li> <li>バス位置情報配信</li> <li>グループ施設管理</li> </ul> </div>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者のアプリ利用登録数</li> <li>②出欠連絡のアプリ利用率</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者アンケートによる利用者満足度</li> <li>②教職員アンケートによる満足度</li> </ol>			

# 事業概要 【実態把握に基づいた個別最適な支援を実現するICTサービスの導入事業】

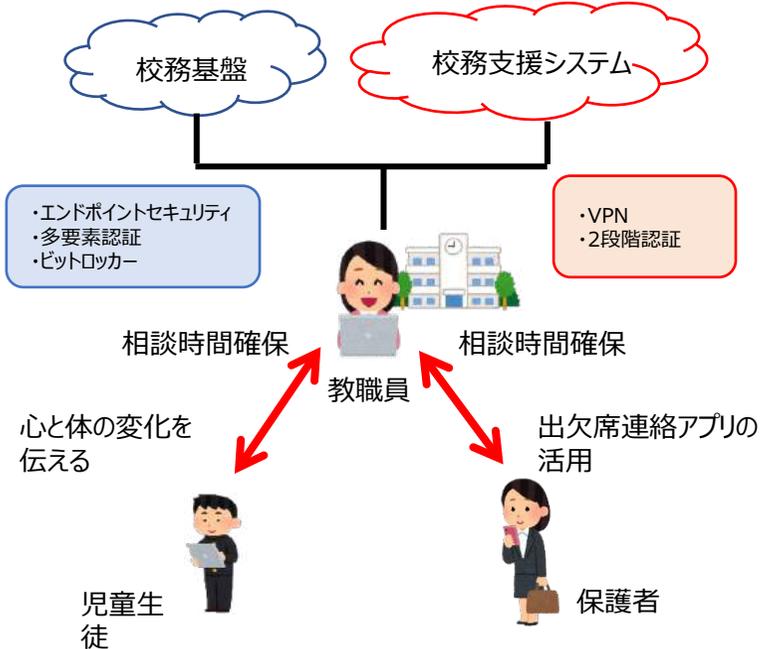
自治体名	茨城県守谷市	人口	70,641人	事業費	3,690千円
事業概要	LITALICO教育ソフトの活用により、「個別の指導計画」・「個別の支援計画」の作成を客観的な実態把握に基づいて行い、その実態に応じた教材を活用した個別最適な支援を行うことにより、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を充実させる。				
具体サービス	<p>LITALICO教育ソフトのサービス概要</p> <p>【まなびプラン 計画作成支援ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アセスメントツールを用いて、児童生徒の実態を客観的に把握</li> <li>○アプリ内の約6,000の支援例を参考に具体的な目標を設定し、保護者・児童生徒と共有</li> <li>○作成した計画や目標に紐づく教材によって計画と実践を接続</li> </ul> <p>【まなび教材 教材サイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○【まなびプラン】と紐づいた教材を必要に応じて選択・活用</li> <li>○約7,000種類のユニバーサルデザインが施された教材が利用可能</li> </ul> <p>【まなび動画 研修動画サイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援に関する校内研修や教員研修、自主研修に活用可能</li> </ul>		 <p><a href="https://s-edu-soft.litalico.jp/about">https://s-edu-soft.litalico.jp/about</a></p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①【まなびプラン】活用による個別の指導計画等の作成率</li> <li>②特別支援学級における【まなび教材】を活用した授業実践回数</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①LITALICO教育ソフトを活用した特別支援教育の満足度</li> <li>②LITALICO教育ソフトを活用した教員の教材研究時間及び児童生徒と向き合う時間の増加度</li> </ul>		

# 事業概要【河岸の街さかい復興プロジェクト ～地域活性化に資するデジタル教育等推進事業～】

自治体名	茨城県境町	人口	23,786人	事業費	902千円
事業概要	<p>(1) 中学校の技術科での必修授業であるプログラミング教育において、個別最適な学びを実現するEdtech教材の導入による、デジタル人材育成の基盤づくりを行う。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>(1) ライフイズテックレッスン ・個別最適な学習を実現するEdtech教材の導入</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>▼学習内容例：</p> <p>ハンズさんのWebサイトを作成しながらプログラミングの基礎を学習</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>▼授業風景例：</p> <p>生徒が自学自習しつつ、教員が各生徒の進捗状況に応じて個別サポート</p>  </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>おすすめの観光スポットや食べ物をチャット形式でガイド (地域の方言等にも対応)</p>  </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>レイアウトやデザインを行い、制作したWebサイトを社会に公表</p>  </div>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①プログラミング学習教材を利用した生徒数 ②プログラミング学習教材を利用した授業数</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①授業後にプログラミングが社会で役立つと思った生徒の割合 ②地域ロイヤリティの向上</p>			



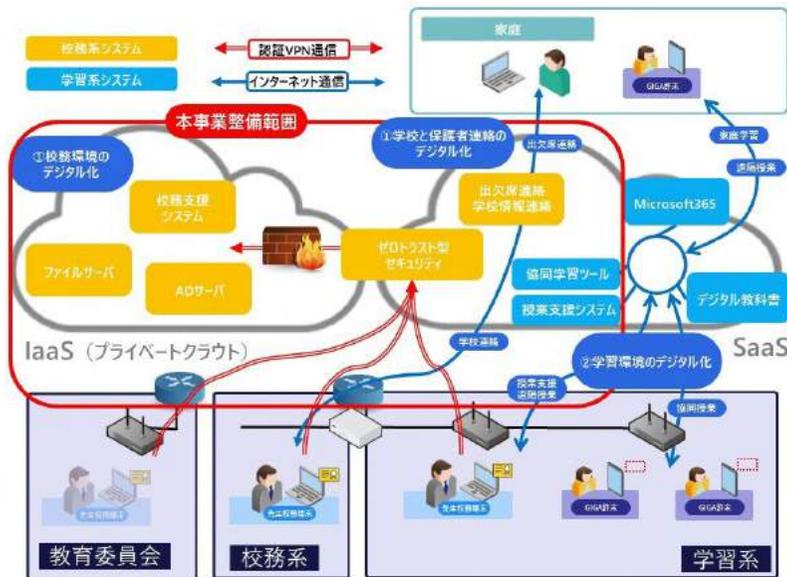
# 事業概要【クラウド型校務支援システム及びクラウド型校務基盤構築事業】

自治体名	群馬県甘楽町	人口	12,486人	事業費	29,181千円
事業概要	<p>現在多様な生活背景などからも、これまで以上に児童生徒一人ひとりの情報を詳細に蓄積・共有し、一人ひとりに寄り添った教育の実現が求められている。クラウド型校務支援システム導入及びクラウド型校務基盤構築により、理解度・進捗度に応じた個別最適な学びを実現し、支援を必要とする児童生徒の早期発見、感染症対応や心身の健康維持、不登校児童生徒への早期の対応など、誰一人取り残さないオーダーメイドの教育の実現を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【クラウド型校務支援システム構築】</p> <p>機能強化した校務支援システムを小学校3校・中学校1校で導入し、日常の記録（個人カルテ）、時数管理、調査書等の機能と保護者のスマートフォンによる出欠報告、児童生徒からの心と体の変化の報告を一体的に管理する。重ねた児童生徒情報を全教職員で共有することで児童生徒一人ひとりの状況に対応した教育の実現を可能とし、併せて一人ひとりに寄り添った生徒指導を可能とする。このことで児童生徒の健全なる発育の実現を図る。また多様な生活状況に対応することで保護者の利便性や安心して学校に通わせられる環境を作る。</p> <p>クラウド型校務支援システムの構築に合わせ、校務基盤もオンプレ型からクラウド型に移行し、耐障害性の向上・セキュリティの強化を図ることで、文科省のセキュリティ要件に合致したものとする。</p>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①出欠席連絡アプリによる届出の割合</li> <li>②児童生徒・保護者との相談・面談回数の増加</li> <li>③児童生徒に向き合う時間数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校評価アンケートにて満足度を調査（保護者）</li> <li>②学校評価アンケートにて満足度を調査（児童生徒）</li> <li>③デジタル教材の活用推進</li> </ol>		

# 事業概要 【校務のデジタル化による子供の学び支援・充実事業】

自治体名	埼玉県行田市	人口	78,402人	事業費	157,581千円
事業概要	文部科学省が示す新「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に沿った校務環境を構築することにより、学校での教員間のコミュニケーションの質・量を向上させ、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組みを実現する。				
具体サービス	<p>地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組みを実現するために、「教員間の連携力強化による児童生徒・保護者の満足度向上」と「児童生徒が夢中になれる学び」の、2つの具体サービスを実施する。</p> <p>①校務環境のデジタル化による、教員間の連携力強化と保護者連絡のデジタル化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムの導入 学籍、出席、成績、保健管理等のシステム連携 出欠席連絡及び学校から保護者への連絡のデジタル化 など</li> </ul> <p>②学習環境のデジタル化による、児童生徒が「夢中」になれる学びの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業支援システムの導入 児童生徒のモニタリングや画面共有等</li> <li>・協働学習ツールの導入 児童生徒の意見交換やカメラ機能を使ったノート提出等</li> </ul> <p>※右図の赤枠の整備により、①②を実現する。</p>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①校務支援システムを活用した指導回数</li> <li>②学校からの保護者連絡のデジタル化</li> <li>③授業支援システム、協働学習ツールの使用率向上</li> </ul>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①システムを活用した、学校と児童生徒・保護者との連携活動に対する満足度</li> <li>②学校評価における、連絡のデジタル化に対する保護者満足度</li> <li>③児童生徒の授業への満足度</li> </ul>			

## サービスイメージ



# 事業概要 【地域全体で子供を見守る環境づくりのための校務環境デジタル化事業】

自治体名	埼玉県東松山市	人口	91,094人	事業費	76,716千円
事業概要	<p>本市では、教育におけるデジタル技術の導入と活用について、学習系に比べ、校務系で進んでいない。そこで本事業では、デジタルを活用して学校と保護者・地域とのコミュニケーションの質・量を向上させ、児童生徒が安心して学べるよう、「学校と保護者・地域が協力し合い、お互いの信頼を高めることにより、地域全体で子供を見守る環境」をつくり、地域の活性化とシビックプライドの醸成につなげることを目的とする。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>校務DXを実現するため、クラウド型の統合型校務支援システムを中心とした校務のデジタル環境を導入する。</p> <p>【主な機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●校務のデジタル化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムをクラウド型で運用することで業務の標準化、効率化を実現し、創出される時間を学習環境の充実や児童生徒と向きあう時間に充てる。</li> </ul> </li> <li>●保護者・地域との連絡機能のデジタル化・CMSの導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリ等による出欠連絡やアンケートの実施などにより双方向性を高め、保護者の満足度が向上することができる。</li> <li>・地域への情報発信の質と量を高め、連携・協働を促すことができる。</li> </ul> </li> <li>●セキュリティの強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代校務DXのセキュリティーの課題である多要素認証、通信経路の暗号化を導入しセキュリティーの強化を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<p>■ サービスイメージ</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒一人当たりの日常的に入力された所見等のデータを活用した学習指導や面談等の回数</li> <li>②保護者の連絡システム登録率</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①校務のデジタル化に対する保護者の満足度</li> <li>②保護者連絡システムに対する保護者の満足度</li> </ol>			

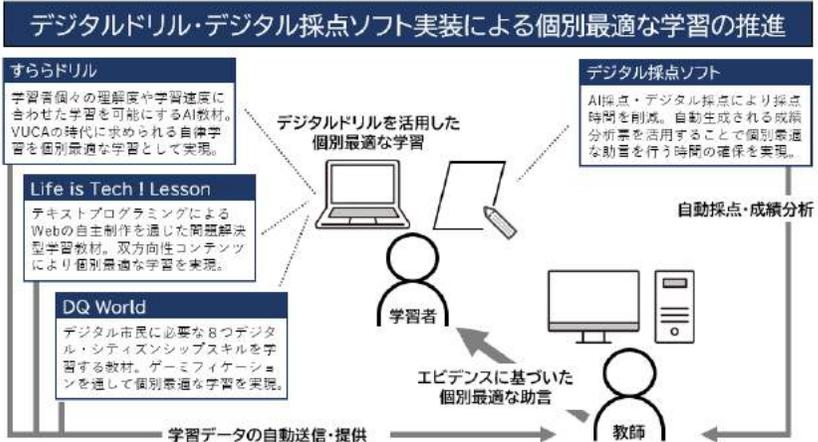
# 事業概要 【教育DX推進事業】

自治体名	埼玉県朝霞市	人口	145,004人	事業費	48,639千円
事業概要	<p>本市は、全国的な人口減少局面においても児童生徒数が増加しており、1学級の人数もほぼ満員かそれに近い状態であることから、教員が児童生徒にかけられる時間も少なくなっている。また、授業進度についていけない児童生徒や不登校状態が継続している児童生徒に対して、各自の学習レベルに応じた教材を学校が提供することが難しく、児童生徒が本人の理解度に応じた学習を進められないといった困り感がある。以上の背景や文部科学省によるDX推進を踏まえ、本市でも教職員の働き方改革を実現するためにクラウドベースの統合型校務支援システムを導入し、校務作業の柔軟性向上、教職員同士の情報共有の円滑・効率化を図り、児童生徒と向き合う時間を創出する。また、学習AIドリル等の学習支援ツールを活用して効果的・効率的な生徒の「個別最適な学び」の推進と学力の向上を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【クラウド版統合型校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校務のデジタル化により業務の効率化と、児童生徒の機密情報のセキュリティ強化を図る</li> <li>児童生徒の学習・健康状況等のデータを基に、日々の変容や成長を可視化し、指導者間でリアルタイムに共有することで根拠に基づくきめ細やかな教育を実践する</li> <li>保護者連絡システムと統合型校務支援システムのデータ連携により、双方向のコミュニケーションを構築し、保護者と密につながる</li> </ul> <p>【学習AIドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1人1人の学習レベルに応じた課題で個別最適な学習環境を実現する</li> <li>児童生徒の学習データやログが可視化されることで、学びのつまづきや意欲の変動を定量的に把握し、より質の高い個別指導や授業設計に活かす</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の日常所見データの登録数</li> <li>②AIドリルの活用頻度</li> <li>③保護者連絡ツールの活用頻度</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者の教育満足度</li> <li>②児童生徒の学級経営満足度</li> <li>③学力テストの結果向上</li> </ol>		

# 事業概要 【電子黒板及び授業支援システム導入事業】

自治体名	埼玉県新座市	人口	166,063人	事業費	48,263千円
事業概要	本市においては、これまで1人1台端末の配備やWi-Fi環境の整備等、GIGAスクール構想に基づき児童生徒の学習環境の充実に取組んできた。今後は、電子黒板の整備と授業支援システムの導入を同時に実施することで、ICTの利活用をさらに推進し、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を目指す。				
具体サービス	<p>【市内全小学校への電子黒板の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで市内全中学校への電子黒板の整備してきたが、小学校には整備できていなかった。</li> <li>・小学校においても、全教室に電子黒板を整備することで、小学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指す。</li> </ul> <p>【授業支援システムの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、授業支援システムのトライアル期間を活用し、各校において活用して、教師主体の授業から児童生徒が主体的に学習活動に取り組む授業へと変化をしてきた。</li> <li>・今後は、継続的に授業支援システムを活用し、更なる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指す。</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①市立小学校への電子黒板の配備率</li> <li>②授業支援システムの使用率（学習者・指導者）</li> <li>③市立小学校での電子黒板の使用時数率</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業内容が分かりやすくなったと回答した児童の割合（第6学年）</li> <li>②「主体的・対話的で深い学び」の実施状況（第6学年）</li> </ol>			

# 事業概要 【デジタルドリル・デジタル採点ソフト実装による個別最適な学習推進事業】

自治体名	埼玉県ふじみ野市	人口	114,056人	事業費	12,215千円
事業概要	<p>個別最適な学習を実現するツールであるタブレットの主体的な活用に関して小中学校間に大きな差異がある現状と、理解度や興味関心に応じたプログラミング教育及び情報モラル・リテラシー教育の実施に課題がある現状に対し、デジタルドリルを実装することで、自律的な個別最適学習を推進する環境を整備する。また、デジタル採点ソフトを実装することで、教職員によるエビデンスに基づいた助言を可能にし、個別最適な学習の支援体制を整備する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p><b>【すららドリル】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者一人ひとりの理解度や学習速度に合わせ自動的に演習問題が出題されるAI教材。</li> </ul> <p><b>【Life is Tech! Lesson】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テキストプログラミングによるWebサイトの自主制作を通じた双方向性コンテンツの問題解決型学習教材。</li> </ul> <p><b>【DQ World】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル市民に必要な8つデジタル・シティズンシップスキルを学習するゲーミフィケーション教材。</li> </ul> <p><b>【デジタル採点ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AI自動採点、デジタル採点、自動での8種類の成績分析が可能なデジタル採点ソフトウェア。</li> </ul> </div> <div style="flex: 2;">  <p style="text-align: center;"><b>デジタルドリル・デジタル採点ソフト実装による個別最適な学習の推進</b></p> </div> </div>				
<p>主なKPI</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①すららドリル利用状況（月間ログイン割合）</li> <li>②Life is Tech!Lesson応用学習完了者割合</li> <li>③DQ World全ゾーンクリア人数割合</li> <li>④成績分析画面を活用した学習者への助言の実施割合</li> </ol> </div> <div style="flex: 2;"> <p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①埼玉県学力・学習状況調査における学力の結果（中学3年生）</li> <li>②全国学力・学習状況調査における学習状況調査の結果（中学3年生）</li> <li>③DQ Worldスコアが全国平均値以上の人数割合（年度末測定値）</li> <li>④埼玉県学力・学習状況調査における学習状況調査の結果（学校質問紙）</li> </ol> </div> </div>				

# 事業概要 【デジタルドリル導入 事業】

自治体名	埼玉県越生町	人口	10,895人	事業費	3,840千円
事業概要	<p>学習環境の向上として、授業という従来の集団学習法だけでは難しい、リアルタイムでの習熟度に応じた個別指導をデジタルドリルによって補完することで、個別ニーズに合わせた学習環境を整え、知識獲得の促進や自己学習意欲の向上が期待される。教職員としても採点等の負担軽減を図り、その分教材研究や進捗データの分析に充てることで授業の質の向上に繋げていく。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【デジタルドリル】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本となる問題から思考力を問う応用問題まで学習指導要領に準拠。小1～中3まで主要強化を収録。</li> <li>・児童生徒の習熟度に応じてヒントやスモールステップの問題が出題され、個別最適学習が可能。</li> <li>・クラス単位＋個別に取り組ませたい問題を選択し宿題配信が可能。宿題ドリルの取組状況を確認し、コメント配信も可能。</li> <li>・児童採点機能で教員の採点業務の負担軽減。</li> </ul>		 <p>基礎から思考・判断・表現力の応用問題</p> <p>教科単元に応じて様々な回答形式を搭載</p> <p>AI機能を搭載</p> <p>宿題配信&amp;コメント機能</p>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①デジタルドリルの取組状況</p>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①町調査による家庭学習に関する改善項目</p>		

# 事業概要 【教育メタバーズによる不登校支援事業】

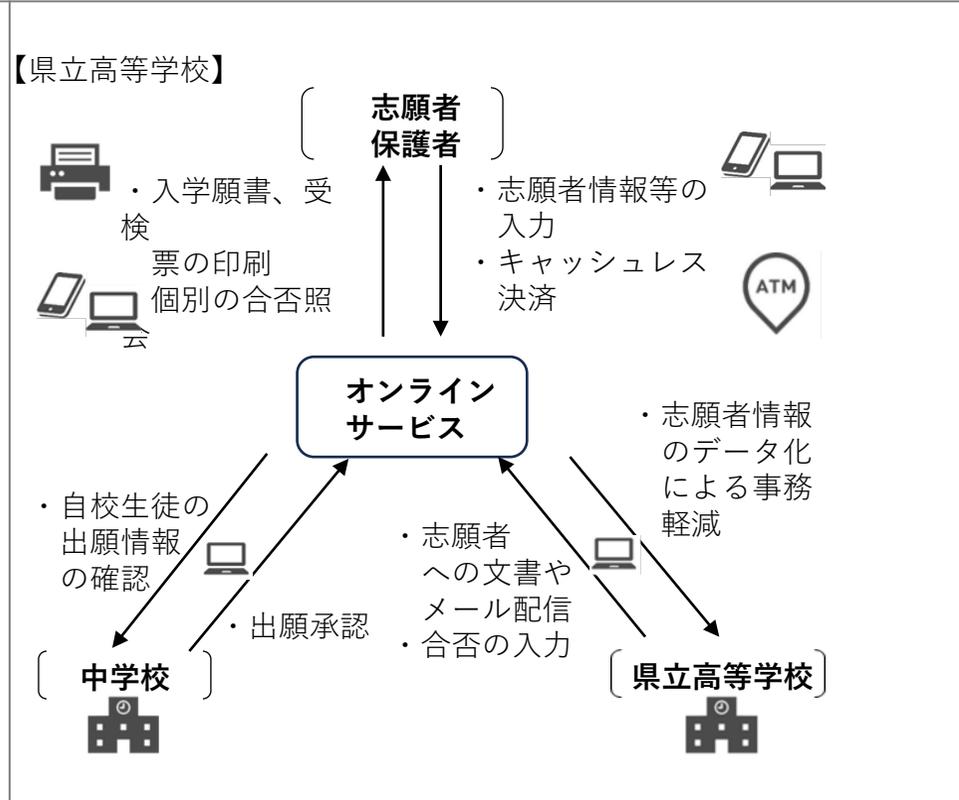
自治体名	埼玉県川島町	人口	18,895人	事業費	612千円
事業概要	<p>新型コロナウイルス感染症等により、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難な状況になってきています。教育や生徒、児童を取り巻く環境も、オンライン教育を始め大きく変化しております。</p> <p>そういった社会背景等により、長期欠席者や不登校者は増加傾向にあり、それらに対する取り組みは急務であると考えております。そのため、不登校の支援として、教育メタバーズの活用を行うことで学びの場所の提供等の、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策を実施するものです。</p>				
具体サービス	<p><b>【教育メタバーズ】</b></p> <p>●教育メタバーズ「FAMcampus」 富士ソフト株式会社が提供しているバーチャル空間上に再現した学習空間に通う教育メタバーズ。 集合授業型や個別指導型といった指導形態に応じて用意されたフロアにログインし、先生や仲間の存在を感じながら、日々の授業や自習といった学習活動に取り組みます。 学習に励む仲間の存在から生徒自身が刺激を受けることにより、学習意欲や競争心の向上につながります。</p>		 <p>「みんなを感じられる教育環境」をコンセプトとした、オンライン授業前後のコミュニケーションを補完するバーチャル空間です。</p> <p>アバターで通う バーチャル教育空間</p> <p>FAMcampus</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自宅から通える</li> <li>仲間の存在を感じられる</li> <li>Web会議ツールで授業できる</li> <li>授業の前後にも話しかけられる</li> </ul>		
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①メタバーズログイン回数 ②メタバーズ上の交流回数</p>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①利用者の満足度</p>		

# 事業概要 【県立学校の入試手続のオンライン・キャッシュレス化】

自治体名	千葉県	人口	6,274,510人	事業費	63,305千円
------	-----	----	------------	-----	----------

**事業概要**  
 県立中学校及び県立高等学校の入学者選抜において、収入証紙による入学検査料の納付からキャッシュレス決済に移行するため、また、志願者の利便性を向上させるため、出願手続等について民間オンラインサービスを活用する。併せて、県立中学校や県立高等学校の事務負担軽減を図る。

- 具体サービス**
- 【インターネット出願サービス】
    - 出願の受付手続
    - 入学検査料のオンライン決済
    - インターネット出願者の管理、受検番号の採番及び受検票の発行
    - サービスの利用方法や決済手段等についての問い合わせにサポートデスクが24時間対応
  - 【学校説明会等予約システム】
    - 各学校の学校説明会等のイベント告知及び参加申込



**主なKPI**

【アウトプット指標（活動指標）】

- ①インターネット出願及び学校説明会予約システム個人ID登録者数
- ②新規実施校キャッシュレス決済利用件数の割合

**【アウトカム指標（成果指標）】**

- ①新規実施校のインターネット出願システムの満足度
- ②新規実施校の学校説明会等予約システムの満足度

# 事業概要 【インターネット出願システム業者委託】

自治体名	千葉県船橋市	人口	648,951人	事業費	1,257千円
事業概要	<p>船橋市立船橋高等学校の入学者選抜の実施にあたり、出願受付、入学検査料の納付、受検票発行やWEB合否照会サービスの機能を持ったインターネット出願システムを導入することにより、出願時の志願者・保護者の手続きを簡素化し、時間や手間の負担軽減と利便性の向上を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【インターネット出願システム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者選抜のための出願手続きにおいて、インターネット出願システムを利用し、出願書類の郵送や持参をせずに、<u>インターネットにて志願校へ出願できる。</u></li> <li>・出願期間内であれば、休日や夜間等、時間に関係なく出願でき、必要事項の記入漏れや誤りを防ぐ仕様としたフォームから入力することで、<u>効率的に誤りなく出願することが可能となる。</u></li> <li>・一連の手続きの中で、コンビニ決済、キャッシュレス決済（クレジット決済）やペイジー（金融機関ATM）での支払いを選択・利用することにより、<u>時間にとらわれず入学検査料を納付できる。</u></li> </ul>		<p><b>インターネット出願の導入</b></p> <p><b>志願者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①IDの登録</li> <li>②志願者情報の入力 志願者情報を入力し、中学校で確認してもらう</li> </ul> <p><b>中学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②入学検査料納付 クレジットカード・コンビニエンスストア等で納付</li> <li>③入学願書を印刷 自宅・コンビニエンスストアで印刷し、中学校へ提出</li> <li>●出願状況を管理画面（中学校側）から確認</li> <li>●その他の書類作成</li> </ul> <p><b>志願者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④高校へ必要書類を郵送 中学校から受け取った必要書類を高校へ郵送</li> </ul> <p><b>高校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●出願状況を管理画面（高校側）から確認</li> <li>●その他の書類と突合</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤受検票・受理証を印刷 自宅・コンビニエンスストアで印刷</li> </ul>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①オンライン志願者数</li> <li>②Web合否照会サービス閲覧率</li> </ul>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①志願者・保護者の満足度</li> </ul>		

# 事業概要 【デジタルを活用した保護者の利便性向上・教育環境充実事業】

自治体名	千葉県館山市	人口	44,252人	事業費	12,250千円
事業概要	<p>メール配信システムの導入により、学校・園-保護者間の連絡を電子化し、保護者との情報共有の迅速化、利便性の向上による負担軽減、さらには教育現場の事務の効率化につなげる。</p> <p>また、学校現場をICT化し事務を効率化することにより、児童生徒と向き合う時間が増え、学力向上につなげるとともに、教職員の働き方改革につなげる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【メール配信システム導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校・園-保護者間の情報共有の迅速化、利便性の向上、負担軽減</li> <li>連絡手段のデジタル化により文書（紙）を削減し、負担軽減、事務の効率化</li> </ul> <p>【採点支援システム導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採点結果を可視化・分析し、データに基づいた学習指導の充実、授業改善を図る。</li> <li>中学校教員の採点事務の効率化</li> </ul> <p>【教師用デジタル教科書&amp;教育コンテンツ配信サービス導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数（1～6年）・社会（5・6年）・理科（3～6年）</li> <li>英語（5・6年）を導入</li> <li>デジタル教科書を使用した授業展開</li> <li>デジタル教科書をクラウド上で有効に使用するための環境整備</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者のメール配信システム登録率</li> <li>②教員の採点支援システム利用率</li> <li>③教師用デジタル教科書&amp;教育コンテンツ配信サービス活用率</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①メール配信サービスの利用者満足度</li> <li>②テストの採点時間短縮</li> <li>③教師用デジタル教科書&amp;教育コンテンツ配信サービスを活用した授業による学力向上</li> </ol>		

# 事業概要 【中学校教育情報化推進事業】

自治体名	千葉県成田市	人口	132,096人	事業費	2,321千円
事業概要	<p>採点支援システム（ブラウザ完結型）を導入し、教員は採点業務（採点、集計、評価、分析）の効率化によって得られた時間を教材研究等に充て、個別最適化された学習機会の提供を実現する。また、分析データから得られた結果を教員間で情報共有するとともに、個々の生徒への事後指導や作問に生かすことにより、学校教育の情報化を推進する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【採点支援システムの導入】 市内中学校及び義務教育学校 10校で利用できるよう、採点支援システムを導入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採点…AI自動採点</li> <li>集計…観点別集計、データ化</li> <li>評価…個人成績表</li> <li>分析…採点結果を自己分析、グラフ化</li> </ul>		 <p>AI自動採点 観点別集計 データ化</p> <p>個人成績表 結果分析</p> <p>効率化によって得られた時間を使って</p> <p>教材研究 個々の生徒への事後指導</p> <p>生徒へのフィードバック</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒への個別指導実施率</li> <li>②ICT機器の活用率</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学習指導に対する満足度</li> <li>②情報活用能力の向上</li> </ol>		

## 事業概要 【デジタル採点システム整備事業】

自治体名	千葉県習志野市	人口	175,087人	事業費	2,515千円
事業概要	<p>テストの採点をデジタル化し、業務の効率化を図る。また、個々の生徒への指導や作問にもいかすことにより、生徒の力を最大限伸ばす質の高い学びの実現を目指す。</p>				
具体サービス	<p>【デジタル採点システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストの採点・集計をデジタル化する機能を有するソフトウェアにより、紙によるテスト結果をデータ化する。</li> <li>・出力した採点データを活用し、観点別得点などのデータを既存の校務支援システムと連携することで、業務の一元化と効率化を図る。</li> <li>・解答用紙の返却は、○×や点数等が付いた解答データを印刷またはデータで行うため、不正防止や事故防止に繋がる。</li> </ul>		<pre> graph LR     A[デジタル採点システム] -- 自動採点 --&gt; B[教員 授業での活用 業務改善]     B -- 個々の能力を把握し指導 --&gt; C[生徒 自分に合った問題に取り組む 苦手を学びなおす 得意を伸ばす]     B -- 個別の学習課題 定期テストの改善 --&gt; C     </pre> <p>・採点時間の縮減 ・学習データの見える化 ・授業改善や個別指導などでの活用</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタル採点システム利用者割合</li> <li>②授業改善に活用した割合</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「進路実現に学校は役に立っている」感じている生徒の割合</li> <li>②「高校生活に満足している」と感じている生徒の割合</li> </ol>		

## 事業概要 【入学者選抜手続等デジタル化事業】

自治体名	千葉県習志野市	人口	175,087人	事業費	1,824千円
事業概要	<p>入学者選抜において、インターネット出願システムを導入し、出願者並びに教職員の負担軽減を図る。また、デジタル採点システムを導入することにより、業務の効率化を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>【インターネット出願システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学検査料の支払いをキャッシュレス化することで、志願者の利便性を向上させる。</li> <li>・入学者選抜のための出願手続きにおいて、インターネット出願システムを利用し出願を行う。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR     A[志願者] -- "志願者情報の入力等" --&gt; B[インターネット出願システム]     B -- "志願者情報の入力等" --&gt; C[中学校]     C -- "志願者情報の出力等" --&gt; D[高校]                     </pre> </div> </div> <p>【デジタル採点システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストの採点をデジタル化することにより、採点ミスの軽減及び業務の効率化を図る。</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①インターネット出願システムの利用率</li> <li>②システム導入後の教職員の採点業務にかかる負担感の軽減率</li> </ol> <p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①インターネット出願システム利用者の満足度</li> <li>②システム導入後の採点時間の短縮割合</li> </ol>				

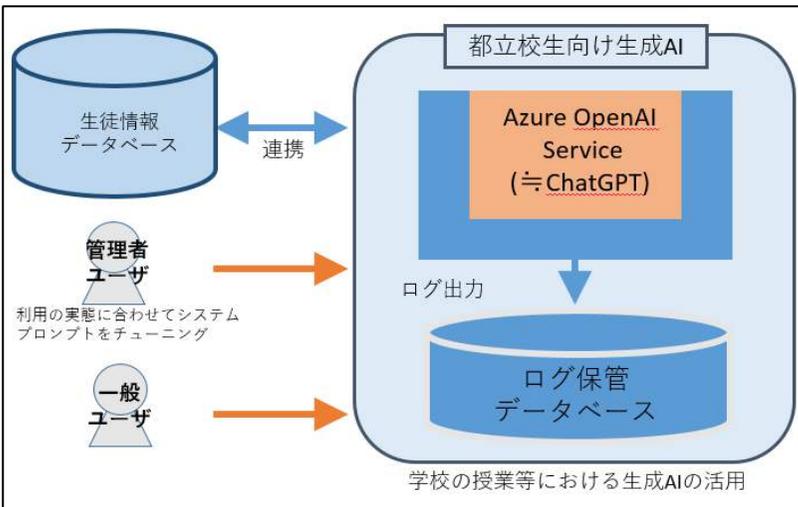
## 事業概要 【学校教育DX推進事業】

自治体名	千葉県山武市	人口	48,426人	事業費	47,328千円
事業概要	<p>デジタル教科書や電子黒板を導入し、ICT機器を積極的に活用できる環境を整備することにより、GIGAスクール構想において全市立小中学校に整備した1人1台端末の更なる利活用を図る。 また、学習記録や学習資料の電子化・共有化を図り、より効果的な学習等を実施する。</p>				
具体サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に一部の市内小中学校で導入しているデジタル教科書や電子黒板を市内の小中学校全体へ展開・導入により、授業のデジタル化を推進する。</li> <li>1人1台端末とデジタル教材や電子黒板を連携させ、同時双方向授業を行う。</li> <li>授業の時間効率を向上させ、楽しくわかりやすい授業を実施する。</li> <li>学習記録や学習資料のデータ化・共有化を行う。</li> <li>オンライン授業によるどこからでも学べる環境とする。</li> <li>MEXCBT、e-ライブラリ等の活用</li> </ul>	<p><b>デジタル教材、電子黒板、1人1台端末の連携</b></p> <div data-bbox="1108 521 1491 671" data-label="Text"> <p><b>デジタル教材の電子黒板への提示</b></p> </div>  <div data-bbox="1108 821 1502 956" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の端末からの転送</li> <li>・児童の発表</li> <li>・児童同士の比較</li> </ul> </div> 			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①デジタル教材を活用した授業の実施回数</li> <li>②電子黒板を活用した授業の実施回数</li> </ul>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①デジタル教材を活用した授業に対する児童生徒の満足度</li> <li>②電子黒板を活用した授業に対する児童生徒の満足度</li> </ul>			

## 事業概要 【電子黒板の活用によるICTの効果的活用とデジタル化の促進事業】

自治体名	千葉県神崎町	人口	5,686人	事業費	1,938千円
事業概要	<p>電子黒板が不足しており、デジタル教材の活用や、生徒児童が各自の端末でまとめた内容を発表する際に全体に掲示し共有することができないなど、授業におけるICTの活用や授業のデジタル化が進んでいません。本事業では、電子黒板やタブレットを活用できるデジタル図鑑（3DAR機能付き）を整備することで、1人1台端末等のICTの効果的活用と授業や教材のデジタル化を促進し教育の質向上を図ります。</p>				
具体サービス	<p><b>【電子黒板】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が個人の端末でまとめた考えを電子黒板に大型提示しての発表や協働学習を行います。</li> <li>・次年度以降更にデジタル教科書、教材の活用を図ります。</li> </ul> <p><b>【デジタル教材】</b> デジタル図鑑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンやタブレットを図鑑にかざすと、動物や昆虫の様子や恐竜の3DARを見ることができます。図鑑連動の動画やARでより子ども達の理解が深まります。</li> </ul>		 <p>児童生徒</p> <p>電子黒板</p> <p>教員</p>		
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板の使用頻度</li> <li>②デジタル教材の授業での利用回数</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の授業理解度</li> <li>②生徒の満足度</li> </ol>		

# 事業概要【都立学校における生成AIの活用】

自治体名	東京都	人口	14,109,648人 (R5.12.1現在)	事業費	169,408千円
事業概要	<p>文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」（令和5年7月4日付）により、子供たちには将来にわたり生成AI等新しい技術を積極的に使いこなそうとする姿勢や情報活用能力の1つとして、生成AIの特性や危険性を理解した上で、自身の判断で学習に役立てていく力を育成する必要性が示されており、都としても課題と捉えている。</p> <p>東京都教育委員会では、都立学校生の情報活用能力の育成に向けた学校の取組をより一層充実させるため、授業等で活用できる安全な生成AI利用サービスを構築し、全都立学校生徒及び教職員の利用に向けた環境整備を提供するとともに、活用の促進を図るものとする。</p>				
具体サービス	<p>【都立校生向け生成AI（専用領域）】 （特徴）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ChatGPT3.5または4.0以上の機能を有する</li> <li>② 入力されたデータは再学習に利用されない</li> <li>③ 通信は暗号化され、第三者から盗聴できない</li> <li>④ 利用実態に合わせて細かなチューニングが可能 （生成AIメニュー）</li> </ul> <p>利用者の目的に応じて次の2種類のメニューを搭載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 標準メニュー 特定の目的に特化しない標準的なシステムプロンプトを用いて構築し、利用者がプロンプト入力を行いながら汎用的に使用</li> <li>② 専用メニュー 利用者が問題回答指導や英会話指導等使用目的によって複数種類のメニューの中から使い分け、教育的価値の高い回答を得るために使用</li> </ul>		 <p>学校での授業等における生成AIの活用</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】 生成AIサービスの利用者数及び各メニューの利用回数 等</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】 生成AIサービスを活用したことによる情報活用満足度の向上等</p>			

## 事業概要 【校務支援クラウドサービスの導入】

自治体名	東京都千代田区	人口	68,801人	事業費	63,632千円
事業概要	千代田区の地域リソース、教育リソースを活用し、学校を中心としたスクールコミュニティ活動のICTプラットフォームとして活用できる校務支援クラウドを導入し、校内での生徒の様子や家庭での状況を把握し、生徒、教職員、保護者、地域が連携して、生徒対応の充実と教育の質の向上を図る。				
具体サービス	<p>【校務支援クラウドサービス】</p> <p>生徒1人ひとりの日々の活動を一元管理することで、多種多様な情報を統合的に活用できる。</p> <p>生徒の状況を把握し、保護者、地域と密接にかかわることで、安心して充実した学校生活を過ごせるように地域全体で教育の質を向上させる。</p> <p>教育関係者のデジタルスキルを向上することで、校務事務作業の負担を軽減して、生徒と向き合う時間を創出し個別最適な学びを支援する。</p>		<p>全体イメージ</p> <p>家庭 (保護者・生徒)                      地域 (民間・NPO、大学)</p> <p>校務支援クラウドサービス</p> <p>学校・教育委員会</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①学校からのデジタル情報の投稿数（利用件数）</p> <p>②生徒に向き合う時間数（教職員 1月当たり時間）</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①生徒 サービスの充実度評価</p> <p>②保護者 サービスの充実度評価</p> <p>③教職員 生徒と向き合う時間の充実度評価</p>		

## 事業概要 【テスト採点支援ツールの導入】

自治体名	東京都江東区	人口	539,127人	事業費	5,965千円（※）
事業概要	<p>当該ツールの導入により、区立中学校及び義務教育学校（全24校）に在籍する生徒を対象として実施される定期テストの採点、集計に係る業務を「デジタル化」し、教員の負担を軽減することで、「個に応じた指導」の充実を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【テスト採点支援ツール】            テスト実施後に回収したテスト用紙を複合機でスキャンし、データ化した上で、端末を用いてテストの採点、点数の集計を行うツール（詳細については、P4のとおり）            ※一般競争入札前の見積金額</p>		<p>【従前】</p>  <p>採点～集計～システムへの転記が手作業</p> <p>↓</p> <p>【今後】</p>  <p>端末を用いて画面上で完結</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】            ・生徒との面談の回数及び時間</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】            ・生徒の満足度評価</p>		

# 事業概要 【未来の学校の「新たな学び」を支えるEdtechコンテンツ導入事業】

自治体名	東京都渋谷区	人口	230,870人	事業費	27,405千円(R6)
事業概要	<p>・本区では、今後20年間の学校施設建て替え計画（26校中22校）と合わせて、子どもたちの自己調整力や創造力、挑戦力を育むため、街全体を学びのフィールドとする探究・STEAM教育の充実を図り、これを軸とした「新たな学び」への転換を進める。</p> <p>・「新たな学び」の実現に向けては、これまでの学校教育とデジタル・テクノロジーとのベストミックスを図り、効率的・効果的な学習内容の定着と、子どもの興味・関心や探究心を駆り立てる多様な学習環境を創る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【Inspire High（R6中学校に導入）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様なコンテンツをもとに、子どもの興味・関心を広げ、探究に必要な「問いを立てる力」を育む。</li> <li>探究学習や教科のカリキュラムでの活用により、学習の質向上を図る。</li> </ul> <p>【オンライン英会話（R6中学校に導入）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英会話講師とオンラインで1対1の会話練習を実施し、外国語の学力向上を図る</li> </ul> <p>【AIドリル（R7全校導入）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIドリルを軸とした自由進度学習により、学習の定着の効率化や自己調整力の向上を図る</li> </ul> <p>【AI英会話（R7中学校導入）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話中心の学びを促進し、会話力向上を図る</li> </ul>		<p>地域全体をフィールドとした探究・STEAM教育を「新たな学び」の軸とし、それを支える環境として、Edtechコンテンツを導入</p> 		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Edtechコンテンツ活用モデルケース創出</li> <li>活用促進の研修・研究授業の実施</li> <li>利用率、学校支援の回数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学習意欲の向上（全国学力学習状況調査）</li> <li>学力の向上（全国学力学習状況調査、GTEC、ESAT-J）</li> <li>学校満足度向上（全国学力学習状況調査）</li> </ol>		

# 事業概要 【学校図書館事業、読書推進教育事業】

自治体名	東京都渋谷区	人口	230,870人	事業費	32,788千円
事業概要	<p>渋谷区における小、中学校の不読率の現状や読書状況の実態より、昨今の児童生徒の読書離れへの対策が必要である。本事業にて、1人1台端末を活用した新たな学校図書館システムの導入、電子書籍コンテンツの拡充を行うことによって、児童生徒たちの本への興味・関心の幅を広げ、読書活動の推進を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【クラウド型学校図書館システム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紙の本だけでなく、電子書籍、オーディオブックなどの電子コンテンツも全て一つのシステム上で検索、管理</li> <li>各児童や生徒ごとの貸出履歴や読書分析</li> <li>1人1台端末を活用したセルフ貸出機能</li> </ul> <p><b>【電子書籍読み放題サービス「Yomokka!」】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いつでも、どこでも、好きなだけ！」をコンセプトに子どもたちの読書環境を支え、新たな読書体験を提供することを目指した電子書籍読み放題サービス</li> <li>出版社35社約3,800冊の作品が掲載され、同じ本を何人でも同時に閲覧可能</li> <li>直感的なインターフェースと本との出会い機能を搭載し、児童生徒の読書意欲が向上</li> <li>児童生徒は1人1台端末にて、学校でも家庭でも読書を楽しむことが可能</li> </ul>		 <p>The infographic is divided into two main sections. The top section, titled '学校現場における課題' (Issues in the School Field), lists three points: 01. Limited borrowing by one person at a time, 02. Limited borrowing of titles, and 03. Limited management of digital content. The bottom section, titled '新学校図書館システムの特徴' (Features of the New School Library System), shows a unified management interface for both paper and digital books, highlighting the 'Yomokka!' service. A callout box states: '紙と電子の一元管理で児童生徒に幅広い読書機会を提供' (Provide a wide range of reading opportunities for children and students through unified management of paper and digital books). Below this, it details the 'Yomokka!' service: '35社の3,800冊が読み放題!!' (Unlimited reading of 3,800 titles from 35 publishers!!). It lists benefits such as simultaneous access to the same book, intuitive interfaces, and the ability to read at home or school.</p>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①小中別一人当たりの貸出冊数</li> <li>②媒体別一人当たりの貸出冊数</li> <li>③電子書籍サービス利用率及び利用冊数</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①読書が好きな人の割合</li> <li>②学校図書室利用満足度向上</li> <li>③不読率の低減、1日あたりの読書時間の増加</li> </ol>		

# 事業概要 【家庭・地域・学校が一体となった地域協働による子供の育成のための教育DXの導入】

自治体名	東京都羽村市	人口	54,497人	事業費	87,296千円
事業概要	<p>将来の羽村市を担う子供たちの「生きる力」の育成に向け、家庭・地域・学校の全ての大人が協働できる体制づくりを強化するため、保護者・地域住民、学校の相互連絡システムを活用した双方向コミュニケーションのデジタル化を促進するとともに、校務系及び学習系データの連携及び一体管理を進め、教育情報を円滑に共有・連携できる仕組みにより、個別最適な学びの提供を実現する。</p>				
具体サービス	<p>【はむら版教育DXプラットフォーム】 保護者・地域住民、学校の相互連絡システム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>24時間、欠席連絡をWebシステムで自動受付</li> <li>学校だよりや個別連絡をWebシステムで対応し、連絡の確実化、迅速化を実現</li> <li>行事予定がいつでも、どこでも確認可能で、急な変更の迅速な反映・通知も可能に</li> </ul> <p>校務系データと学習系データの連携・一体管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の出欠・成績等の情報と学習履歴の分析、活用（見える化）が可能に</li> <li>経年分析ができ、小・中学校の連携がスムーズに</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保護者・地域住民、学校の相互連絡システムの活用学級数</li> <li>② 校務支援システムを活用した生徒との面談回数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教育活動の公開に対する保護者の肯定的評価</li> <li>② 確かな学力の定着に対する保護者の肯定的評価</li> <li>③ 生徒の学級満足度</li> </ol>		

## 事業概要 【指導者用デジタル教科書の整備】

自治体名	東京都西東京市	人口	206,128人	事業費	29,598千円
事業概要	指導者用デジタル教科書導入による学習理解度及び成績の向上				
具体サービス	<p>指導者用デジタル教科書の導入によって授業のICT化促進を図り、学習理解度を向上させることを目的とする。</p> <p>紙の指導書にはない音声教材や動画教材等のコンテンツを授業に活用することで、児童の学習理解度を高めて成績向上を図る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <b>指導者用デジタル教科書を活用し、 学習者に視覚的・聴覚的に提示</b> </div> <p style="text-align: center;">学習者 ← 指導 → 指導者用デジタル教科書 指導者</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①指導者用デジタル教科書利用校数</p> <p>②指導者用デジタル教科書利用学年数</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①指導者用デジタル教科書活用による理解度向上</p> <p>②指導者用デジタル教科書活用による成績向上</p> <p>③指導者用デジタル教科書活用による児童の満足度向上</p>			

# 事業概要 【学習支援システム及び家庭と学校の連絡システム稼働・運用事業】

自治体名	神奈川県横浜市	人口	3,754,737人	事業費	198,000千円
------	---------	----	------------	-----	-----------

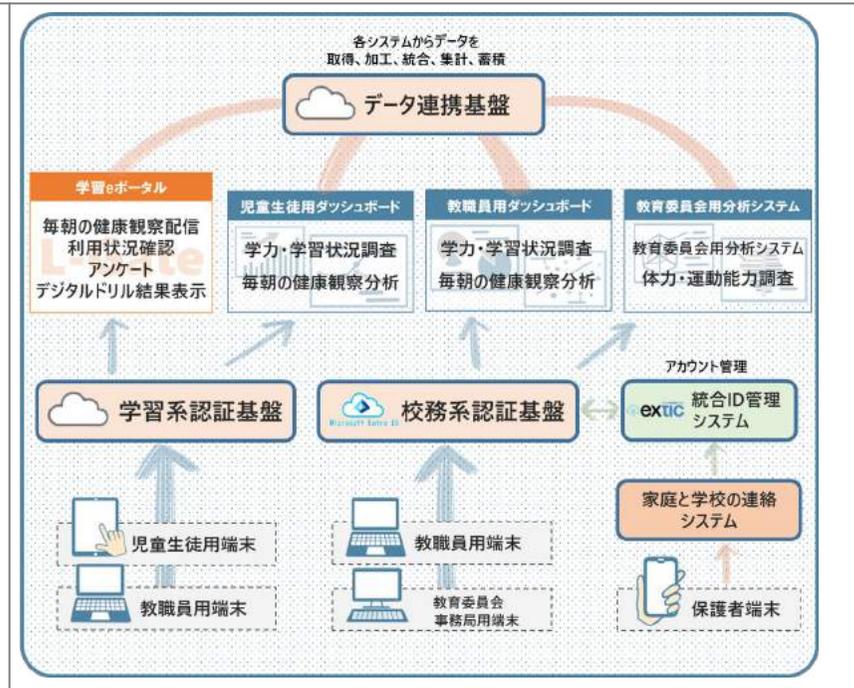
**事業概要**  
 児童生徒の学びに関する教育ビッグデータを収集、分析し、可視化するための「学習支援システム」を、令和5年度に試行したモデル校に加え、全校に導入し、学校でのデータ利活用や、各種施策の検討、効果検証等を進めるとともに、新たな機能やデータ項目の追加など、機能の充実及びシステムの改善を図る。また、令和5年度中に試行校で試験運用を行った「家庭と学校の連絡システム」を全校に導入し、家庭と学校間の連絡をデジタル化することで、保護者及び教職員の負担軽減と利便性向上を図る。

**【学習支援システム】**

- 児童生徒及び保護者は、ダッシュボード上に蓄積されたデータを活用し、学習の理解や習熟の状況を把握、日々の学習に生かす
- 教職員は、客観的なデータを活用し、学習の理解や習熟の状況を把握、日々の授業改善や教育活動の質の向上に生かす
- 教育委員会事務局は、収集・蓄積されたデータを可視化し、さらに民間企業や研究機関等と協働して分析、各種施策の効果検証や改善につなげる

**【家庭と学校の連絡システム】**

- 家庭と学校間の連絡・情報共有をデジタル化し、保護者と教職員がお互いに効果的・効率的にやりとりできるようにすることで、双方の負担軽減と利便性向上を図る



**主な KPI**

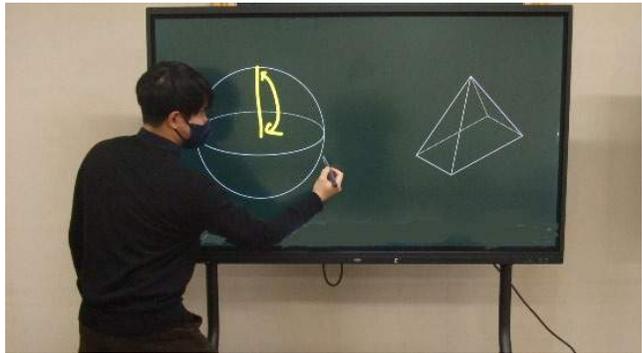
**【アウトプット指標（活動指標）】**

- ①児童生徒用ダッシュボード（日々の健康観察、生活・学習アンケート）へのアクセス数
- ②保護者等のアプリ登録者数

**【アウトカム指標（成果指標）】**

- ①横浜市学力・学習状況調査で示す学力レベルにおいて、小学校6年の国語・算数、中学校3年生の国語・数学で伸びを示した児童生徒の割合
- ②自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり、話し合ったりしていると思う児童生徒の割合
- ③保護者の満足度

# 事業概要【電子黒板の導入】

自治体名	神奈川県横須賀市	人口	374,800人	事業費	200,000千円
事業概要	1人1台端末の活用効果をさらに高めるために中学校に電子黒板を導入。電子黒板を活用した授業を実施することで、教師の授業改善による生徒の学習意欲の向上、教室に行けない生徒(不登校等)へのフォロー、生徒のプレゼン能力等の向上、教員の負担軽減を図る。				
具体サービス	<p><b>【生徒向け】</b></p> <p><b>①学習意欲向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心が高まるわかりやすい授業の実施 画像や動画を投影、手で図形の回転・移動・拡大などといった視覚的な理解を促す効果的な授業を実施</li> </ul> <p><b>②やむを得ない理由により教室に行けない生徒へのフォロー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別室での個別授業 電子黒板を記録したデジタルデータの利用や同時配信</li> </ul> <p><b>③生徒のプレゼン能力等の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案・発表場面の充実 生徒の端末から電子黒板に考えを投影し、生徒同士による双方向の授業を実施</li> </ul> <p><b>【教員向け】</b></p> <p><b>④教員の負担軽減</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の効率化 事前に板書を作成、前回の板書の再利用を実施</li> </ul>		  <p>授業前 先生：職員室で作成した授業資料を保存して… 生徒：前回授業で作成した発表資料を保存して…</p> <p>別室で個別授業</p>		
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①常時(毎日複数の授業で活用等)電子黒板を活用している学級割合</p> <p>②ICTを活用した研究発表(学級数)</p> <p>③授業の効率化(ペーパーレス、板書の削除)</p>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①生徒の習熟度</p> <p>②ICT活用した研究発表のアンケートによる満足度</p> <p>③教員へのアンケートによる授業準備等への業務時間の削減</p>		

# 事業概要 【小中学校保護者向けデジタル連絡ツール導入事業】

自治体名	神奈川県大和市	人口	243,412人	事業費	1,780千円
事業概要	<p>連絡ツールの導入により、保護者は一つのスマホアプリで、小中学校からの緊急連絡等に加え、添付ファイル付のお知らせを受け取れるようになるほか、翻訳機能を備えることで、外国人保護者が情報を円滑に取得できるようになる。また、これまで紙で行っていたアンケートも当該アプリでオンライン化し、児童生徒を介した受渡を不要とするとも保護者が空いた時間に容易に回答できるようにし、家庭の負担軽減を図る。その副次効果として、教職員の負担を軽減し、児童生徒と向き合う時間の確保を目指す。</p>				
具体サービス	<p>【想定する主な機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪、不審者、自然災害等の情報を保護者へアプリおよびメールで迅速に通知。</li> <li>・学校ごとの連絡事項をアプリおよびメールで配信</li> <li>・学校からのたよりを添付ファイルで送信</li> <li>・保護者向けアンケートの送付・回収のオンライン化</li> <li>・日程調整機能</li> <li>・自動翻訳機能(12言語対応)</li> <li>・既読確認・再通知機能</li> </ul> <p>【対象校等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和市立小学校：19校</li> <li>・大和市立中学校：9校</li> <li>・児童生徒数：17,447人（R5.5.1時点）</li> </ul>		<p>学校、部活動、地域協力者などの単位で保護者へメッセージが送付可能</p> <p>教育委員会 学校 部活動 地域協力者</p> <p>一斉送信</p> <p>保護者</p> <p>・添付ファイル付きメッセージの受信 ・アンケートの回答 ・欠席・遅刻の連絡</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①サービス利用者数</li> <li>②アンケート機能利用件数</li> <li>③お便りの配信件数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者の満足度</li> </ol>		

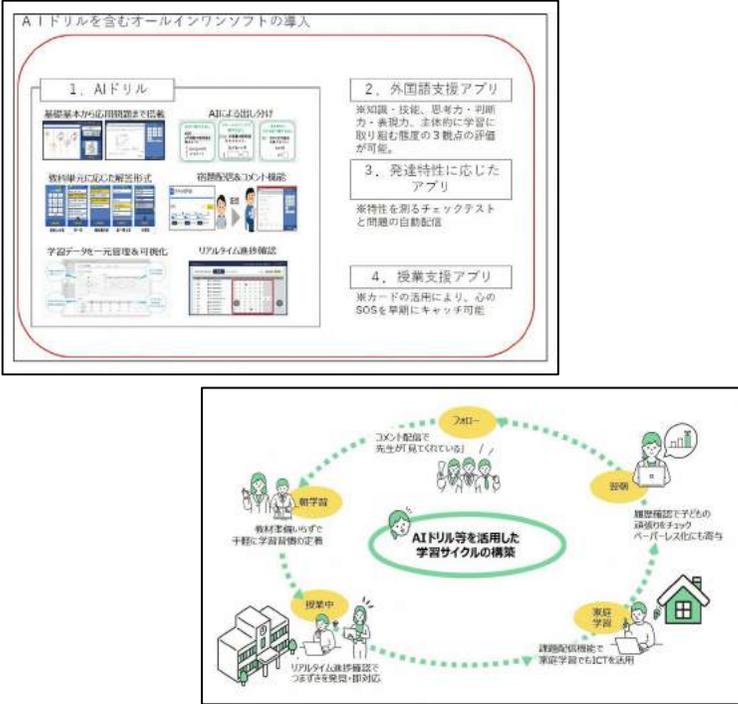
# 事業概要【ICTを活用した学びの改革推進事業】

自治体名	神奈川県葉山町	人口	32,279人	事業費	7,423千円
事業概要	<p>本町では小中一貫校の令和7年度開設を見据え、「個に応じた学び」「探究的な学び」の実現が喫緊の課題となっている。そのため、AIドリルなど4つのICTサービスを活用することで、児童・生徒の「学びの個別最適化」「探究的な学び」の実現を図ることで、9年間の系統的なカリキュラムを作成し、小中一貫校開設につなげていくこととする。</p>				
具体サービス	<p><b>【AIドリル】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIの分析による個別最適な学習で確かな学力が身に付く</li> <li>不登校児童生徒などへの支援教育の充実</li> <li>教員の働き方改革に直結する</li> </ul> <p><b>【児童生徒支援のための教職員用ソフト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援が必要な児童生徒への適切なアセスメント</li> <li>個に応じた教材作成</li> <li>研修動画による教員の研鑽、授業力の向上</li> </ul> <p><b>【運動の分析のためのICTサービス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動きを録画・分析、話し合い等を通して、探究的な体育の学習を促進</li> </ul> <p><b>【多様な生き方に触れて考えを交流するためのICTサービス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生き方・経験を有する大人が語る動画から考えをアウトプット、交流し、自己の生き方について深く考える</li> </ul>				
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①【AIドリル】ひと月当たりの平均利用日数</li> <li>②【児童生徒支援のための教職員用ソフト】ひと月当たりの平均利用日数</li> <li>③【運動の分析のためのICTサービス】年間利用回数の累計</li> <li>④【多様な生き方に触れて考えを交流するためのICTサービス】年間利用回数の累計</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①【AIドリル】活用度</li> <li>②【児童生徒支援のための教職員用ソフト】活用度</li> <li>③【運動の分析のためのICTサービス】活用度</li> <li>④【多様な生き方に触れて考えを交流するためのICTサービス】生徒の意識の変容</li> </ol>		

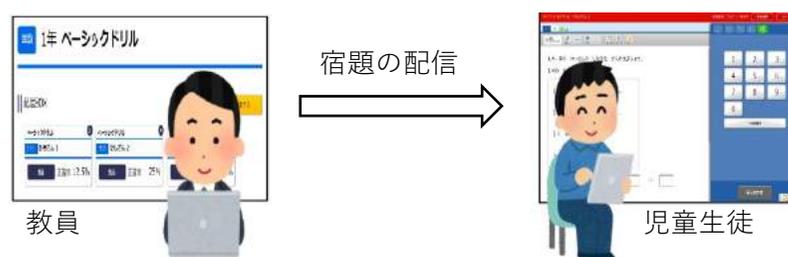
# 事業概要 【学校給食費等DX事業】

自治体名	新潟県新潟市	人口	768,095人	事業費	84,989千円
事業概要	<p>保護者が支払う学校給食費の徴収管理について、学校の事務から市の事務へ移行するにあたり、DXを進め、全児童生徒等の給食費等のデータを集中管理し、保護者とのやり取りも可能とするシステムを構築する。その他学校徴収金も一括徴収し、保護者の利便性向上を図る。また、給食費等の振替口座の登録をWEB上で行う。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p><b>【保護者通知システム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食の申込や通知等を中心に、欠席情報など、保護者との連絡等に利用できる通知システムを導入</li> </ul> <p><b>【保護者振替口座のWEB登録】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食費等の振替口座を保護者がWEBで登録できる</li> </ul> <p><b>【学校給食費等徴収管理システム】</b></p> <p>児童生徒の給食の喫食情報や請求・支払等のデータ及び保護者の金融機関口座情報を管理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者は学校指定でなく、任意の金融機関口座を引落口座にできる。</li> <li>口座振替以外もバーコード決済も可能となる。</li> <li>清算、返金の現金処理が減り、保護者負担や現金処理のリスクが減少する。</li> <li>アレルギー情報管理により保護者の安心度が高まる。</li> </ul> </div> <div style="flex: 2;"> <p>The flowchart illustrates the system's workflow. At the top, '保護者' (Guardian) interacts with '保護者通知システム' (Guardian Notification System) and 'WEB口座登録' (WEB Account Registration). The '保護者通知システム' handles '給食申込' (Lunch application) and 'アレルギー情報' (Allergy information). 'WEB口座登録' handles '口座登録' (Account registration) and '口座振替' (Account transfer). '金融機関等' (Financial Institutions) handle '入金・徴収データ' (Payment/Collection data) and '入金(学校徴収金)' (Payment (School collection)). The '教育委員会' (Education Committee) and '学校' (School) handle '給食申込' (Lunch application), 'アレルギー情報' (Allergy information), '欠食連絡' (Absence contact), '個別請求データ' (Individual request data), '全体請求データ' (Overall request data), and '徴収データ入力' (Collection data input). The '給食センター' (Cafeteria) handles '情報共有' (Information sharing) and '欠食情報+学校徴収金額の入力' (Absence information + school collection amount input). The '学校給食費等徴収管理システム' (School Lunch Fee Management System) is the central hub for '個別請求データ' (Individual request data), '全体請求データ' (Overall request data), and '徴収データ共有' (Collection data sharing).</p> </div> </div>				
<p>主なKPI</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>保護者通知システム利用登録者数</li> <li>WEBによる口座登録件数</li> <li>学校給食費等徴収管理システムによる一括徴収登録者数</li> </ol> </div> <div style="flex: 2;"> <p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>保護者の満足度（保護者通知システム）</li> <li>保護者の満足度（WEB口座登録）</li> <li>保護者負担による振替手数料の減（学校給食費等徴収管理システム）</li> </ol> </div> </div>				

# 事業概要 【ICTを活用した学力向上推進事業】

自治体名	新潟県三条市	人口	92,507人	事業費	19,796千円
事業概要	<p>家庭での学習時間の不足や発達特性により、学習の困難さを抱える児童生徒が増加し、当市の児童生徒の学力は低下傾向にある。これらの課題を解消するため、AIドリル、発達特性に応じたアプリ、外国語の支援アプリ等が一体化されたソフトを導入し、学習者用端末をより効果的に活用することで、自分のペースや理解度に応じた個別最適な学びの充実を図り、学力向上ひいては、学びや日々の生活への前向きな意欲の醸成につなげていく。</p>				
具体サービス	<p><b>【AIドリル】小1～中3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本となる問題から思考力・判断力・表現力を育成する応用問題まで学習指導要領に準拠した内容で、小1～中3までの国語・算数数学・理科・社会・英語を収録。</li> <li>・習熟度に応じて問題が出題され、個別最適な学習が可能。</li> <li>・一斉、個別に取り組みせたい問題、時間を設定し、配信が可能。取組状況をリアルタイムに把握可能。</li> <li>・自動採点機能で、教員の採点業務の負担軽減。</li> </ul> <p><b>【発達特性に応じたアプリ】小1～小6</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の特性を測るチェックテストで個々の特性を把握可能。</li> <li>・特性に合わせた問題の自動提案。</li> <li>・教員、保護者が児童の取組状況をリアルタイムで把握可能。</li> </ul> <p><b>【AIを用いた外国語「話すこと」の支援アプリ】小5・6</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストと練習の2エリアを保有。</li> <li>・知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3観点の評価が可能。</li> </ul>		 <p>AIドリルを含むオールインワンソフトの導入</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. AIドリル</b>              家庭基本が応用問題まで広範囲              AIによる出し分け              教科単元に合わせた解答形式              各種問題形式のAI検定              学習データ一元管理も可視化              リアルタイム進捗確認         </li> <li><b>2. 外国語支援アプリ</b>              発音・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3観点の評価が可能。         </li> <li><b>3. 発達特性に応じたアプリ</b>              発達特性を測るチェックテストと問題の自動配信         </li> <li><b>4. 授業支援アプリ</b>              東カードの活用により、心のSOSを早期にキャッチ可能         </li> </ol> <p>学習サイクルの構築</p> <p>「AIドリル等を活用した学習サイクルの構築」</p> <p>授業前：教材を調べ、予習で予習学習目標の設定</p> <p>授業中：リアルタイム進捗確認で進捗状況を把握・個別対応</p> <p>授業後：AIドリル等での学習時間の確保</p> <p>家庭学習：AIドリル等での学習時間の確保</p> <p>家庭での学習時間の確保</p> <p>家庭での学習時間の確保</p>		
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①AIドリル等の学校での活用割合</li> <li>②AIドリルを活用した宿題のデジタル化の割合</li> <li>③発達特性に応じたアプリの学校での活用人数</li> <li>④発達特性に応じたアプリの学校での活用割合</li> <li>⑤AIを用いた外国語「話すこと」の支援アプリの学校での活用割合</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①NRT学力検査の偏差値の向上</li> <li>②家庭での学習時間の時間数の増加</li> <li>③児童生徒のAIドリル等の活用満足度</li> <li>④発達特性に応じたアプリ利用者児童の活用満足度</li> <li>⑤AIを用いた外国語「話すこと」の支援アプリの活用満足度</li> <li>⑥AIを用いた外国語「話すこと」の支援アプリの家庭での活用度</li> </ol>		

# 事業概要 【AIドリル導入事業】

自治体名	新潟県佐渡市	人口	49,455人	事業費	11,196千円
事業概要	<p>佐渡市立小中学校（全35校）にGIGAスクール事業で整備した1人1台端末で利用できる授業支援ソフトとAIドリルを導入することで、佐渡市では民営の塾が少なく「個別最適な学び」を提供できる場が少ないという課題を解決するとともに、教員の負担軽減に向けた働き方改革を実現する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【導入するサービス】 株式会社ベネッセコーポレーションが提供するオールインワンソフト「ミライシード」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業支援ソフト           <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業支援機能（画面ロック・共有・転送、ファイル共有、保存機能等）</li> <li>・シンプルな操作性で低学年でも使用可能</li> <li>・成果物を一覧で表示、比較</li> </ul> </li> <li>○AIドリル           <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎から思考、判断、表現力の応用問題</li> <li>・リアルタイムで進捗確認</li> <li>・教科単元に応じて様々な回答形式</li> <li>・宿題配信とコメント配信</li> <li>・AI機能の搭載</li> </ul> </li> </ul>		<p>【授業支援ソフト】</p>  <p>児童生徒</p> <p>教師</p> <p>画面やファイルの共有</p> <p>画面ロック 画面共有・転送 ファイル共有・保存</p> <p>【AIドリル】</p>  <p>教師</p> <p>児童生徒</p> <p>宿題の配信</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①AIドリルの活用時間</li> <li>②授業支援ソフトの活用時間</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査の調査結果</li> <li>②教職員の導入サービスへの満足度</li> </ol>		

# 事業概要 【情報配信連絡システム事業】

自治体名	新潟県聖籠町	人口	14,108人	事業費	528千円
事業概要	<p>学校と保護者間の連絡手段として、情報配信連絡システムを導入し、保護者、教師の時間の効率的な利用を促し、教師や保護者が子どもに向き合う時間を確保する。併せて、放課後子ども教室や児童クラブ、部活動の地域指導者などと学校、保護者との情報共有を図る。さらに、既存の防災情報連絡ツールとの連携による保護者に対する防災情報の伝達手段の拡充を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【学校・保護者・地域連絡システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• お便りのデジタル配信</li> <li>• アンケート機能</li> <li>• 欠席・遅刻連絡のデジタル化</li> <li>• 自動翻訳機能</li> <li>• 学校アカウントの管理機能</li> </ul>	<p>The diagram illustrates the flow of information. On the left, 'School Management Related Parties' (学校運営関係者) includes the Education Committee (教育委員会), Elementary and Middle Schools (各小中学校), Children's Clubs (児童クラブ), After-school Children's Classroom (放課後子ども教室), Clubs (部活動), and Local Collaborators (地域協力者). Below them is 'Administrative Staff' (行政関係者) and 'Disaster Response' (防災担当課). On the right, 'Guardians' (保護者) are shown with a smartphone displaying a message. At the bottom right, 'Town Residents' (町民) are shown receiving information through a speaker, individual mobile phone, LINE, and X. Arrows indicate the direction of communication: 'All schools at once' (一斉休校のお知らせ), 'School-specific' (学校だより), 'Schedule' (日程のお知らせ), and 'Various notices' (各種お知らせ) flow from the school side to guardians. 'Survey responses' (アンケート回答) and 'Absence/late arrival' (欠席連絡) flow from guardians back to the school side. 'Town emergency information' (町の緊急情報) flows from administrative staff to guardians and town residents. The system uses 'SUGUMAIL' for school communications and 'SUGUMAIL Plus' for disaster information.</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①連絡システムの配信数</li> <li>②連絡システム登録者数</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者による導入効果の評価（小中学校）</li> </ol>			

# 事業概要 【金沢市特別支援教育推進事業】

自治体名	石川県金沢市	人口	457,602人	事業費	4,717千円
事業概要	<p>特別な配慮や支援を必要とする児童生徒は年々増加し、その内容も複雑化・多様化しており、児童生徒一人一人の教育ニーズに応じた指導・支援に課題が見られる。</p> <p>児童生徒一人一人の資質・能力を伸ばし、充実した学びを提供するため、教育ソフトの導入し、学校で児童生徒の教育ニーズを把握し、適切な支援・指導につなげるとともに、特別支援教育サポートセンターにおいて読み書き支援プログラムを実施し、学校での支援が困難な読み書きに困難を抱える児童生徒に対するサポートを行う。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>LITALICO教育ソフトの導入</b>            実施場所：市内13小中学校</p> <p>①児童生徒の実態把握            4種のアセスメントに基づき、スキルや特性を多角的に把握</p> <p>②教育支援計画・指導計画（まなびプラン）の作成            児童生徒の実態に応じた個別最適の計画を作成            学校内でのスムーズな情報共有が可能</p> <p>③ニーズに応じた教材            困りの観点や伸ばしたい力の観点で個別最適な教材を選択</p> <p>④児童生徒の理解のための研修            特別支援教育に関する動画で教職員の理解を深める</p> <p><b>読み書き支援プログラム</b>            実施場所：特別支援教育サポートセンター</p> <p>①小中学生向けプログラム            ICT機器を活用して自分に合った適切な学習方法の習得</p> <p>②保護者等向けプログラム            ICTの活用意義や読み書きに困難さを抱える児相生徒への支援方法</p>	<p>LITALICO教育ソフト</p>  <p>アセスメント結果画面</p>  <p>まなびプラン まなび教材 まなび動画</p> <p>読み書き支援プログラム</p> 			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①立てた計画に基づいた教材をまなび教材から選定            ②読み書き支援プログラムを修了した延べ児童生徒数</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①「まなびプラン」を使って出力した計画をもって面談をした数            ②読み書き支援プログラム修了児童生徒の保護者満足度</p>			

# 事業概要 【小中学校コンピューター学習活用推進事業】

自治体名	石川県能美市	人口	49,693人	事業費	11,770千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想から4年が経過し、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」をさらに進める上で、教育活動の一層の高度化が求められている。</p> <p>授業支援システムウィンバードを導入し、児童生徒が友達の考えを一覧表示や個別表示で参照でき学びの交流に生かすことができるサービスを提供する。自分の考えと友達の考えをPC画面で比べたり、自分の考えに取り入れたりすることで子供自身の学びを深めることが期待できる。</p> <p>Google for education PULSを導入することで、子供達一人一人の学習状況がデータで可視化されるサービスを子供と保護者に提供したい。子供達の能力を最大限に引き出せるようデータを生かして教師が個別に支援したり、保護者に提供できる。また、子供自身が自分の学習状況を把握することで、主体的に学びを自己調整していくことが期待できるサービスで、子供達の学びの高度化を実現したいと考える。</p>				
具体サービス	<p>【授業支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の端末活用状況や考えの把握</li> <li>画面共有による協働的な学びの充実</li> </ul> <p>【Google for education plus】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ利活用で個別最適な学びの充実</li> <li>学習ログの高度な分析</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業支援システムウィンバードの活用指導日数</li> <li>②Google for education plusの学習ログデータ活用回数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業支援システムウィンバード活用満足度</li> <li>②Google for education plusデータ利活用満足度</li> </ol>		

## 事業概要 【学校図書館デジタル化事業】

自治体名	石川県川北町	人口	6,087人	事業費	21,748千円
事業概要	<p>学校図書館の運営をデジタル化することで、子どもたちが読みたい本を探したり、調べ学習などで必要な本を探したりすることが容易になり、加えて川北町立図書館のシステムを基盤にシステム導入を行うため、学校からでも町立図書館の図書を探すことができ、更なる学習の充実が図られるようになる。</p> <p>また、蔵書の「見える化」により、図書の充実が図られ、よりよい読書教育を行う。</p>				
具体サービス	<p>【学校図書館システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ データセンターにあるクラウドを利用したシステム</li> <li>・ 川北町立図書館の基盤に追加してシステムを導入</li> <li>・ 学校で図書の検索を行うと川北町立図書館の蔵書も含めて検索結果が表示される。</li> <li>・ 川北町立図書館の利用者カードと統一した運用が可能</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①システムを利用した児童・生徒数</li> <li>②システムによる検索回数</li> <li>③</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校図書館利用の満足度</li> <li>②学校図書館の貸出増加率</li> <li>③</li> </ol>		

# 事業概要 【電子黒板導入事業】

自治体名	石川県河北郡津幡町	人口	36,439人	事業費	39,655千円
事業概要	電子黒板を導入し、GIGAスクール構想で児童1人に1台配付されているChrome Bookと連携させることで、授業の活性化・双方向型の学びを実現し、多様な考えに触れることにより学びの充実を図る。また、ネットワーク環境下でオンライン授業への柔軟な対応ができることにより場所を選ばない学びを実現することができる。				
具体サービス	<p>【授業支援ソフトが内蔵された電子黒板】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板を用いて、在宅学習者を含むすべての児童の端末の画面を表示することにより、それぞれの考え方の共有を図り、多様な考え方を学び、新たな視点に気づき、視野を広げる。</li> <li>デジタル教科書（令和6年4月より小学校の全学年・全教科で導入予定）の提示に活用し、板書型の授業を行い、より理解を深める授業を実施する。</li> <li>電子黒板では実施した授業の保存や録画・録音・配信が可能である。教員が同一校内だけでなく、町内の学校の教員と連携し授業内容を振り返りすることで、授業の進め方や児童への問いかけ方法などについて指導力向上を図る。教職員が質の高い授業を行うことで、児童の主体性・対話性を引き出し、深い学びへとつなげる。</li> <li>地域の方や地域の企業等、外部人材（ゲストティーチャー）とオンラインで繋がることにより地域学習の充実を図り、多種多様な人材と関わる機会を増やす。</li> <li>電子黒板に直接書き込みを行い、従来型黒板への書き込み時間を削減することで、教員が生徒に向き合う時間を増やす。</li> </ul>		<p>※感染症流行時、災害時にも活用</p> <p>教員</p> <p>相互通信</p> <p>在宅学習者・外部人材</p> <p>情報共有</p> <p>教室</p> <p>双方向型で意見をやりとり</p> <p>学習者</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業等による電子黒板の使用頻度</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒満足度</li> <li>②外部講師（学校間）とのオンライン授業数</li> <li>③</li> </ol>		

# 事業概要 【採点システム導入事業】

自治体名	山梨県南アルプス市	人口	71,615人	事業費	2,277千円
事業概要	採点システムを導入し、採点・集計・分析をコンピュータで行う。これにより個別の分析結果による適切なフィードバック、成績の推移などの管理により、一人ひとりへの丁寧な指導が実現する。また、教職員の負担軽減にもつながる。				
具体サービス	<p>【採点システム】</p> <p>市内中学校6校で利用できるよう採点システムを導入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採点…択一式及び複数選択式問題は自動採点</li> <li>・集計…システム採点による正誤判定、得点集計</li> <li>・分析…学年、学級、児童生徒ごとの得点率の変化を単元別、観点別などの各視点でグラフ表示</li> </ul>	 <p>観点別得点</p> <p>子どもと関わる時間UP</p> <p>パソコン上で採点</p> <p>成績分析</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①採点システム利用実績</li> <li>②採点システムの分析結果を利用した指導割合</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①テスト返却が整うまでの日数</li> <li>②生徒の利用満足度</li> </ol>			

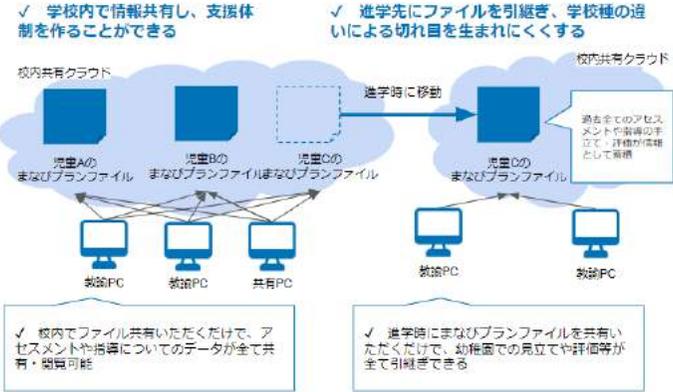
# 事業概要【甲州市学校図書館デジタル化推進事業】

自治体名	山梨県甲州市	人口	29,628人	事業費	5,092千円
事業概要	<p>学校図書館蔵書のデータベース化を進める事で子ども達が読みたい本や調べ学習などで必要な本を探す事が簡易になり図書へのアクセスが容易になる中で、学習の充実と共に、読書意欲・情報活用能力の向上を図る。</p> <p>また、デジタル技術を活用したサービスによる読書活動の展開により、誰一人取り残さない公正な読書環境づくりをすすめることで学習機会の平等性を確保するとともに多角的でより良い読書教育の推進を行う。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【学校図書館蔵書管理のデータベース化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に対する貸出・返却手続きの簡素化</li> <li>・1人1台タブレット端末にて、児童自らが好きな時に自分で調べることができるWeb-OPAC機能の活用。</li> <li>・デジタル技術を活用した利用情報の収集・分析と個に応じた読書指導の充実。</li> <li>・教師への授業支援における効率化とともに児童の学習機会の平等性の確保。</li> <li>・蔵書点検のための休館日数の短縮。</li> <li>・蔵書維持管理業務の効率化。</li> </ul>	<p>《甲州市学校図書館デジタル化推進事業》</p>  <p><b>甲州市の未来を担う人材育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心を育む</li> <li>生涯にわたる読書習慣の基礎づくり</li> <li>情報収集活用能力の向上</li> <li>個に応じた読書活動への働きかけ</li> <li>読書意欲の向上</li> <li>読書センター学習センター情報センターとしての充実</li> <li>読書活動の推進</li> <li>読解力の向上</li> <li>授業の充実</li> <li>事務の軽減</li> </ul> <p>お城についてもっと知りたいあなたへ :貸出・返却の簡略化 :個に応じた読書指導の充実 :Web-OPACの活用 :効率的な蔵書管理 :授業支援の充実</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①システムを活用した読書支援の回数（年平均）</li> <li>②ブックレビューの投稿件数（年平均）</li> <li>③Web-OPAC蔵書検索機能の活用回数（年平均）</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童の図書館利用満足度調査</li> <li>②図書館資料の総貸出冊数</li> <li>③蔵書点検による休館日の減少に伴う開館日数の変化</li> </ol>			

## 事業概要 【下諏訪町デジタル教育推進事業】

自治体名	長野県下諏訪町	人口	18,837人	事業費	5,154千円
事業概要	<p>下諏訪町では、これまで1人1台端末導入や電子黒板購入を行いG I G Aスクール構想を推進してきたが、まだ不足している部分がある。まず、AIドリルを導入することで、個別最適化学習の環境を整えるとともに、電子黒板が配備されていない特別教室に電子黒板を追加配備していくことで、児童生徒のデジタル学習の環境を向上させ、あわせて教職員の授業準備や教材準備に係る業務の改善を図る。</p>				
具体サービス	<b>【デジタル教育】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIドリルを用いた個別最適学習の環境整備</li> <li>電子黒板配備によるデジタル学習の環境整備</li> </ul>				
主な KPI	<b>【アウトプット指標（活動指標）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板の利用時数</li> <li>②AIドリルの利用回数</li> <li>③</li> </ul>		<b>【アウトカム指標（成果指標）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板を活用した理科授業の満足度</li> <li>②AIドリルの満足度</li> <li>③</li> </ul>		

# 事業概要 【喬木村特別支援教育の充実推進事業】

自治体名	長野県喬木村	人口	5,978人	事業費	1,387千円
事業概要	<p>・LITALICO教育ソフトの「まなびプラン」「まなび教材」「まなび動画」により、個別の教育支援計画や指導計画の作成や引継ぎ、教材検討や校内研修をデジタルに置き換えることで業務のスマート化を図り、〈①村全体で切れ目ない支援体制を実現するデータ基盤を作る〉〈②教員の特別支援教育に関する専門的な資質・能力の向上を図る〉の2点を通した住民福祉の向上を目的に、村内の小中学校現場で活用する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【LITALICO教育ソフトのサービス内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まなびプラン <ul style="list-style-type: none"> <li>- 保護者向けのwebアセスメントと結果の取り込み</li> <li>- アセスメントに基づいた児童生徒の特性の把握</li> <li>- 児童生徒の特性に応じた目標の設定</li> <li>- 児童生徒の特性に応じた指導上の工夫・合理的配慮の設定</li> <li>- 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」として保存・出力</li> </ul> </li> <li>・まなび教材 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「計画作成」で立てた目標に紐づくコンテンツを選択</li> <li>- コンテンツを選択・ダウンロード</li> </ul> </li> <li>・まなび動画 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 専門家による特別支援教育に関する基礎動画</li> <li>- 校内研修でも活用可能な研修動画</li> </ul> </li> </ul>		 <p>         ✓ 学校内で情報共有し、支援体制を作ることができる          ✓ 進学先にファイルを引継ぎ、学校種の違いによる切れ目を生まれにくくする     </p> <p>         校内共有クラウド          児童Aのまなびプランファイル、児童Bのまなびプランファイル、児童Cのまなびプランファイル          進学時に移動          校内共有クラウド          児童Dのまなびプランファイル          過去全てのアセスメントや指導の手立て・評価が情報として蓄積     </p> <p>         教師PC、教師PC、共有PC、教師PC、教師PC     </p> <p>         ✓ 校内でファイル共有いただくだけで、アセスメントや指導についてのデータが全て共有・閲覧可能          ✓ 進学時にまなびプランファイルを共有いただくだけで、幼稚園での見立てや評価等が全て引継ぎできる     </p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教材研究に充てる時間、児童生徒と向き合う時間が増加した（教員向けのアンケートにて回収）</li> <li>②個別支援が必要な児童生徒に対してまなびプランを活用し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成できる（計画作成率）</li> <li>③立てた計画や子どもの実態に基づいた自立活動の教材をまなび教材から選定することができる（教材サイトアクセス数）</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①進学時の切れ目が生まれず、継続的な支援体制が実現された（保護者向けのアンケートにて回収）</li> <li>②教員の専門性のもと、より充実した特別支援教育が受けられている（保護者向けのアンケートにて回収）</li> </ol>		

## 事業概要 【小中学校授業環境整備事業】

自治体名	長野県木曽郡大桑村	人口	3,334人	事業費	971千円
事業概要	<p>・誰ひとり取り残すことのない学びの実現のため、普通教室以外（特別支援学級・特別教室）の教室へも電子黒板を導入したい。</p> <p>・地域の支援の必要な子どもが教室へ入れない場合、通常学級の授業を別室で同時に受けることも可能となる。</p>				
具体サービス	<p>デジタル教科書の導入、今後、充実していく動画教材等を、授業の中に積極的に活用し、ひとりひとりの学びを活気あるものにしていきたい。</p> <p>電子黒板を使用し、子どもの学びの世界を広げたい。</p>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①学校の授業での電子黒板使用時間数</p> <p>②</p> <p>③</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①電子黒板を使用した満足度</p> <p>②</p> <p>③</p>		

# 事業概要 【認定こども園・小中学校保護者連絡一括デジタル化事業】

自治体名	長野県木曾町	人口	10,051人	事業費	10,898千円
事業概要	<p>現在、認定こども園・小中学校と保護者の連絡手段は、紙の通知や電話等が中心となっている。保護者からもデジタル化、簡素化を望む声が上がっており、連絡手段をアプリとすることにより利便性を向上させる。町内認定こども園、小中学校一括で同じアプリを利用することにより、就学・進学後もスムーズに適応できる。併せて紙等資源の節約となる上、学校等の事務を効率化することにより、教員等の負担軽減にもつながる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【こども園・学校・家庭をつなぐ連絡システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種通知のデジタル配信</li> <li>アプリによる児童等欠席・遅刻連絡</li> <li>アンケートのオンライン化</li> <li>対象施設 (小学校4校、中学校3校、こども園4園)</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>通知配信数</li> <li>オンラインによる欠席・遅刻連絡数割合</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>保護者による導入効果の評価（満足度）</li> </ol>			

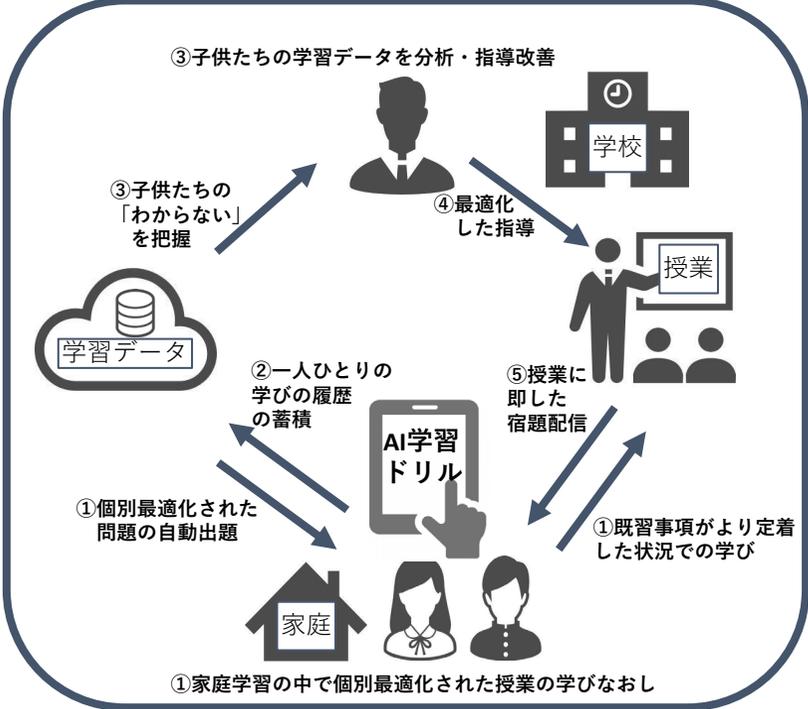
# 事業概要 【一斉授業から子どもたちが主体となる授業へ『授業のOS転換』事業】

自治体名	岐阜県岐阜市	人口	401,119人	事業費	64,045千円
事業概要	<p>子どもたちの資質・能力の一層確実な育成を図るため、「デジタル・シティズンシップ教育」と「教育DX」の概念に基づく、岐阜市版GIGAスクール推進計画を策定した。1人1台端末及び電子黒板を最大限活用し、授業の根本（OS:Operating Software）を転換させ、学びの成果の最大化を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【I 授業支援システムの導入】                  教員と児童生徒が、学級内のみならず、学年、学校全体、市内全学校など、学級の枠を越えて授業が行える授業支援ソフトを導入する。                  児童生徒のグループワークを支援し、協働的な学びを充実させ、効果的・効率的な授業運営を図る。                  （全小中学校、特別支援学校）</p> <p>【II 電子黒板の整備】                  大型提示装置を導入し、以下の成果を最大化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 誰一人取り残さない学びの確保</li> <li>● 協働的・探究的な学びの充実</li> <li>● 学校と社会と繋ぐ学び</li> <li>● 学校間交流</li> </ul> <p>（全小学校低学年・特別支援学級等）</p>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業支援システムの利用率(日別の月間最高利用率(DAU))（市平均）</li> <li>・教員が授業で電子黒板を使用する頻度(週に3回以上)</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 児童生徒の授業支援システムに対する満足度（サービスⅠ）</li> <li>② 授業の「自分の考えをまとめ発表する場面」での端末活用率（週3回以上）（サービスⅠ）</li> <li>③ 児童生徒の学習内容の理解度向上（サービスⅡ）</li> </ol>		

# 事業概要 【保護者連絡システムと学校校務支援システムとの連携事業】

自治体名	岐阜県大垣市	人口	158,150 人	事業費	1,914千円
事業概要	<p>現在、小・中学校と保護者間の連絡ツールとして、学校向けソリューション「すぐメール」とLINEを活用した「らくらく連絡システム」の別々のシステムで運用している。新たに導入する統合型校務支援システム及びそのオプション機能である「スマート連絡帳」を導入することで、教職員は「保護者向けの情報発信」、「即時的な欠席確認」、「校務連携」が可能となり、保護者は個人の端末から一つのシステムを通して「欠席連絡の送信」、「学校からの情報取得」が可能となる。これにより、両者の運用面の利便性及び校務DX化が促進され、児童生徒の一人一人の安心・安全を見守る体制の構築を目指していく。</p>				
具体サービス	<p>【I 保護者連絡システムの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者による出欠席連絡が統合型校務支援システム（Te-Comp@ss）内の出席簿と連携可能</li> <li>・市教委、学校からの連絡、アンケート送付、文書案内等が搭載されているシステム（市内全小中学校）</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の利用率</li> <li>・教員によるiPad端末で実施する朝の欠席連絡の確認</li> </ul>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の利用状況</li> <li>・保護者の満足度</li> </ul>			

# 事業概要 【AIドリルアプリ導入事業】

自治体名	岐阜県恵那市	人口	46,948人	事業費	7,319千円
事業概要	<p>これまで市内全小中学校に学習ドリルアプリを導入し、基礎学力定着と学習習慣の確立を主なねらいとして取り組んできたが、教科書準拠でなく、学校と家庭の学びの連携が難しく効果的な学習ができていない。そこで新たに教科書準拠のドリルアプリを活用し、個別最適な家庭学習とそのデータの活用による効果的な学校での指導により基礎学力定着と学習習慣の確立へアプローチしていく。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>教科書準拠型AI学習ドリルにより、授業と家庭学習の効果的なサイクルにて基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る</b></p> <p>①AI学習ドリルで子供たち一人ひとりに 個別最適化した主体的な学びを実施</p> <p>↓</p> <p>②AI学習ドリル上（クラウド）に子供たち 一人ひとりの学びのデータを蓄積</p> <p>↓</p> <p>③教員が子供たちのリアルタイムな学習履歴を把握</p> <p>↓</p> <p>④子供たちの学習履歴を基に 個別最適で効果的な授業指導を実施</p> <p>↓</p> <p>⑤教科書準拠ドリルのため授業連動した宿題の配信が可能</p> <p>↓</p> <p>①へと効果的な学習のサイクルを形成</p>		 <p>The diagram illustrates a cyclical learning process between home and school. At the center is the 'AI Learning Drill' app.       ① At home, students use the app for personalized learning.       ② The app accumulates individual learning history data in the cloud.       ③ Teachers at school analyze this data to identify 'unknown' areas for students.       ④ Teachers provide optimized guidance based on this analysis.       ⑤ This guidance informs classroom instruction, which is linked to homework assignments.       ⑥ The homework is distributed via the app, completing the cycle back to home learning.</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①デジタルドリル取組状況(利用時間・学習履歴)</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①全国学力・学習状況調査(小6)の調査結果(学力)</p> <p>①全国学力・学習状況調査(中3)の調査結果(学力)</p> <p>②全国学力・学習状況調査(小6・中3)の調査結果(学習状況)</p>		

# 事業概要 【新特別支援学校児童生徒のためのICT化事業】

自治体名	岐阜県 各務原市	人口	145,026人	事業費	29,960千円
事業概要	<p>令和7年4月に開校する小中高一貫の新特別支援学校について、児童、生徒の実態に合わせた資質・能力の一層確実な育成を図るため、大型ディスプレイの整備を実施し、ICT化を推進する。※1人1台タブレット本体やタブレットやICT機器活用のための無線LANの整備は単独事業として実施。</p>				
具体サービス	<p>【大型ディスプレイの整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大型ディスプレイ及び校内情報配信システムを導入し、以下の成果を最大化 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童生徒の障害に合わせた学びの確保</li> <li>● 協働的・探究的な学びの充実</li> <li>● 学校と社会と繋ぐ学び</li> <li>● 学校間交流</li> </ul> </li> </ul>		<p>The diagram illustrates the ICT infrastructure. At the top is a cloud labeled 'インターネット' (Internet) with subtext '学習支援ソフト・各種アプリ' (Learning support software, various apps) and 'コミュニケーションツール' (Communication tools). Red lines connect the cloud to two '自宅' (Home) icons, a '別室' (Separate room) icon, and a classroom icon. The classroom icon contains a '大型ディスプレイ' (Large display), '児童生徒' (Students), and '教員' (Teacher). A 'CR' (Control Room) icon is connected to the classroom. The classroom icon also has red lines connecting to the Internet cloud.</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①授業での使用状況（週に1回以上）</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①児童生徒の学習内容の理解度向上</p>		

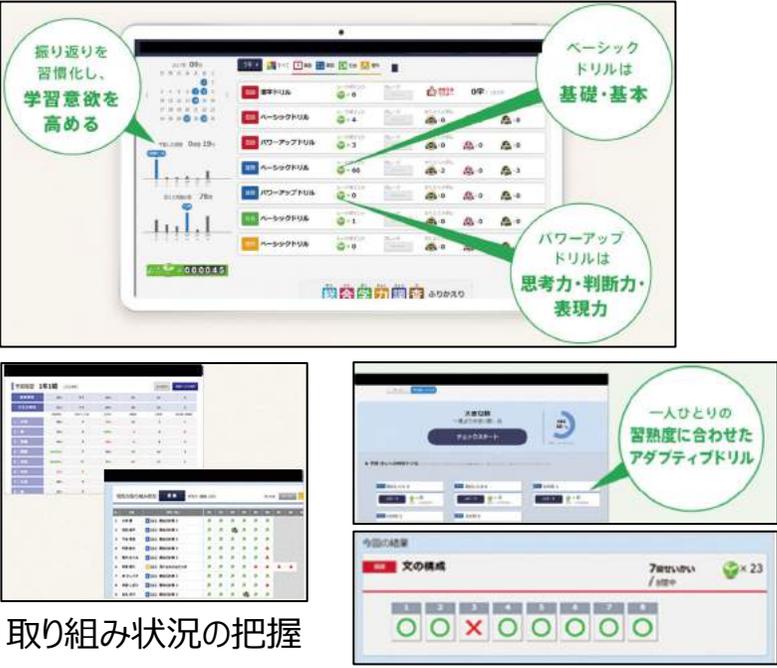
# 事業概要 【小中学校一斉連絡配信アプリ導入事業】

自治体名	岐阜県山県市	人口	25,274人	事業費	858千円
事業概要	<p>一斉連絡配信アプリの導入により学校から保護者への情報発信はもちろん、保護者から学校に対し出欠席連絡や検温結果の報告等、保護者と学校双方間の迅速な情報連携に繋がる。また、従来苦慮していた紙配布や電話対応等による学校とのやり取りに関し、保護者の利便性向上が期待できる。更にアプリの特性を活かし、地域情報のプッシュ配信を実施することで、子育て世帯にとって有益な情報把握が容易に可能となる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>【一斉連絡配信サービス】</p> <p>スマート連絡帳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から保護者への連絡や配布物をデータで配信</li> <li>・出欠席連絡や検温確認をアプリで受付</li> <li>・欠席状況を校務支援システムに自動連携</li> <li>・アンケート配信、自動集計</li> <li>・地域ボランティアや学校運営協議会委員等の学校協力者との連絡</li> <li>・教職員等連絡</li> <li>・教育委員会から保護者への一斉連絡</li> </ul> </div> <div style="flex: 2;">  <p>The infographic illustrates the 'Overall Concept' of digitalizing school business. It compares 'Before' (manual processes) and 'After' (digitalized processes) across four categories: City Office, School, Guardians, and Children/Students. 'Before' tasks include manual survey collection, phone calls, and printing. 'After' tasks include automatic survey collection, digital distribution, and real-time notifications. The result is time savings and reduced errors.</p> </div> </div>				
<p>主なKPI</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①スマート連絡帳アプリダウンロード率</li> <li>②メッセージ配信件数</li> <li>③保護者による欠席連絡の利用率</li> </ol> </div> <div style="flex: 2;"> <p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①サービス利用者満足度</li> <li>②教員対応時間の削減率</li> </ol> </div> </div>				

# 事業概要 【デジタルドリル導入事業】

自治体名	岐阜県郡上市	人口	38,446人	事業費	3,823千円
事業概要	基礎学力の定着や家庭学習の充実などの郡上市が抱える課題に対し、小学3年から中学3年の児童生徒の個の実態に応じた個別最適な学びを推進することで、家庭学習を充実させ、基礎学力の定着を図るため、郡上市立小中学校全25校に、GIGAスクール構想で整備した学習者用コンピュータ（タブレット端末）で利用するデジタルドリルを導入する。				
具体サービス	<p>【個別学習サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本となる問題から思考力を問う応用問題まで学習指導要領に準拠。小学1年から中学3年までの主要教科を収録</li> <li>・AIエンジン搭載により、児童生徒の習熟度に応じてヒントやスモールステップの問題が出題され、個別最適学習が可能</li> </ul> <p>【教員向け機能サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス単位＋個別に取り組ませたい問題を選択し宿題配信が可能。かつ、AIによって児童生徒の学力到達度に合わせた課題配信や、単元毎の苦手克服カリキュラムの自動作成も可能。また、児童生徒の宿題ドリルの取り組み状況を確認し、コメント配信も可能</li> </ul>		<p>◆授業での活用◆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入、中盤、終末で活用</li> </ul> <p>◆学校内での活用◆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帯活動</li> <li>・複式学級</li> <li>・特別支援学級</li> <li>・不登校支援</li> <li>・学び直し</li> </ul> <p>◆家庭での活用◆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別宿題配信</li> <li>・取り組み状況確認</li> <li>・コメント機能</li> </ul>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタルドリル取組状況（利用時間）</li> <li>②教師によるデジタルドリル課題配信機能の使用回数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタルドリル正答率（学力）</li> <li>②担任教師、児童生徒及び保護者のAIドリルを活用した学習の満足度</li> </ol>		

# 事業概要 【デジタルドリル導入事業】

自治体名	岐阜県加茂郡八百津町	人口	10,087人	事業費	1,311千円
事業概要	<p>八百津町は中山間部に位置するため、習い事に通わせたいと思っても、難しい家庭が多い。また、両親がともに就労していることで、子どもが独力で家庭学習を完了させる必要がある家庭が増えている。このような課題を解決するためにデジタルドリルを導入する。デジタルドリルにより個別最適な学習を提供し、習い事に頼らない家庭学習を実現する。また、自動採点機能や解説機能により家庭学習を独力で完了できるようになる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【デジタルドリル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に合ったレベル・ペースで、知識の確かな定着や主体的に個人で学ぶ姿勢を支援する。</li> <li>・小学校1年生～中学校3年生までの教科書に準拠した主要教科を収録。</li> <li>・リアルタイムに児童生徒の取り組み状況を把握できる。</li> <li>・個々人の学習データを収集・分析し、習熟度に合わせたドリルを自動で出題する。</li> <li>・自動採点機能で教員の業務を効率化。</li> </ul>		 <p>取り組み状況の把握</p> <p>自動採点機能の搭載</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① デジタルドリルを活用している頻度</li> <li>② 家庭学習のデジタル化率</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① デジタルドリル使用に係る満足度調査</li> <li>② 全国学力・学習状況調査の調査結果</li> </ol>		

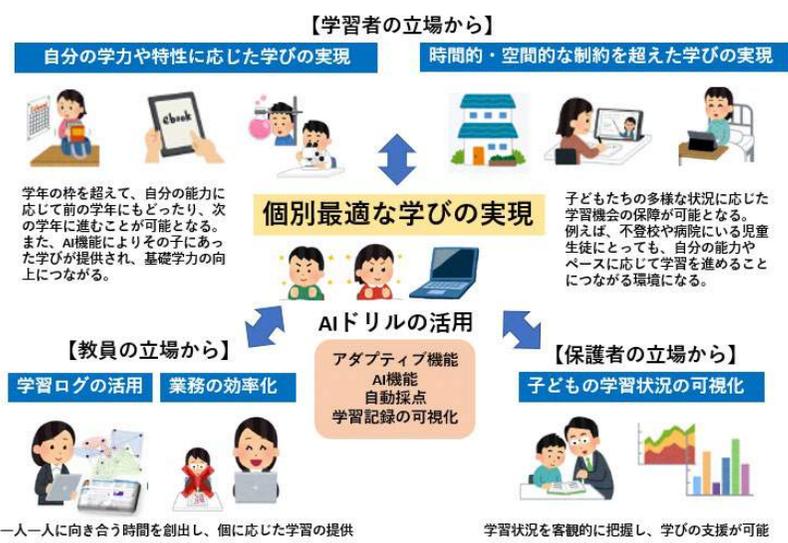
# 事業概要【静岡型デジタルプラットフォーム】

自治体名	静岡県	人口	3,552,421人	事業費	17,380千円
事業概要	<p>静岡県立学校では、児童生徒が必要な情報や履歴にいつでもアクセスでき主体的な学びを支援するデータ活用のためのプラットフォームが整っていない。教育で利用する多種多様なデータを、各システムのデータと統合して自動的に収集・分析し可視化・共有するプラットフォームの整備により、教職員の指導力向上のみならず全国平均を上回っているいじめや不登校をサポートすることも可能となる。</p>				
<p>【静岡型デジタルプラットフォーム】</p> <p>学校における児童生徒の指導に関わる各種データを収集・分析して、児童生徒の学校生活に対する満足度の向上をサポートする可視化ツール。役割に応じた以下の4つの表示ボードを有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会ボード 県立学校全体の統計情報を可視化する</li> <li>・学校ボード 学校全体の学習状況や出欠状況などを可視化する</li> <li>・学級ボード クラス全体の成績や出席そして感情スタンプなどから児童生徒の状況を可視化する</li> <li>・児童生徒ボード 個々の児童生徒の詳細情報を可視化する</li> </ul>					
<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①デジタルプラットフォームを学校生活に活用した児童生徒の割合</p> <p>②デジタル化されたテスト結果を振り返り等に活用した児童生徒の割合</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①教育データを活用し、学校生活全般において、主体的に活動できるようになった生徒の割合</p> <p>②デジタル化されたテスト結果の活用により、主体的な学びや学習改善が以前より向上した生徒の割合</p>				

# 事業概要 【デジタル探究教材を活用した教育の充実化推進事業】

自治体名	静岡県磐田市	人口	166,820人	事業費	9,840千円
事業概要	郷土愛を持ち、課題を自分事として捉えて解決していく探究的な人材を育成するため、3D空間化された本市の自然や歴史文化施設等を小中学生が自由に探検・学習することができるデジタル探究教材を製作する。				
<p>具体サービス</p>	<p>【デジタル探究教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市の様々な場所（自然環境、歴史文化、地域産業、公共施設等）を3D空間化する。</li> <li>3D空間内にクイズ形式のタグなどを設け、子どもたちが1人1台端末を活用して自由に探検し学ぶことができる教材を製作する。</li> <li>製作した教材は、「総合的な学習の時間」のほか、他教科の授業や家庭学習などで幅広く活用する。</li> </ul>	<p>The diagram illustrates the workflow: 1. Source: '磐田市の自然環境や文化施設等' (Natural environment and cultural facilities of Hamamatsu City). 2. Process: '3D空間化' (3D spatialization) of these locations. 3. Application: '自由に探検・学習' (Free exploration and learning) by students using the digital materials.</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①製作したデジタル探究教材へのアクセス件数</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①製作したデジタル探究教材に対する児童生徒の満足度          ②児童生徒の授業発表に対する肯定的な回答          ③各校の探究学習の取組に関する肯定的な回答</p>			

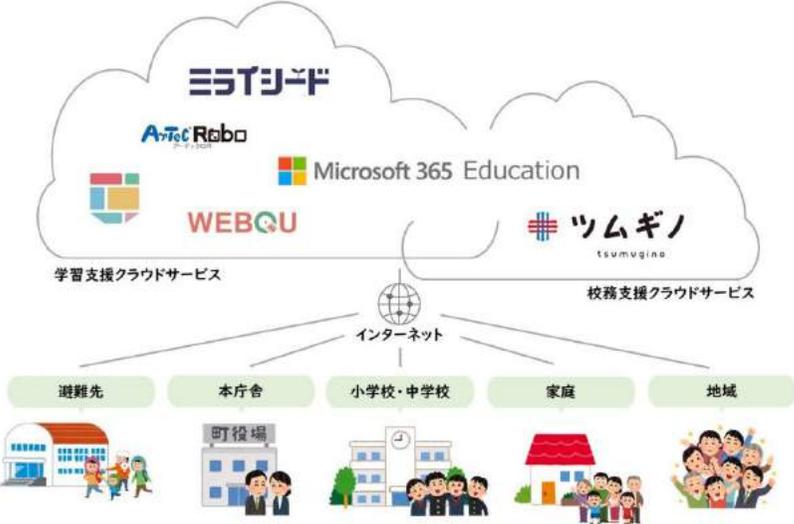
# 事業概要 【個別最適な学び推進に向けたAIドリル導入事業】

自治体名	静岡県焼津市	人口	136,343人	事業費	16,940千円
事業概要	<p>全国学力・学習状況調査やICT活用指導力調査の結果から、児童生徒一人一人に応じた学びを提供するデジタルコンテンツの不足が課題として挙げられた。そこで、市内小中学校に、児童生徒が一人一台端末で利用するAIドリルを導入する。AIドリルの活用により、自分の習熟度や特性に応じた個別最適な学びをより一層推進するとともに、基礎学力の向上を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>市内小中学校において、児童生徒が一人一台端末で利用可能なAIドリルを導入する。また、発達段階に応じて個別最適な学びの推進に適したサービスを選択する。</p> <p>①中学校【AIドリル】 ★動画教材が充実し、生徒の自学を推進 対象学年：中学校全学年 対象科目：国語、数学、社会、理科、英語</p> <p>②小学校【AIドリル】 ★低学年児童でも取り組みやすいUIや操作感 対象学年：小学校全学年 対象科目：国語、算数、社会、理科、英語</p>		 <p><b>【学習者の立場から】</b> 自分の学力や特性に応じた学びの実現   時間的・空間的な制約を超えた学びの実現</p> <p><b>個別最適な学びの実現</b></p> <p>学年の枠を超えて、自分の能力に応じて前の学年にもどったり、次の学年に進むことが可能となる。また、AI機能によりその子にあった学びが提供され、基礎学力の向上につながる。</p> <p>子どもたちの多様な状況に応じた学習機会の保障が可能となる。例えば、不登校や病院にいる児童生徒にとっても、自分の能力やペースに応じて学習を進めることにつながる環境になる。</p> <p><b>【教員の立場から】</b> 学習ログの活用   業務の効率化</p> <p><b>AIドリルの活用</b> アダプティブ機能 AI機能 自動採点 学習記録の可視化</p> <p><b>【保護者の立場から】</b> 子どもの学習状況の可視化</p> <p>一人一人に向き合う時間を創出し、個に応じた学習の提供</p> <p>学習状況を客観的に把握し、学びの支援が可能</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①AIドリルの利用実績（活用日数）</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①全国学力・学習状況調査における正答率 ②全国学力・学習状況調査における児童生徒の肯定的な回答率 ③児童生徒の当該サービスへの満足度</p>		

# 事業概要 【デジタルを活用した次世代人材養成事業】

自治体名	静岡県裾野市	人口	49,284人	事業費	7,621千円
事業概要	<p>裾野市が掲げる「人と企業に選ばれるまち」の実現のため、次世代人材育成分野において、デジタルを活用して学習プログラムを充実し、市民満足度の向上につなげる。具体的には、個々の生徒に合わせた学習プログラムの実現により子育て世代の、今後も続くデジタル人材の獲得競争を見据えたデジタル教育の充実により児童生徒、子育て世代、事業所企業等の満足度を向上させる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【小中学校特別支援教育における学習プログラムの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の特別支援学級において、児童生徒や保護者のニーズを的確に把握・分析した上で、子に応じた学習計画を作成する</li> <li>実際に児童生徒が授業で活用する教材を、個々の学習計画に合わせて作成する</li> </ul> <p>【中学校「情報の技術」におけるプログラミング学習プログラムの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校技術科のうち「情報の技術」における、プログラミング学習プログラムを導入する</li> </ul> <p>【中高生向け課題解決能力学習プログラムの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の中高生が、デジタルスキルを学び、地域課題解決のプロダクト開発を行いながら課題解決力を養う学習プログラムを導入する</li> </ul>		<p>次世代を担う子どもたち・保護者に満足度の高い学習プログラムを提供 社会に貢献できるデジタル人材を輩出</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別支援学級学習支援システム利用学校数</li> <li>②プログラミング学習教材を授業に活用した授業数</li> <li>③地域課題解決のプロダクト制作数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別支援学級在籍児童生徒保護者の満足度</li> <li>②プログラミング学習教材に対する生徒の満足度</li> <li>③課題解決能力学習プログラム利用者の満足度</li> </ol>		

# 事業概要 【 地域と学ぶ協働型学習サービス構築事業】

自治体名	静岡県小山町	人口	17,283人	事業費	79,512千円
事業概要	<p>・統合的な学習系・校務系システムを構築し、町全体での「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現させ、地域へ活力ある人材を供給</p> <p>・学習サービスの共同利用により地域コミュニティを回復させ、学校を軸とした安心・安全で持続可能な地域を創出</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>1.クラウドによる「学習支援システム」を構築し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を地域と共有 【実装するサービス】 学習eポータル、学習支援ソフト、学習用ツール、 プログラミングソフト教材</p> <p>2.クラウドによる「統合型校務支援システム」により教職員の負担を軽減し、人材を地域還元 【実装するサービス】統合型校務支援クラウド</p> <p>※文科省方針等の基準に合致するもの 上記の一体的整備により、事業概要の実現を図る。</p>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①学校間、地域間の交流授業及び交流授業 ※学習支援システム （現状）年間10回→年間80回実施</p> <p>②デジタル授業を全小中学校、全学級で毎日実施 ※学習支援システム・校務支援システム</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①総合学力調査（ベネッセ）全国偏差値到達度の向上 ※学習支援システム・校務支援システム 協働的な学び及び家庭との連携実現による学力向上</p> <p>②学校・家庭・地域の連携が取れていると回答する町民の割合 ※校務支援システム・学習支援システム 教職員の負担軽減とシステム利用による家庭・地域との連携強化（総合計画目標値の達成）</p> <p>③町全体の世帯数 ※学習支援システム・統合型校務支援システム 教育向上×地域連携により流出防止や転入獲得を反映する世帯数を把握することで事業の効果を計測</p>		

# 事業概要 【個別最適な学びを実現するGIGAスクールの中核としての電子黒板の整備】

自治体名	愛知県岡崎市	人口	383,885人	事業費	92,941千円
事業概要	<p>価値観の多様化した現代社会において、様々な特性をもった子供たちに、誰一人取り残すことなく未来を豊かに生き抜いていく力を育むことは、学校教育の命題となっている。学びの個性化や指導の個別化を支援する手立てとして、教育DXの推進は急務である。データを相互にやり取りするためのインターフェースとして、電子黒板を教育DXの中核的な役割で活用することにより、一人一人の子供にアジャストしたこれからの学びを実現する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>「岡崎版GIGAスクール構想」での一人一台端末環境を拡充し、教育DXによる授業改善や学び方改革を推進するために、電子黒板を小学校低学年の普通教室に整備する。電子黒板は、ICT環境の中核に位置付く機器で、子供の学びを他とつなぐ「学びのインターフェース」としての役割を果たす。</p> <p>具体的な場面として、一人一台端末とのデータ連携による視覚的・聴覚的にわかりやすい情報交流、オンライン授業や各種学習コンテンツによる長期欠席児童や外国人児童への支援、デジタル教科書の利用やプログラミング学習など、あらゆる授業で日常的な活用が期待できる。</p> <p>さらに、書き込みやプレゼンテーション、データの保存等の電子黒板ならではの機能により、日々の授業の質を高め、学び方改革を推進することができる。</p> </div> <div style="flex: 2;"> <p><b>GIGAスクールを拡充する中核的なICT機器 電子黒板</b></p> <p>わかりやすい情報提示 (視覚的・聴覚的にわかりやすく情報を提示)</p> <p>主体的な学び (子どもによる操作やプレゼンテーション)</p> <p>オンライン授業 (教室・学校の枠を越えた学び合い)</p> <p>対話的な学びの足掛かり (一人ひとりの考えを全体に可視化)</p> <p>学習データの保存 (一人一人の考えをデータにして保存)</p> <p>デジタル教科書 (動画や音声で理解の深まり)</p> <p>「Myタブレット」との連携 (自分の端末からみんなにデータを共有)</p> <p>プログラミング学習 (試行錯誤で論理的思考を育成)</p> <p>授業改善 (子供たち一人ひとりの個性 + 岡崎版GIGAスクール → 誰一人取り残さない学びの実現)</p> <p>個別最適な学び 教育DX</p> <p>デジタルドリルの活用 (子どもたちへのドリル問題の配付や、個々の進捗の確認)</p> </div> </div>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標 (活動指標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板を活用した授業の実施回数</li> <li>②学びの保障等で実施したオンライン授業の実施回数</li> <li>③学習用サーバへの保存データ量</li> </ul>		<p>【アウトカム指標 (成果指標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①不登校児童生徒数の増加率の減少</li> <li>②電子黒板を活用した授業に対する児童生徒の満足度</li> <li>③全市規模で実施するオンラインセミナーの満足度</li> </ul>		

# 事業概要 【小中学校AIドリル教材ソフト導入事業】

自治体名	愛知県半田市	人口	117,272人	事業費	34,897千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想を受け、半田市は、令和2年度より全児童生徒1人1台端末を配備した授業を展開し、学習への積極的な参加や問題解決能力の向上など、一定の成果を上げている。</p> <p>現在の学校教育は、ICTを活用した一人ひとりの子どもを主語とする個別最適な学校教育の実現が必要で、これを阻害する、これまでの日本型学校教育（学習機会と学力の保障や全人的な発達・成長の保障等を実現するため、教師主導の一斉教授）からの脱却は急務となっている。</p> <p>AIドリル教材ソフトは、個別最適な学校教育に必要な、一人ひとりの学力や個性にあった学びを提供できるツールとして、子どもたちの得意・不得意を可視化し補足的・発展的な学習につなげられるものとして利活用を計画している。</p>				
具体サービス	<p>【AIドリル教材ソフト導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者の個々の進捗度合・理解度に応じた問題提供や、誤答した際のAIによる分析を用いて再度問題提示することにより、一人ひとりにあった効率的な学習を可能にする。</li> <li>教員が一人ひとりの学習傾向や取り組み状況、意欲関心などを把握でき、そのデータを個別の指導や授業づくりに活用できる。</li> <li>子どもの理解状況等を可視化し、学校及び家庭におけるコミュニケーションを図ることによって、主体的な学びを促進する。</li> </ul>	<pre> graph TD     A[AIドリル提供業者] --&gt; B[半田市教育委員会]     B --&gt; C[教員・各小中学校]     C --&gt; D[授業で活用]     C --&gt; E[帯学習で活用]     C --&gt; F[家庭で活用]     </pre> <p>・導入、導入後のフォロー ・使用方法の研修会</p> <p><b>授業で活用</b> ・学年を横断したドリル学習</p> <p><b>帯学習で活用</b> ・学校、家庭での平等な学習機会提供 ・使用方法の研修会</p> <p><b>家庭で活用</b> ・学習状況、理解度合いの把握 ・家庭内での学習状況におけるコミュニケーション</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童・生徒の月別接続率</li> <li>②児童・生徒の週別接続率</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査の調査結果</li> <li>②児童生徒、保護者、教員の満足度</li> </ol>			

# 事業概要 【メタバースを活用したオンライン教育支援センター構築事業】

自治体名	愛知県春日井市	人口	307,718人	事業費	6,765千円
事業概要	<p>小中学校における不登校が年々増加するなか、特に年間登校日数が10日未満となっている児童生徒については、何らかの形で社会、他者とのつながりを持ちながら学びを進めることが重要であることから、不登校の子どもたちの学びと支援を行う場の新たな選択肢として、メタバースを活用したオンライン教育センターを構築し、不登校児童生徒の社会的自立や学校復帰に向けた支援を行う。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【引きこもり傾向のある不登校児童生徒に対するオンライン支援】</b></p> <p>取組①：年間登校日数が10日未満の児童生徒とその保護者に対して、オンライン会議システムやメタバースを活用した、非対面型の支援を行う。</p> <p>取組②：不登校児童生徒の学びの機会の確保と充実のため、メタバース空間を活用した、オンラインの学びの場を提供する。</p> <p>取組③：より効果的なオンライン支援の構築のため、事業者と連携したオンライン支援メニューの共同開発を行う。</p>				
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標 (活動指標)】</b></p> <p>①本事業に参加した年間登校日数が10日未満の児童生徒の人数</p> <p>②事業者との共同開発会議の開催回数</p>	<p><b>【アウトカム指標 (成果指標)】</b></p> <p>①メタバースを活用したオンラインでの活動により、出席として認定した日数</p> <p>②年間登校日数が10日未満の児童生徒の発生抑制</p> <p>③利用者及び関係者の利用満足度</p>			

## 事業概要 【学校教育費口座振替システム更新事業】

自治体名	愛知県大府市	人口	93,078人	事業費	10,362千円
事業概要	<p>学校教育費等の口座振替システムを保護者の利便性の高いシステムへ切替する。また、本市では学校教育費等と同一の引き落とし口座から放課後児童健全育成事業の育成手数料も引き落としを行っており、口座振替システムの更新に伴い、子ども・子育て支援システム（ミサリオ）についても必要な更新を行う。</p>				
具体サービス	<p>【学校教育費等口座振替サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育費等を保護者の指定する金融機関より口座振替を行う。（既存システムからの切り替えにより利便性の向上を図る）</li> </ul>		<pre> graph BT     Guardian[保護者] --&gt; FI1[金融機関]     Guardian --&gt; FI2[金融機関]     Guardian --&gt; FI3[金融機関]     FI1 --&gt; CA[収納代行事業者]     FI2 --&gt; CA     FI3 --&gt; CA     CA --&gt; City[大府市]     </pre>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①新口座振替システム利用者数</li> <li>②新たに利用できるようになる金融機関数</li> <li>③口座振替明細画面の利用</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①新口座振替システム導入による満足度</li> </ol>		

# 事業概要【いじめ・不登校対策事業】

## ～デジタルに“あたたかみ”を加え「誰もが安心・自分を表現・認めあえる」学級経営をサポート～

自治体名	愛知県日進市	人口	93,910人	事業費	26,715千円
------	--------	----	---------	-----	----------

**事業概要**

教員の「勘」や「経験」に頼っていた学級経営に、基礎データとして子どもの特性やクラス状態をデジタル化で共有する。また、学級経営に必要なクラスの状態を可視化する。これらのデータを活用しつつ、子どもたち自身が学級の様子を自己評価し、教師と子どもたちが協力して学級づくりを行う。  
 ⇒基礎データによる学級づくりにより、子どもの安心感は、結果としていじめ・不登校対策へつながっていく。

**具体サービス**

【学級経営のための基礎データ】

①WEBQU（小3-中3：年2回）  
学級状態、学級での児童生徒の様子を把握する。

②SERAPLUS-WEB（SKK式クレペリン検査）（中1-2：年1回）  
心の成長段階である中1-2を対象に、作業検査法で個の特性を把握する。

【より良い学級づくりのための分析可視化ツール】

③スマイルクラス（全小中）  
学習用タブレットにより、児童生徒の意見を質的・量的にデータ分析・可視化。学級経営を児童生徒が主体的に考える。

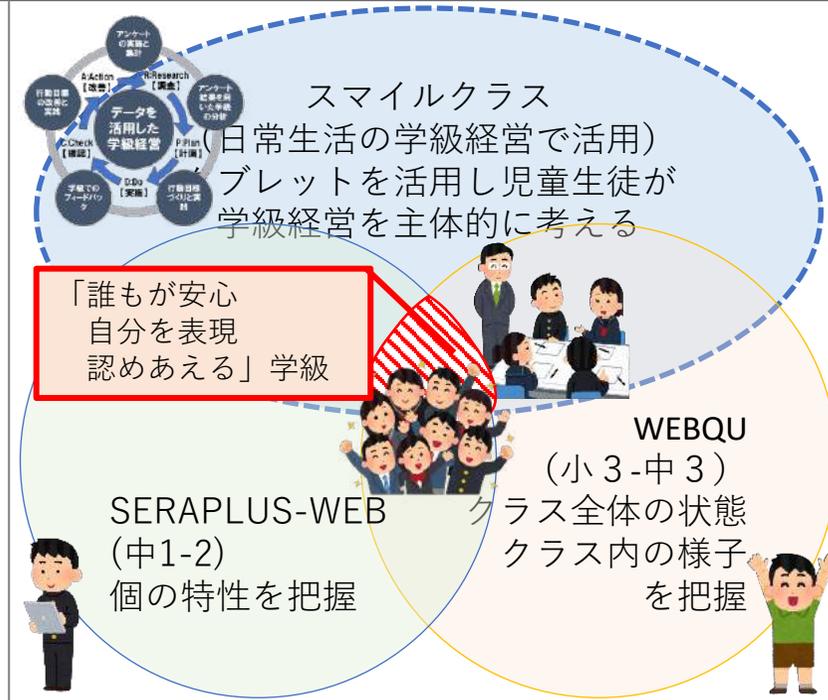


【学級経営をDXでサポート】

「誰もが安心・自分を表現・認めあえる」学級経営のため

①～③のデータを活用し、教師と子どもたちが協力して学級づくりに取り組む。

WEBでデータ管理・共有 = 担任だけでなく、学校全体・市教育委員会でもサポートが可能に!!



スマイルクラス  
（日常生活の学級経営で活用）  
タブレットを活用し児童生徒が学級経営を主体的に考える

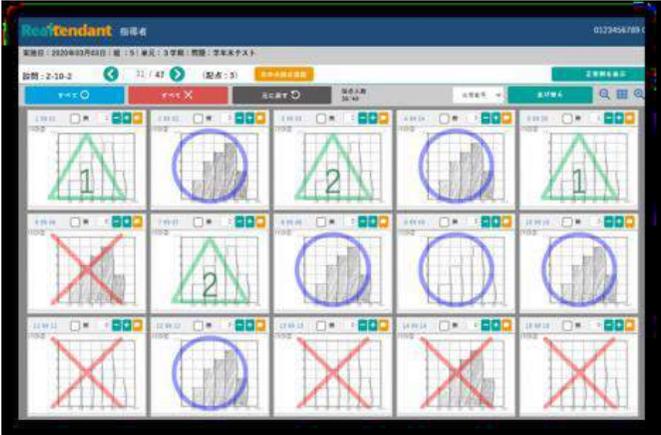
「誰もが安心  
自分を表現  
認めあえる」学級

SERAPLUS-WEB  
（中1-2）  
個の特性を把握

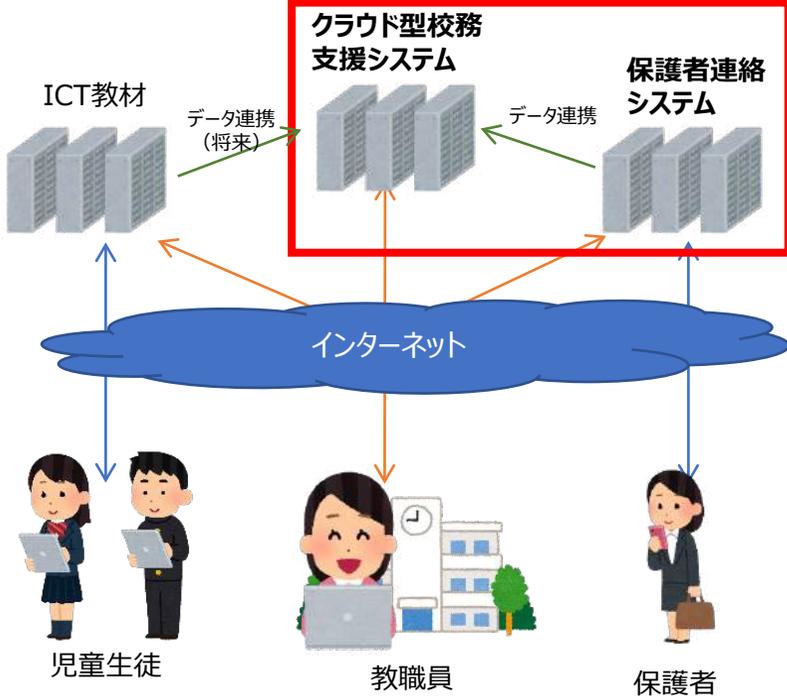
WEBQU  
（小3-中3）  
クラス全体の状態  
クラス内の様子  
を把握

主なKPI	【アウトプット指標（活動指標）】	【アウトカム指標（成果指標）】
	<p>①WEBQUのアクセス件数</p> <p>②SERAPLUS-WEBのアクセス件数</p> <p>③スマイルクラスのアクセス件数</p>	<p>①生徒の満足度（SERAPLUS-WEB）</p> <p>②児童生徒の満足度（スマイルクラス）</p> <p>③不登校児童生徒数の人数</p> <p>④いじめの認知件数</p>

## 事業概要 【デジタル採点システム導入事業】

自治体名	愛知県西春日井郡豊山町	人口	15,909人	事業費	442千円
事業概要	<p>町立中学校教員の採点業務を補助する「デジタル採点システム」を導入することで、採点結果の分析等から指導方針への反映を行い、生徒の学習環境及び学力の向上を目指す。また、教員の負担軽減も見込まれる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【デジタル採点システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル採点システムでは答案用紙をスキャナで取り込むことにより、PC画面上に同じ問題に対する生徒の解答を一覧に並べて、デジタルで採点することができる。</li> <li>解答を見比べながらマウスクリックで採点ができるため、赤ペンで一枚ずつ採点するよりも、大幅な時間短縮になる。また、採点が終わると、観点別も含めた集計点数を自動的に出力できる。</li> </ul>		 <p>採点画面イメージ図</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①デジタル採点システム活用教科数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①生徒が意欲的に取り組める授業の実施</p>		

# 事業概要 【クラウド型校務支援システム導入事業】

自治体名	三重県鈴鹿市	人口	195,739人	事業費	50,930千円
事業概要	<p>クラウド型の校務支援システムを導入することにより校務情報のデータ利活用を促進することで、支援が必要な児童生徒の早期発見も含めた、個別最適な学びの実現を目指す。また、校務支援システムと連携可能な保護者連絡システムを導入し、保護者の利便性を高める。さらには、クラウド化による業務効率性の向上により、校務DXを推進し、児童生徒への教育活動の充実を目指す。</p>				
<p>【クラウド型校務支援システム導入】</p> <p>① 校務情報のデータ利活用 児童生徒一人ひとりの校務情報等を蓄積・可視化することで、支援を必要とする児童生徒の早期発見等を目指す。</p> <p>② 保護者連絡システムの導入 校務支援システムと欠席連絡情報が連携可能で、かつ画像データ等の送信が可能なシステムを導入し、保護者の利便性を高める。</p> <p>③ クラウド化による効率性の向上 教職員の事務処理負担を軽減し、児童生徒一人ひとりに向き合う時間を創出する。</p>					
<p>主な KPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①ダッシュボードの利用回数 ②保護者連絡のデジタル化率</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①児童生徒アンケートの満足度 ②児童生徒一人ひとりに向き合う時間 ③保護者連絡システムの保護者満足度</p>		

# 事業概要 【学校-保護者-地域をつなぐ連絡事業】

<p>自治体名</p>	<p>三重県明和町</p>	<p>人口</p>	<p>22,859人</p>	<p>事業費</p>	<p>1,914千円</p>
<p>事業概要</p>	<p>新たな保護者連絡システムを導入し、学校-保護者間の連絡をデジタル化することで、保護者及び教職員の利便性の向上・負担軽減等につなげる。それにより、教師や保護者が子どもたちに向き合う時間を確保する。また、学校からの通知文のペーパーレス化を図り、保護者を中心とした、町民のデジタル技術利用の機会を拡大する。合わせて、部活動指導員などの地域支援者と学校・保護者とのデジタル上での情報伝達・共有を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="321 692 1067 949" style="width: 45%;"> <p>【教育機関向け情報配信サービス：すぐーる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校等から各家庭に向けた連絡を行う。</li> <li>・添付ファイルで資料等を受け取ることができる。</li> <li>・出欠連絡がオンライン上で可能。</li> <li>・アンケート機能で利用者の回答を回収・集計が可能。</li> <li>・地域協力者の利用が可能（受信・配信）</li> </ul> </div> <div data-bbox="1129 592 1916 1120" style="width: 50%;"> <p>■すぐーる 概念図</p> <p>The diagram illustrates the 'Suguru' system's communication flow. On the left, under 'School Management Related Parties' (学校運営関係者), four entities are listed: Education Committee (教育委員会), School (学校), School Activities (部活動), and Local Collaborators (地域協力者). Each entity has a specific communication purpose: 'All schools' (一言休校のお知らせ) for the committee, 'School only' (学校 だけ) for the school, 'School activities schedule' (練習日程のお知らせ) for activities, and 'Various notices' (各種 お知らせ) for local collaborators. These entities connect to a central 'All-mailing' (全体配信) box. From this box, four communication channels are shown: 'Representative Group' (代表 グループ), 'PTA Group' (PTA グループ), 'School Activities Group' (部活動 グループ), and 'Local Group' (地域 グループ). On the right, a smartphone screen shows the 'Guardian' (保護者) interface with a notification for 'School activities schedule' (練習日程のお知らせ). Below the phone, a box titled 'Main Functions' (【主な機能】) lists: 'Reception of messages with attached files' (添付ファイル付きメッセージの受信), 'Survey responses' (アンケートの回答), and 'Absence/late arrival notification' (欠席・遅刻の連絡).</p> </div> </div>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者連絡システムの利用者</li> <li>②配信数の増加率（対旧システム使用時）</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①アプリの利用満足度</li> </ol>		

# 事業概要 【授業支援システムの導入によるICT活用学習の充実事業】

自治体名	滋賀県栗東市	人口	70,451人	事業費	7,150千円
事業概要	<p>「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化な充実のため、ICTを用いた児童生徒どうしの学びと授業改革をサポートする新たなクラウド型授業ツール「授業支援システム」を導入し、児童生徒自身が学び方を学べる機会の確保とICT利活用を促進する。また、不登校傾向の児童生徒が学びを止めることなく、自宅や別室など場所を選ばずに他者と思考過程を共有し、学習に参加することができる学びの多様化に対応する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><u>「授業支援システム」の導入</u></p> <p>【同時双方向型の協働的学習の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインによる教師と児童生徒とのやりとりだけでなく、児童生徒どうしのやりとりが可能となり、多様な他者との同時双方向型の協働的学習の展開が可能。</li> <li>自宅や別室など場所を選ばずに他者とのやりとりが可能となるため、不登校傾向の児童生徒の学びへの対応の幅が広がる。</li> </ul> <p>【思考過程の可視化と共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配布された課題への回答が一覧となり回収され、学級の児童生徒にも共有可能であるため、他者の思考過程からともに学びを深めることが可能。</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒どうしの協働的な学びを深めるICT活用</li> <li>②授業支援システムを活用した教師の授業改善</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ICTを活用した協働的な学びを深める学習経験の向上</li> <li>②授業支援システムを活用した児童生徒の満足度</li> </ol>		

# 事業概要 【「教育DX」に基づく甲賀市版GIGAスクール推進事業】

自治体名	滋賀県甲賀市	人口	88,581人	事業費	9,411千円
事業概要	<p>学校と保護者間における連絡手段のデジタル化を実現する。保護者からの情報発信（欠席連絡等）がスマートフォン上で実施できるシステムを構築・導入し、教職員と保護者双方の利便性向上と一層の負担軽減を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【保護者連絡ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校と保護者間における連絡手段をデジタル化し、学校から保護者への一方向の連絡だけでなく、遅刻・欠席連絡やアンケートといった双方向のコミュニケーションを実現する（多言語化にも対応）。</li> <li>遅刻・欠席連絡を統合型校務支援システムと連携し、教員事務や学校事務を効率化する。</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①アプリ登録者数</li> <li>②配布資料の電子での配信数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者満足度（%）</li> <li>②オンライン欠席報告利用率（%）</li> </ol>		

# 事業概要 【個別最適な学び推進事業】

自治体名	滋賀県愛荘町	人口	21,221人	事業費	2,348千円
事業概要	<p>令和5年度全国学力・学習状況調査結果が県および全国平均を下回っている本町の課題を踏まえ、児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着を図るため、AIドリル及びデジタル採点システムを導入・活用することにより、学習効率の最大化を図り、また同時に教員によるきめ細かな学習指導・生徒指導に繋げ、真に個別最適な学びを一層進める。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【AIドリル】小学校1校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIにより児童生徒一人ひとりのつまずきに応じた出題を自動化</li> <li>一人ひとりの学びの状況を可視化</li> <li>効率的な復習</li> </ul>		<p><b>個別最適な学びの一層の推進</b></p> <p>学校 ← 学習データの蓄積 ← 児童・生徒</p> <p>児童・生徒 → 学校 → きめ細やかな学習指導・生徒指導 → 児童・生徒</p> <p><b>効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【学校】 <ul style="list-style-type: none"> <li>学びの可視化</li> <li>授業の効率化</li> <li>個別指導時間確保</li> <li>ICT活用指導力向上</li> </ul> </li> <li>【児童・生徒】 <ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な復習</li> <li>学力の向上</li> <li>学習意欲の向上</li> <li>主体的学びへの転換</li> </ul> </li> <li>【家庭】 <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の高効率化</li> <li>教育に対する期待値・満足度の向上</li> </ul> </li> </ul>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童のAIドリル利用頻度</li> <li>②デジタル採点システム利用頻度</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査結果の全国比較（小6）</li> <li>②全国学力・学習状況調査結果の全国比較（中3）</li> <li>③デジタル採点システム利用による採点削減時間数</li> </ol>		

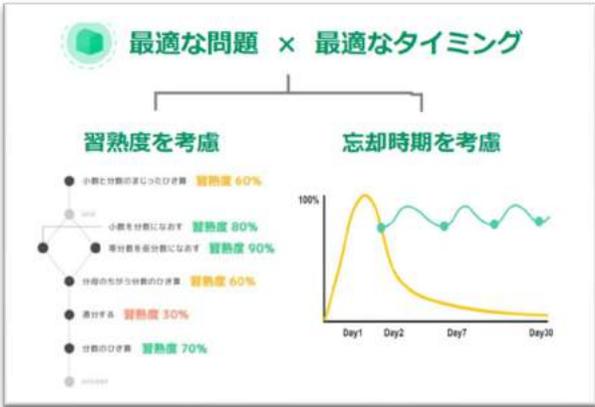
# 事業概要 【保護者連絡ツール導入事業】

自治体名	京都府綾部市	人口	31,572人	事業費	1,279千円
事業概要	<p>市内小中学校（16校（14施設））及び幼稚園（1園）が保護者連絡手段として独自にメールマガジン等を導入しているが、一斉配信ができない、欠席連絡を電話で受けているなどの課題が存在する。市で統一した保護者連絡ツールを導入することで、一斉に情報伝達できる他、欠席連絡を電話ではなくシステム化すること、また保護者連絡ツールに付随する機能を活用することで保護者と教職員のコミュニケーションを円滑化し、児童や保護者への支援充実を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【保護者連絡ツール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へのお知らせ配信</li> <li>欠席連絡</li> <li>市からの情報を全校・園へ一斉配信</li> <li>その他事業者が提供する学校保護者間の業務改善機能</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①保護者連絡ツールの利用率</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①利用する保護者のサービス満足度 ②不登校児童出現率 ③不登校生徒出現率</p>			

# 事業概要 【学校・家庭相互連携システム導入事業】

自治体名	大阪府岸和田市	人口	188,129人(R5.12.1現在)	事業費	12,518千円
事業概要	<p>統合型校務支援システムと連携可能な保護者連絡サービスの導入・活用することで、学校・家庭・地域の連携不足を解消し、きめ細やかな指導につなげ教育力向上を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>「学校・家庭相互連携システム」 ・tetoru 登録された保護者に向けて、専用アプリによるスマホならではのプッシュ通知で、メールより早く確実に情報を届ける。また、保護者から欠席連絡や家庭の様子を報告することが可能。導入済の統合型校務支援システムと連携することで、情報の一元管理・蓄積により、さまざまな情報をつなぎ、一人ひとりの児童・生徒に紐づく情報を多面的に可視化することで、学校の中での情報共有、教職員の気づきを最大化する。</p>		<p>学校 教育委員会 EDUCOM マスタージャーナル</p> <p>家庭・地域・学校・行政を双方向につなぐ</p> <p>ダッシュボードを核とした、学級・児童生徒一人ひとりの可視化と指導の質向上</p> <p>tetoru</p> <p>家庭 地域</p> <p>保護者からの欠席情報が連携可能ダッシュボードに即時反映</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者のシステム利用者登録数</li> <li>②システム利用度（保護者から学校への欠席連絡）</li> <li>③システム利用度（学校から保護者への連絡事項発信）</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①サービスを利用した保護者の満足度</li> <li>②支援が必要な児童・生徒への対応件数</li> </ul>		

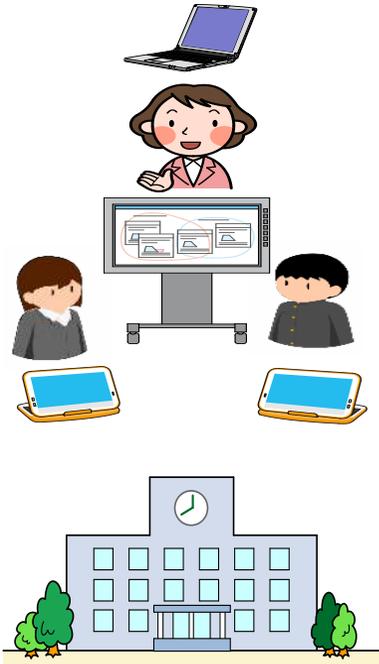
# 事業概要 【個別最適化学習の実現に向けたAIドリルの活用事業】

自治体名	大阪府豊中市	人口	407,007人	事業費	48,874千円
事業概要	<p>個別最適な学びの実現に向け、児童生徒一人一台タブレット端末にAIドリルを導入する。AIドリルの導入にあたっては、間違いの傾向や忘却のタイミングを考慮した出題することで、個々の状況に応じた具体的な支援・指導を実現し、下位層の底上げ、中位層は上位層、上位層は自分の得意な分野をさらに伸ばすことができる学習環境を実現する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【AIドリル】</b></p> <p>①理解スピードの向上をサポート AIが間違い原因を解析し、個別最適化された問題を出題</p> <p>②忘却ロスの最小化をサポート AIが忘れかけた頃を狙って、適切な復習問題を出題</p> <p>また児童生徒の学習状況がリアルタイムで把握できるようになるため、教員は生徒の学習状況を把握し、きめ細やかな学習指導につなげることができる。</p>	<p><b>【AIドリルの仕組み（一例）】</b></p>  <p>The diagram illustrates the AI Drill mechanism with two main components: '習熟度を考慮' (Consider Mastery) and '忘却時期を考慮' (Consider Forgetting Time). The '習熟度を考慮' part shows a tree diagram of problem difficulty levels with mastery percentages: 小問と計算のまじったひき算 (60%), 小題を計算にあおす (80%), 算数計算を分数にあおす (90%), 計算のちがう計算のひき算 (60%), 通分する (30%), and 分数のひき算 (70%). The '忘却時期を考慮' part shows a line graph of mastery percentage over time (Day1 to Day30), with a peak at Day1 and a gradual decline, indicating the optimal timing for re-questions.</p>			
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①AIドリルの一人あたりの利用時間/月</p>	<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①AIドリルを使って勉強するのが楽しいと思う児童生徒の割合</p>			

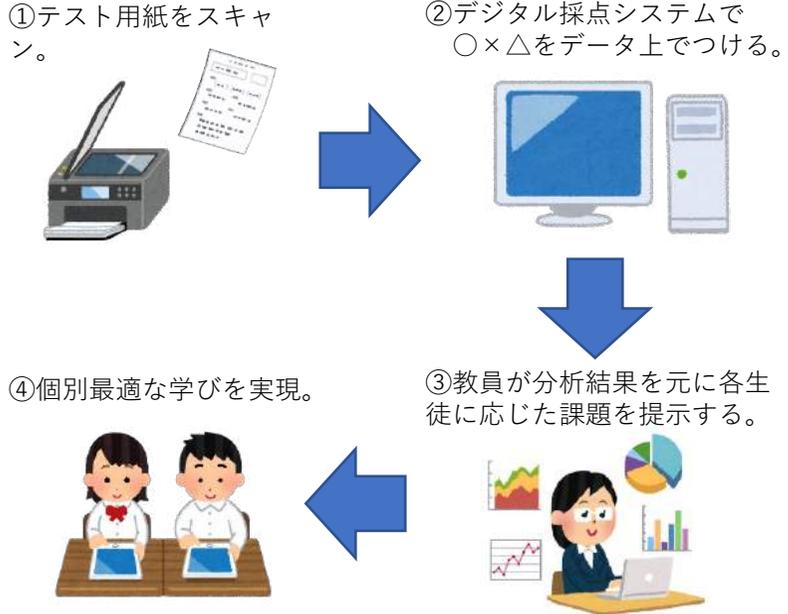
# 事業概要 【デジタル採点システム導入事業】

自治体名	大阪府茨木市	人口	285,715人	事業費	19,971千円
事業概要	<p>テストの採点や集計に教職員が多く時間と労力を割いていることから、本来教職員の重要な役割である「こどもと関わる時間」の確保が難しくなっている。そこで、デジタル採点システムを導入し、教職員の生産性を向上させ、「こどもと関わる時間の確保」を進めるとともに、教育データの生成をととした「個に応じた指導」の実現を図る。</p>				
具体サービス	<p>市内全中学校にデジタル採点システムを導入しデジタル化を進めることで以下の効果を狙う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育データの活用による個に応じた指導の実現                      串刺し採点等により教育データを生成し分析するとともにこども自身にも必要な情報を伝えることで、こどもそれぞれの課題に対応した指導を実現する。                      →こどもそれぞれの課題に応じた指導を行うことで、こどもたちの学力保障につなげる。</li> <li>採点時間の削減によりこどもと関わる時間の確保                      自動採点による精度向上や分散採点による効率化により採点に要する時間を縮小することで、「こどもと関わる時間」を確保する。                      →生徒や保護者とのコミュニケーションが充実することで、非認知能力の1つである「こどもたちが主体的に学びに向かう力」の養成につなげるとともに、個に応じた指導の時間を確保する。</li> <li>認証基盤とセキュリティシステムの構築                      システムの導入に当たり、採点対象となる生徒の成績は、本来は校務系のネットワークで取扱うべきものであり、インターネット上のサービスである本システムへの本市校務系ネットワーク以外からの接続を防ぐ。</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①定期テストにおけるデジタル採点システムの活用率</li> <li>②システムを活用した学習指導、会議、個別面談の実施割合</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の学力低位層の割合</li> <li>②学習に関するアンケートにおける肯定的回答の割合</li> </ol>		

# 事業概要【学校用大型提示装置更新】

自治体名	大阪府茨木市	人口	285,715人	事業費	120,000千円
事業概要	<p>現在、教室に設置しているモニターに替えて、タッチバック機能や児童による書き込み機能を備えた大型掲示装置(電子黒板等)を導入し、授業で活用しているGIGA端末や教職員端末と連携させることでインタラクティブな教育を実施し、児童の主体性・対話性の向上による質の高い教育を実現する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>①モニターに替えて高機能な大型掲示装置を導入する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校32校に計480台</li> <li>・普通教室に設置</li> </ul> <p>②高機能な大型掲示装置とGIGA端末や教職員端末を連携させ、多様な学習を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自由度の高い学習                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→高機能な大型掲示装置への書き込み等を活用し、児童の自由な表現の機会を提供</li> </ul> </li> <li>・児童の注意を引き付ける学習                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→高機能な大型掲示装置の共有機能等を活用し、手元の端末から目を上げる機会を提供</li> </ul> </li> <li>・効果的かつ多様な学習                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→高機能な大型掲示装置のタッチバック機能による授業の要点の可視化など、児童の効果的な学びを促進するとともに、外部とのオンライン通信機能の活用による多様な学びの機会を提供</li> </ul> </li> </ul> <p>【期待する効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話や顔を見る機会の創出による、主体性と対話性の向上</li> <li>・効果的かつ多様な学習により教育の質の向上</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①授業等における大型提示装置の使用頻度</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①学習の中で大型提示装置が勉強の役に立つと考える子どもの割合</p> <p>②全国学力学習状況調査での正答率40%以下の児童の割合</p>			

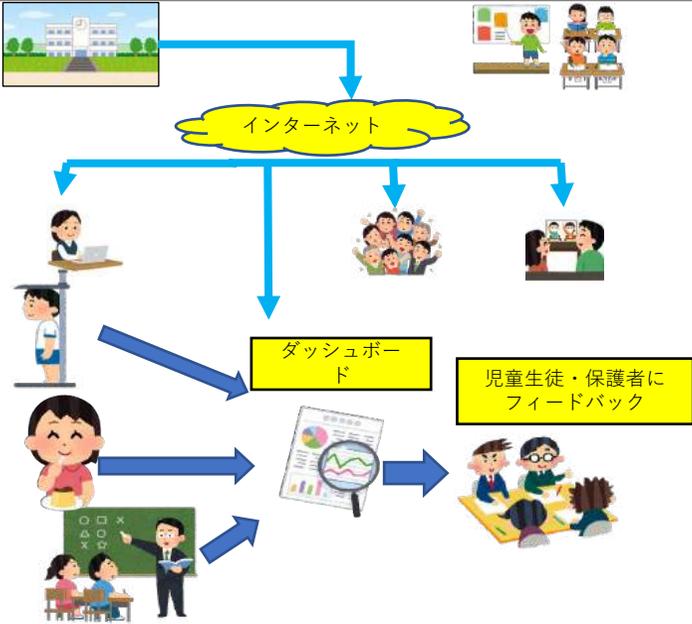
# 事業概要【デジタル採点システム整備事業】

自治体名	大阪府富田林市	人口	107,396人	事業費	968千円
事業概要	<p>学習活動のデータを共有・分析することで、教師の経験に基づく学習評価から学力向上や学習過程に対する評価への転換・改善を促進し、生徒一人ひとりにきめ細やかな支援と個別最適な学習機会の提供を実現する。また、市立中学校におけるテストの採点をデジタル化し、個々の生徒への指導や作問にも活かすことにより、生徒の力を最大限伸ばす質の高い学びの実現をめざす。</p>				
具体サービス	<p>【デジタル採点システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テストの採点・集計をデジタル化する機能を有するソフトウェアにより、紙によるテスト結果をデータ化する。</li> <li>• デジタル採点システムから出力される分析データにより、個に応じた指導に活用することができる。</li> <li>• 解答用紙の返却は、○×△や点数等がついた解答データを印刷またはデータで行うため、不正防止や事故防止に繋がる。</li> </ul>	<p>デジタル採点システムの活用の流れ</p> <p>①テスト用紙をスキャン。 ②デジタル採点システムで○×△をデータ上でつける。</p>  <p>③教員が分析結果を元に各生徒に応じた課題を提示する。</p> <p>④個別最適な学びを実現。</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①デジタル採点システム活用率 ②採点結果の分析データを指導に活用している割合</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①全国学力・学習状況調査の対全国比 ②「学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」と答えた生徒の割合</p>			

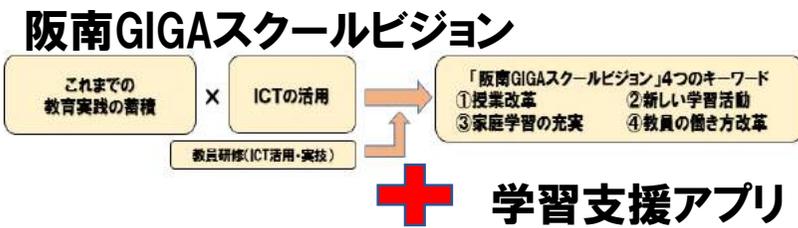
# 事業概要【教育委員会会議DX推進（動画配信・議事録作成）事業】

自治体名	大阪府大東市	人口	116,428人	事業費	2,890千円
事業概要	<p>教育委員会は、方針その他重要事項を決定する合議体であり、より多くの人に情報を発信するため、会議の録画配信・ライブ配信を行い、来庁せずとも、また、日時を選ばずとも、教育委員会会議にアクセスできる環境を構築するとともに、議事録についても、会議終了後、できる限り早急に公開できるよう、すでに庁内で導入済みの議事録作成ツールを有効に活用できる環境を整備する</p>				
具体サービス	<p>【録画・ライブ動画配信】 動画撮影用機材を調達し、会議を撮影。配信用ホームページを構築し、撮影動画を編集の上、インターネット上で配信する。特に配信に問題がないことを確認したうえで、ライブ配信にも取り組む。</p> <p>【議事録作成ツール活用環境改善】 庁内で導入済みの議事録作成ツールを活用するにあたり、効率的な文字起こしに必要な精度の高い音声を録音するため機材を導入するもの。</p>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①配信サイトへのアクセス数及び視聴人数</li> <li>②議事録サイトへのアクセス数</li> <li>③</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①住みたい自治体ランキング関西版</li> <li>②</li> <li>③</li> </ul>		

# 事業概要 【オンライン授業推進及び個別最適化の学習支援事業】

自治体名	大阪府大阪狭山市	人口	58,032人	事業費	8,747千円
事業概要	<p>市内小・中学校の児童生徒、保護者や地域の方に授業公開や保護者の利便性の向上、学習機会の確保などを目的として、必要な環境整備を行い、オンラインの授業参観や授業風景の配信、オンライン授業の配信等を行うとともに、児童生徒一人ひとりのダッシュボードを作成し、学習状況、健康面の状況を把握し、個別最適化の学習環境の構築を図ることを目的とする。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【オンライン授業参観を実施】</b>          ・授業参観をオンラインで実施することで、共働きや仕事の都合で参加できない保護者の利便性を向上</p> <p><b>【授業や学校行事の配信】</b>          ・市内の学校や地域に向けて授業や学校行事を公開していくことで、保護者以外の地域住民や関係機関とのつながりを強化する。</p> <p><b>【個別最適化に向けたダッシュボードの作成】</b>          ・児童生徒の学習状況、健康面などを可視化することで状況を把握し、個別最適化の学習を支援</p> <p><b>【ICT支援員の活用】</b>          ・オンライン授業実施のための、機材の接続やICT活用研修、実践事例の紹介などを行い、児童生徒や教職員のオンライン活用の強化</p>				
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①市内の学校や地域に向けた授業配信          ②個別最適化に向けたダッシュボードの作成数</p>	<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①児童生徒の授業配信に関する満足度          ②オンライン授業配信に関する保護者・地域の満足度          ③ダッシュボード作成にかかる保護者の満足度</p>			

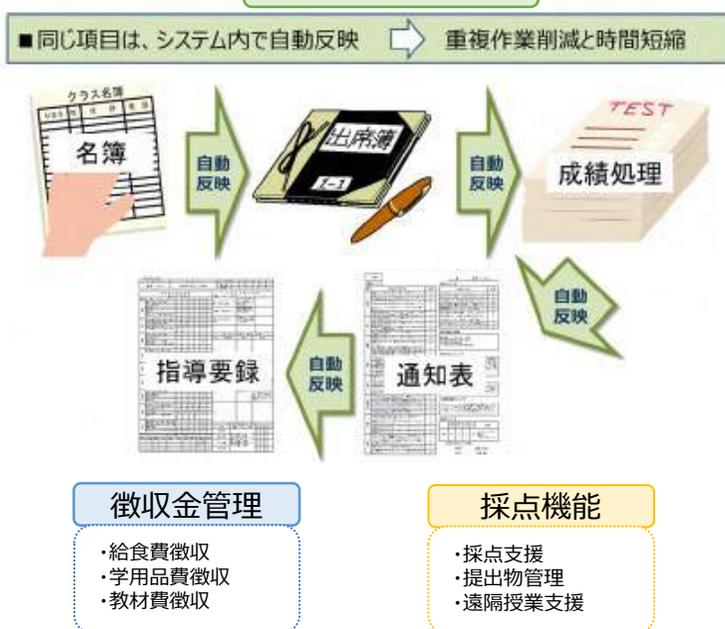
# 事業概要 【GIGAスクール推進事業】

自治体名	大阪府阪南市	人口	50,825人	事業費	6,881千円
事業概要	<p>阪南市のGIGAスクールビジョンのもと、一人一台端末を利用した、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により、児童生徒の学力の向上を図る。また、自ら課題を発見し、課題を解決するための発信する力、比較検討する力、考えを深める力などを養うためのICT関連の環境を整える。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>学習支援アプリでできること（児童生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考の可視化、比較</li> <li>・プレゼン資料作成の簡易さ</li> <li>・シンキングツールの使いやすさ</li> <li>・簡易な協同学習・動画の活用・編集</li> <li>・簡易なネット上資料とのリンク</li> <li>・資料の配布、提出時間短縮</li> <li>・他者の思考をデータで取り込むこと</li> </ul> <p>学習支援アプリ（教員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員に対する研修と研修資料の共有</li> <li>・質問箱対応</li> <li>・資料作成時間の短縮</li> <li>・先進的な活用実践のある小中学校全学年全教科の授業案のデータの活用が可能また、授業案のデータを取り出し、必要なものだけ活用することもできる。</li> </ul>		 <p><b>阪南GIGAスクールビジョン</b></p> <p>これまでの教育実践の蓄積 × ICTの活用 → 「阪南GIGAスクールビジョン」4つのキーワード      ①授業改革 ②新しい学習活動      ③家庭学習の充実 ④教員の働き方改革</p> <p>教員研修（ICT活用・実技）</p> <p><b>+</b> 学習支援アプリ</p> <p>生徒が主体的に学び合う双方向授業</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成、業務負担の軽減</p> <p>双方向授業   思考を可視化   教員が見たいページを見せられる Webフィルタ   授業ごとにデータを分けて自動保存 クラウド保存容量無制限</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>つなげてプレゼン      ・カードの中にカードを入れて組み合わせる      ・カードをつなげてプレゼンテーション資料作成</p> <p>学習履歴の蓄積      ・授業データのすべてを蓄積      ・カードを整理して学びを振り返る      ・学習履歴を引き出す</p> <p>シンキングツール（思考ツール）      ・思考の流れを可視化      ・アイディアの発散・収束      ・新しい考えをつくり出す</p> <p>協働学習      ・生徒同士でのファイル交換      ・複数人でデータを共有      ・一つのノートを複数人で共同編集（1024名同時参加）</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>小学校全体学習支援アプリの一日当たりの利用率          中学校全体学習支援アプリの一日当たりの利用率</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>小学生アンケートでの肯定的回答の割合          中学生アンケートでの肯定的回答の割合</p>		

# 事業概要 【はんなんプログラミング教育推進事業】

自治体名	大阪府阪南市	人口	50,825人	事業費	1,986千円
事業概要	<p>阪南市のプログラミング教育の問題を解決するため「プログラミング教育の楽しさを体験できるような低学年からの段階的な指導計画」にそったプログラミング教材を市で一括購入し、一定期間巡回や貸し出しするとともに、使用方法・指導方法等も含め巡回指導または公民館講座として行うことにより、プログラミング教育の一層の推進を図り、子どもたちがデジタル機器を一層身近なものと感じ、デジタル社会を担う人材育成を図ることもできるものである。</p>				
具体サービス	<p>【はんなんプログラミング教育の推進】</p> <p>小学校(生)向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンプラグドプログラミング教材、ロボット教材を使用した巡回指導(研修・出張公民館)を行う。</li> </ul> <p>中学校(生)向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドローンプログラミング教材を使用した巡回指(研修)を行う。</li> </ul>		<h2>はんなんプログラミング教育推進事業</h2> <p>段階的な指導に適したプログラミング教材の一括購入</p> <p>巡回指導</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①小学校(生)向け巡回指導及び貸出回数</li> <li>②中学校(生)向け巡回指導及び貸出回数</li> <li>③</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①受講者の満足度</li> <li>②論理的思考力の問題の正答の上昇率</li> <li>③</li> </ol>		

# 事業概要 【統合型校務支援システム構築事業】

自治体名	大阪府泉南郡岬町	人口	14,628人	事業費	36,900千円
事業概要	<p>統合型校務支援システムを構築することで、教育現場のアナログな事務処理及び情報管理などをデジタル化し、教職員の事務負担の軽減を図ることにより、子どもたちの育ちを教職員全体で見守る時間を創出することができ、きめやかな指導を行うことが可能となる。また、当該システムにより蓄積したデータを活用することにより、支援を必要とする子どもたちの早期発見や個別最適な学びの実現を目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>●子どもたちの育ち・見守り 【教務支援・学籍機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の家庭情報、学習情報、アレルギー管理、出欠情報、成績情報、通知表等の管理、日々の活動、友人関係、問題や課題の管理</li> </ul> <p>【保健機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察、各種検診結果等の管理</li> </ul> <p>●その他、教員の負担軽減 【徴収機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食費、学用品費、教材費等の徴収管理</li> </ul> <p>【採点機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIによる自動採点</li> </ul> <p>上記システムにより、教職員1人ひとりが児童生徒と向き合う時間を新たに創出し、個別最適な教育環境の構築を目指す。</p>		<p style="text-align: center;">校務支援システム</p> <p style="text-align: center;">■ 同じ項目は、システム内で自動反映 → 重複作業削減と時間短縮</p> 		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童・生徒への面談回数</li> <li>②情報公開（ホームページ更新）回数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童・生徒及び保護者の授業の充実度</li> <li>②学校に行くのが楽しいと感じる子どもの割合</li> </ol>		

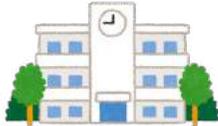
# 事業概要 【英語学習アプリを活用した英語力向上事業】

自治体名	兵庫県	人口	5,368,998人	事業費	12,960千円
事業概要	<p>英語の4技能の向上と、文科省策定「第4期教育振興基本計画」（以下「国計画」という）の英語力の指標であるCEFR A2相当以上を達成した生徒の割合60%以上を目指し、BYODによる一人一台端末を活用して、英語学習アプリとALTによる指導を効果的に融合させる授業実践及び英語学習指導を行う。それにより、ICTを有効に活用し個々の英語力に応じた個別最適な学びを実現し、各生徒が英語学習において抱える課題の解決を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員がアプリを活用して生徒の学習の進捗状況を個別に把握することで、個に応じた指導を受けることができる。</li> <li>・生徒の学習状況や英語力に関するデータを用いて、様々な分析を行うことができる。</li> <li>・生徒のタブレット等にインストールしたアプリを活用し、各生徒の学習到達状況に合わせて、自宅学習に取り組むことができる。</li> <li>・反転授業を行うことで、授業内で英語を用いたより高度な演習や議論に挑戦できる。</li> <li>・研究授業や研究協議において、専門家からより効果的なアプリの活用法や指導法について、助言を受けることができ、教員の指導力を高めることができる。</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】 英語学習アプリの平均稼働時間</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】 CFE A2相当以上の生徒の割合</p>			

# 事業概要 【公立高等学校等インターネット出願システムの導入】

自治体名	兵庫県	人口	5,368,998人	事業費	67,745千円
事業概要	<p>出願・入学考査料のオンライン決済・受検票の発行・志願状況の発表・合否判定・合格者発表・記者発表資料の作成等の学力検査に係る事務を一元管理できるシステムを導入することで、事務処理を効率化し、作業時間の削減を図る。令和6年度にシステムを実装し、兵庫県公立高等学校入学者選抜等の一部に導入、令和7年度は事業改善を行った上で、全学区インターネット出願に完全移行する。</p>				
具体サービス	<p>【インターネット出願システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出願手続きオンライン化 志願者はパソコンやスマートフォンにより、どこでもいつでも手続きが可能となる。</li> <li>・オンライン決済 入学考査料の納入を収入証紙からオンライン決済に変更し、収入証紙購入の手間をなくし、コンビニ決済、クレジット決済を選択・利用することによりキャッシュレス化を図る。</li> <li>・受検番号自動採番 必要事項の記入漏れや誤りを防ぐ仕様としたフォームから入力し、受検番号をシステム上で自動採番することで、出願に要する負担や時間を削減するとともに、受検票の発行ミスを防ぐ。</li> <li>・Web合格者発表</li> <li>・各種記者発表資料、統計資料作成</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>システム導入校の割合 インターネット出願システムを用いた出願申請者数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>システム利用者の満足度 出願申請者の手続きに関する削減時間合計</p>		

# 事業概要 【ICTを活用した不登校・いじめの発見事業】

自治体名	兵庫県芦屋市	人口	93,334 人	事業費	447千円
事業概要	<p>誰もが安心して学ぶことができる学校づくりに向け、一人ひとりの児童の学校適応感尺度を計測、集計、分析できるソフトウェア「ASSESS（アセス）、B-SAFE（ビーセーフ）」を全小学校5年生児童対象に導入を行い、いじめや不登校の実態把握と、早期の対応を行う。</p>				
<p>具体サービス</p>	 <p>学校適応感尺度を計測、集計、分析できるソフトウェア学校適応感尺度（ASSESS）といじめの実態把握だけでなく、対処・予防できることを意識したアンケート（B-SAFE）をセットで調査し、ネットいじめを含むいじめの実態把握に加え、必要な指導や支援を考えることができる。</p>		 <p>誰もが安心して学ぶことができる学校づくり</p>  <p>一人1台端末活用</p>  <p>状況を踏まえた適切な対応</p>  <p>不登校・いじめの未然防止早期対応</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①児童生徒への対応件数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①若者の自己肯定感 ②将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 ③不登校出現率</p>		

# 事業概要 【次世代型校務支援システム導入事業】

自治体名	兵庫県宝塚市	人口	229,049人	事業費	129,200千円
事業概要	<p>出欠情報、児童生徒の心の健康観察、児童生徒の学習データを集約・一元管理し、利活用することで個別最適な支援の実現を図る。さらに児童生徒の欠席連絡、保護者通知を全校オンライン化し、保護者及び教員の負担軽減、保護者の信頼度の向上を図る。このことにより、担当教員の学習・生活支援、学校経営での活用による教育の質の向上、教育委員会全体での児童生徒の見守りに資することを旨とする。</p>				
具体サービス	<p>【次世代型校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒に係る情報を収集・一元管理し、児童生徒や学級単位で蓄積されたデータを可視化する。これを日々の授業時、保護者からの欠席連絡時、職員会議時、教員指導時、保健室利用時、研修会時、保護者面談時等において、これまでの経験による推察にエビデンスを加えた明確な児童生徒像によるきめ細やかな質の高い指導と安心・安全な学校運営を実現する。</li> <li>欠席連絡と保護者通知のオンライン化</li> </ul>		<p>The diagram illustrates the system's data flow. On the left, three input boxes labeled '授業' (Classroom), '健康診断' (Health Check), and '児童生徒の家庭' (Children's Home) provide data to a central 'クラウド 校務支援システム' (Cloud School Management Support System) box. This central box then feeds into a 'ダッシュボード化' (Dashboard) box. To the right of the dashboard, there are three icons representing different support scenarios: '(授業で)' (In class), '(面談で)' (In consultation), and '(会議で)' (In meeting). Below the dashboard, a formula shows '経験' (Experience) plus 'エビデンス' (Evidence) equals '個別最適な支援' (Individualized Support), which is further illustrated by icons of a child and a teacher.</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①システムを活用した児童生徒との面談回数</li> <li>②欠席連絡ツールの保護者登録割合</li> <li>③</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の学級満足度</li> <li>②欠席連絡ツールの保護者満足度</li> <li>③</li> </ol>		

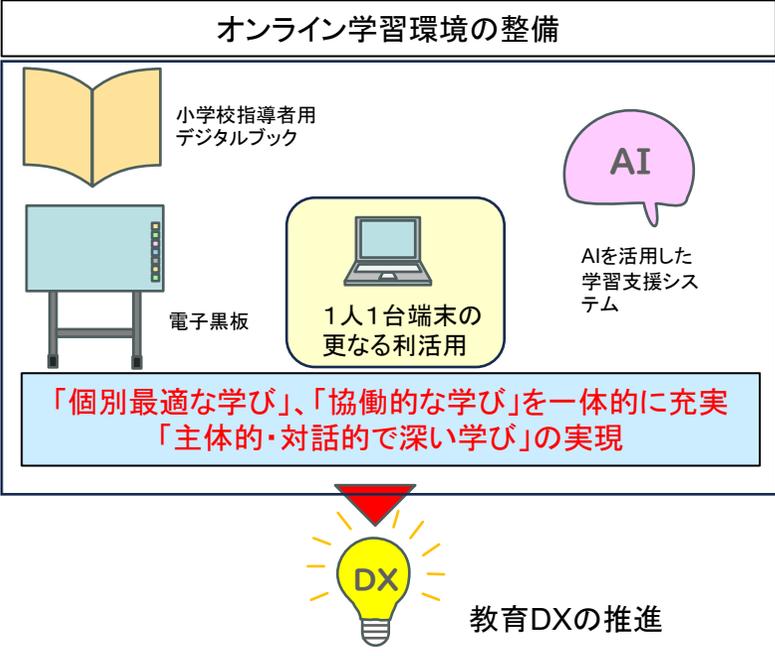
# 事業概要 【Well-beingな学校づくりを推進するための校務DX化事業】

自治体名	兵庫県三木市	人口	74,089人	事業費	60,382千円
事業概要	<p>現在取り扱っている学習系、校務系のデータをはじめとする様々な情報を一元管理し、活用していくために、クラウド型統合型校務支援システムを導入し、多角的な情報をもとに、児童生徒にきめ細やかな教育の実現を目指す。また、学校が保護者や地域にとっても中心的な場所となるよう、保護者や地域に向けて学校から様々な情報発信を行うためにも連絡システムを導入し、誰にとってもWell-beingな学校づくりを推進する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>クラウド版統合型校務支援システムを中心として、ここに集約される様々なデータを活用し、子ども一人一人の個人カルテを作成し、きめ細やかな教育の実現を目指す。また、既存の保護者・地域連絡システムを校務支援システムと連携させ、家庭への連絡がデジタルで確実に行えるようにする。加えて、この連絡システムの登録者を地域住民にまで拡大し、学校に関する様々な情報がこれまで以上に地域に発信・拡散することで、学校と保護者・地域との更なる連携強化を図る。</p>	<p>The diagram illustrates the '誰にとってもWell-beingな学校づくりの推進' (Promotion of Well-being School Creation for Everyone). It shows a central '統合型校務支援システム' (Unified School Management System) receiving data from '学習eポータル' (Learning e-Portal) and '保護者・地域連絡システム' (Parent/Region Communication System). The unified system processes '学習系データ' (Learning System Data) and '校務系データ' (School Management System Data) into '基本情報 成績情報 保健関係情報 出欠情報 所見情報...etc'. This data is used for 'きめ細やかな教育の実現' (Realization of Detailed Education) through 'データをもとにした個人カルテの作成' (Creation of Personal Cards based on Data), which includes '友人関係 家庭情報 食生活 問題・課題 日々の活動 細かな学習情報 表彰情報 関係機関からの情報...etc'. The unified system also provides '入力データ 反映' (Input Data Reflection) to the communication system. The communication system allows '保護者 出欠・健康状態等を入力可' (Parents can input absence/health status, etc.) and provides information to '保護者・地域住民' (Parents/Region Residents) for '学校と保護者・地域の連携強化' (Strengthening cooperation between schools, parents, and the region). '市役所' (City Office) also provides '学校外の関係機関も情報を入力' (Information from related organizations outside the school can be input).</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①統合型校務支援システムの個人カルテ関連機能の実行回数</li> <li>②保護者・地域連絡システムの登録者数</li> <li>③連絡システムによる情報発信の回数</li> </ul>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒保護者の学校に対する満足度</li> <li>②不登校児童生徒の出現率</li> <li>③連絡システムに対する利用者の満足度</li> </ul>			

# 事業概要 【連絡アプリ及びデータ収集UIの構築事業】

自治体名	兵庫県高砂市	人口	87,388人	事業費	1,070千円
事業概要	<p>子どもたちの資質・能力の一層確実な育成を図るため「デジタル・シティズンシップ教育」と「教育DX」の概念に基づき、「高砂市教育の情報化計画」を策定している。課題である「教員が子どもと向かい合うための時間の確保」を実現するために、教育委員会及び市立学校が組織的かつ計画的に高砂市版GIGAスクール構想を推進する。</p>				
具体サービス	<p>【1 連絡アプリ及びデータ収集UIの構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の保護者又は地域向けの情報発信（学級通信やアンケート、緊急連絡等）及び保護者からの情報共有（出席連絡等）ができるシステムの導入</li> <li>・連絡アプリからのデータは校務支援システムに連動</li> <li>・出欠状況の把握の迅速化、可視化</li> <li>・簡易アンケート機能による学校評価への意見反映</li> </ul>	<p>連絡アプリ及びデータ収集UIの構築</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 連絡アプリ及びデータ収集UIの構築：保護者登録率</li> <li>② 連絡アプリ及びデータ収集UIの構築：既読率</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 連絡アプリ及びデータ収集UIの構築：保護者・地域の満足度</li> <li>② 連絡アプリ及びデータ収集UIの構築：印刷時間の削減</li> </ol>			

# 事業概要 【オンライン学習環境の整備】

自治体名	兵庫県丹波市	人口	60,942人	事業費	127,009千円
事業概要	<p>学校間や教員間で一人一台端末の利活用に格差が出ており、児童生徒の情報活用能力に差が生まれつつあることから、不足している小学校指導者用デジタル教科書・デジタル教材等のデジタルブック、AIを活用したデジタル学習支援システム、電子黒板を導入し、オンライン学習環境を整備することにより、一人一台端末の更なる利活用を促進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するとともに、教育DXを推進する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【小学校指導者用デジタルブック】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者用デジタル教科書、デジタル教材、教師用指導書（デジタル版）がセットとなった小学校指導者用デジタルブックを導入</li> </ul> <p>【AIを活用したデジタル学習支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIを活用して児童生徒の状況進度や理解度に合わせて出題できるとともに、豊富な問題や画像を利用した授業教材や授業プリントを作成できるデジタル学習支援システムを導入</li> </ul> <p>【電子黒板】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校指導者用デジタルブックを表示させ、拡大表示、書き込みといった機能を持った電子黒板を導入</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">オンライン学習環境の整備</p>  <p style="text-align: center;">「個別最適な学び」、「協働的な学び」を一体的に充実 「主体的・対話的で深い学び」の実現</p> <p style="text-align: center;">DX 教育DXの推進</p> </div>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタルブックの活用回数</li> <li>②デジタル学習支援システムの使用回数</li> <li>③電子黒板の活用割合</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童のデジタルブックの満足度</li> <li>②デジタル学習支援システムを利用して、課題解決に向けて自ら取り組む児童生徒の割合</li> <li>③電子黒板を活用した授業は分かりやすいと回答した児童生徒の割合</li> </ol>		

# 事業概要 【NEXTGIGA ～ver.三宅～】

自治体名	奈良県三宅町	人口	6,524人	事業費	20,191千円
事業概要	<p>事業毎に実施する7つの事業を1パッケージ化し、Google workspace（GWS）を中心に据えた「授業改善のサイクル」を定着させることを目的に整備する。GIGAスクール構想の先を見据えたデジタル技術を1パッケージ化した三宅町版として実装させ、児童1人1人に寄り添う教育の実現につなげ、現在、全国学力状況調査等で明確化されている教育上の課題の解決に寄与する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【①AIドリルの導入による習熟度別学習の提供】 不登校に悩む児童や特別支援学級の子どもたちも含め、全児童1人1人に適した学びを提供。宿題として運用させ、教員の働き方改革にもつなげる。</p> <p>【②フィルタリングによる安全な学習環境の提供】 学校内外で、児童の安全な環境での学習の機会を保障する。</p> <p>【③GWSによる児童の「個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実」の実現】 電子黒板上で行われる日々のGWSを活用した授業はデータとして全て記録される。その結果、教員の研鑽が行われ、蓄積されたデータに基づく授業改善が起き、新たな授業が作られる（「授業改善のサイクル」）。サイクルの中心であり、本事業の核。</p> <p>【④教員用デジタル教科書及びクラウド指導書の整備による授業の質の向上】 電子黒板と併用し、授業の幅を広げる。また、場所を選ばぬ教材研究、アナログ教材準備の手間及び時間の削減ができる。</p> <p>【⑤ICT支援員派遣サービス】 ①～④における、児童・教員の支援を行う。</p>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①宿題としてのAIドリルの活用割合 ②持ち帰り学習の状況</p> <p>③電子黒板の授業での活用割合 ④デジタル教科書の授業における活用率</p> <p>⑥ICT支援員に対する児童及び教員の相談件数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①宿題における児童へのアンケート調査 ②児童の家庭学習アンケート調査</p> <p>③児童の授業満足度のアンケート調査 ④児童による授業アンケート</p> <p>⑤児童アンケートによる教員の指導に関する評価</p> <p>⑥授業における児童のICT活用率</p>		

# 事業概要 【教育DXの推進事業】

自治体名	和歌山県橋本市	人口	59,684人	事業費	31,411千円
事業概要	<p>・デジタル教科書導入により、学習理解の向上や電子黒板等ICT機器のさらなる活用を推進する。</p> <p>・全国的な不登校児童生徒の増加を受けて、不登校児童生徒に対してICTを活用した学びの機会を提供し、不登校児童生徒の学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える。</p>				
具体サービス	<p><b>【指導者用デジタル教科書配備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の公立小立学校 14校に対して、新学習指導要領に対応した指導者用デジタル教科書を配備する。</li> <li>各校 13教科（国語・書写・社会・地図・生活・算数・理科・音楽・図画工作・家庭・保健・英語・道徳）を配備する。</li> </ul> <p><b>【オンライン学習サービス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間機関が提供するオンライン学習教材を導入し、我が国の義務教育制度を前提として、自宅や教室以外の居場所においてICTを活用した学習を希望する児童生徒に対して学習機会を提供する。</li> </ul>				
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①指導者用デジタル教科書の利用率</p> <p>②オンライン学習教材で学習を行った児童生徒数</p>	<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①全国学力・学習状況調査において「授業の内容はよく分かる・分かる」と回答する割合</p> <p>②オンライン学習教材を用いた学習で意識が変容した児童生徒の割合</p>			

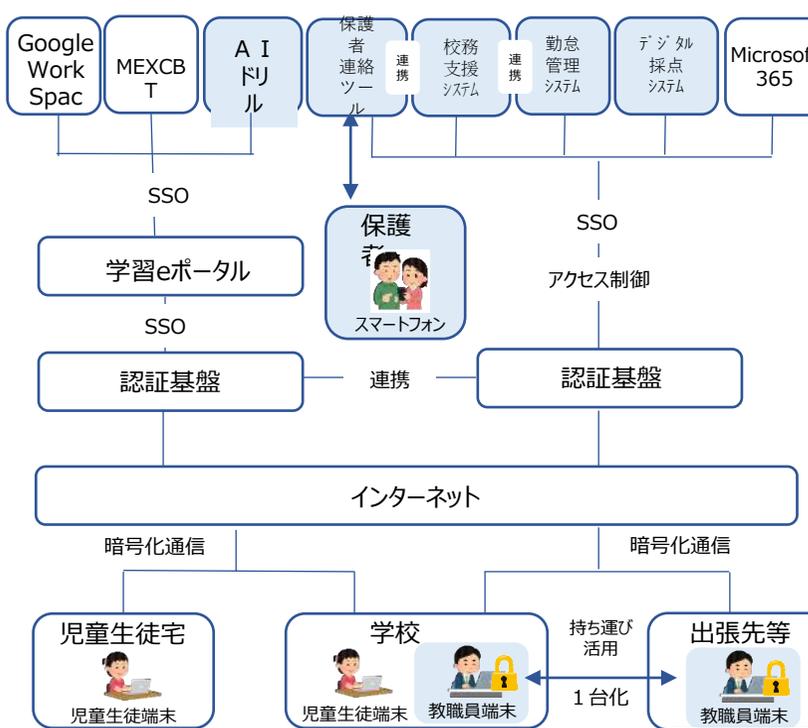
# 事業概要 【遠隔合同授業環境整備事業】

自治体名	和歌山県田辺市	人口	68,523人	事業費	154,605千円
事業概要	<p>田辺市は、近畿で最大の1,026.91km<sup>2</sup>の面積であり、その市域には小中学校が39校点在しており、中山間部を中心に小規模校が多くあることから、コミュニケーションの機会が不足していることが課題となっている。この解決策として、市内小中学校全校の教室に電子黒板機能付き大型提示装置を配置し、オンライン通信を用いた遠隔地学校等との同時双方向授業の展開を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>1 GIGAスクール構想のさらなる推進のため、各校教室に電子黒板機能付き大型提示装置を配置し、デジタル教材と組み合わせた同時双方向授業を行う。</p> <p>2 電子黒板機能付き大型提示装置を用いてオンライン通信による遠隔地学校等との同時双方向授業を行う。</p> <p>①遠隔交流学习の実施 ②遠隔合同授業の実施 ③自宅待機・不登校の児童生徒への授業配信 ④ICT活用事例のオンライン配信 ⑤オンライン通信による同時双方向授業の研究 ⑥オンライン通信を活用した研修の充実</p> <p>3 保護者や地域住民へのオンライン配信</p>		<p><b>家庭・地域連携</b> 参観授業や各種行事、保護者会等、現地で参加することが難しい家庭へオンライン配信する。</p> <p><b>オンライン通信を活用した研修</b> 参集型の研修からオンラインを活用した研修への移行。</p> <p><b>遠隔交流授業</b> 遠隔合同授業 複数の学校間をつないで、交流をしたり、単元を通じた合同授業を実施する。</p> <p><b>好事例の共有</b> 効果的に活用された事例を撮影し、市内教職員のポータルサイトで共有する。</p> <p><b>自宅待機・不登校の児童生徒への授業配信</b> 様々な事由により登校できない児童生徒へ、オンライン授業配信またはアーカイブ動画の配信を行う。</p> <p><b>田辺市教育委員会指定研究</b> 大学の指導のもと、遠隔授業についての効果的な事例を創出する。</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①オンライン通信による同時双方向授業の実施回数 ②電子黒板の活用頻度 ③電子黒板を活用した好事例動画の共有数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①同時双方向授業に対する児童生徒の満足度 ②児童生徒の1人1台端末の使用率 ③電子黒板を用いた授業による効果</p>		

# 事業概要 【デジタル採点システム導入事業】

自治体名	島根県	人口	648,249人	事業費	9,035千円
事業概要	<p>・県立高等学校における入試・定期テスト等の採点業務について、デジタル採点システムを導入</p> <p>・従来より試験の採点、集計及び結果分析は、すべて教員の手作業により行われてきたが、これをデジタル化することにより作業を大幅に効率化。解答返却の早期化により、教員が生徒と向き合う時間を確保するとともに、集計・分析機能を活用することにより教育の質の向上を図る。</p>				
具体サービス	<p>【デジタル採点ソフト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デジタル採点ソフトは、PCへインストールすることで導入・使用が可能</li> <li>・ 試験の回答用紙をスキャンし、その画像データを用いてPC画面上で採点。AIを搭載した認識機能で採点することも可能</li> <li>・ 小テスト、定期試験から入試まで対応</li> <li>・ 得点の集計や分析も自動で処理し一覧化</li> </ul>		<p>試験の実施・解答用紙の回収</p> <p>解答用紙のスキャン・PCへのデータ取り込み</p> <p>デジタル採点ソフトによる採点</p> <p>得点集計・分析</p> <p>集計・分析データ</p> <p>採点後返却データ</p> <p>採点した解答用紙の返却</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタル採点システム利用回数</li> <li>②生徒に対する指導時間が増えたと回答する割合</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①試験の採点完了までの日数の短縮</li> <li>②学習指導における満足度が向上したと回答する生徒の割合</li> </ol>		

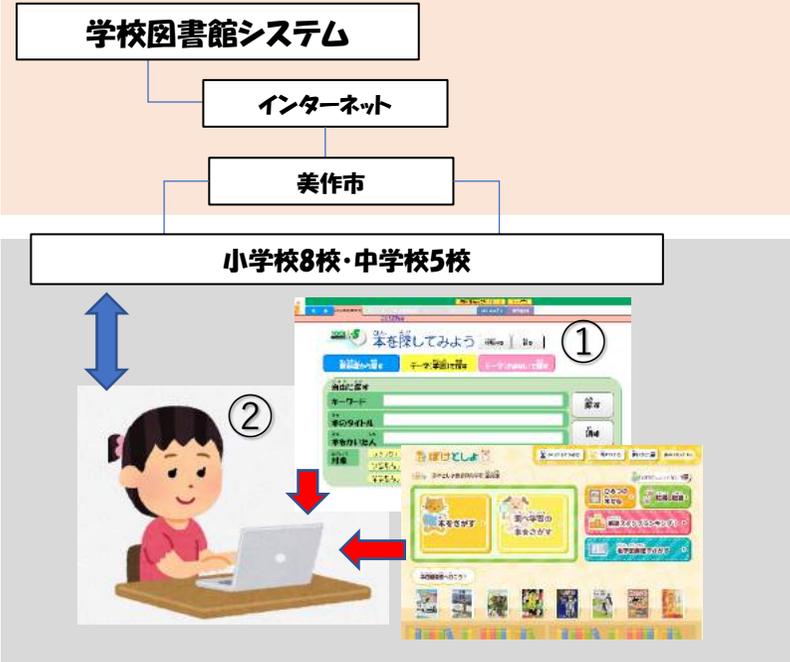
# 事業概要 【子どもと家庭のための学びのDX推進事業】

自治体名	岡山県玉野市	人口	55,017人	事業費	41,337千円
事業概要	<p>本市は、全国と比較して学力学習状況調査の結果が平均値を下回ることから、A I 型学習ドリル（※以下A I ドリル）を導入し、学力向上及び個別最適な学びの実現を図る。またデジタル採点システム、教職員の勤怠管理システム及び学校と保護者間の連絡システムを統合型校務支援システムと連携して管理することで、学校全体のデジタル化を推進し、学校に関わるすべての人々が、児童生徒と向き合うことに注力することで、児童生徒1人1人が成長を実感し、安心して学べる学校を実現する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p><b>【A I 型学習ドリル】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の学習到達度に応じた問題や解説を1人1台端末へ提示し、個別最適な学習を可能とする。また、児童生徒の興味関心を喚起し、自ら学び考えることで学習内容の定着を図る。</li> </ul> <p><b>【デジタル採点システム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙のテストを自動的に採点・集計することにより、学習記録をデータ管理し、個別最適な学びの提供を実現</li> </ul> <p><b>【統合型校務支援システムを基盤としたICT教育環境の構築】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育活動全体をICT活用を前提として行うことができる、学校のデジタル基盤整備を実現する。</li> <li>・教務系、保健系、学籍系、学校事務系を統合したクラウド版のシステムを導入する。</li> <li>・出退勤管理、休暇・出張等各種届出を管理するクラウド版のシステムを導入する。</li> <li>・教職員が校務と学習支援を場所を選ばず1台のPCで作業。</li> <li>・クラウド上で蓄積された学習データをダッシュボードで可視化させる。</li> </ul> <p><b>【保護者間連絡ツール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠を保護者のスマホから連絡可能。</li> <li>・教職員は学校内どの場所でも出欠確認可能。</li> </ul> </div> <div style="flex: 2;">  <p>The diagram illustrates the system architecture. At the top, several services are listed: Google Work Spac, MEXCB T, A I ドリル, 保護者連絡ツール, 校務支援システム, 勤怠管理システム, デジタル採点システム, and Microsoft 365. These are connected to a central 'SSO' (Single Sign-On) layer. Below this, there are boxes for '学習eポータル' and '認証基盤' (Authentication Base). The '学習eポータル' is also connected to 'SSO'. The '認証基盤' is connected to 'SSO' and 'アクセス制御' (Access Control). The '保護者スマートフォン' (Parent Smartphone) is connected to the '保護者連絡ツール' and 'アクセス制御'. The '認証基盤' is connected to 'インターネット' (Internet). The 'インターネット' is connected to '児童生徒宅' (Student Home), '学校' (School), and '出張先等' (Out-of-office, etc.). The '児童生徒宅' is connected to '児童生徒端末' (Student Terminal). The '学校' is connected to '児童生徒端末' and '教職員端末' (Teacher Terminal). The '出張先等' is connected to '教職員端末'. The '児童生徒端末' and '教職員端末' are connected to '1台化' (Unified Device). The '児童生徒宅' and '出張先等' are connected to '暗号化通信' (Encrypted Communication).</p> </div> </div>				
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①一人あたりのA Iドリルを起動した数の平均</li> <li>②紙媒体で行うテストを採点システムを使用して採点している教職員の割合</li> <li>③学校教育全体のICT活用状況</li> <li>④保護者連絡システムの使用率</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査における全国平均値との差</li> <li>②自分に合った学習を行っていると感じた児童生徒の割合</li> <li>③デジタル化により学びが充実したと感じる保護者の割合</li> <li>④保護者連絡システムの保護者満足度の平均</li> </ol>		

# 事業概要 【人と人をつなげるハブとしての電子黒板導入】

自治体名	岡山県備前市	人口	31,473人	事業費	181,394千円
事業概要	<p>市内小中高校の普通教室・特別教室、保育園・こども園の遊戯室等に電子黒板を導入する。これにより、主体的・協働的な学びや遊びを実現しやすい環境構築をより一層推進し、小規模校同士や園の交流を活発にし、現状で十分ではない不登校児童生徒対策や特別支援、発達障害児の保育活動支援、色弱・弱視児童生徒の支援ができる。災害時の避難所の災害情報ダッシュボードにもなり、<b>人と人をつなげるハブ</b>としての役割を担えるようになる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【人と人がつながる園】 教諭養成施設・地域住民と園がつながる</b>                  保育園・こども園のオンライン参観による就業前後のギャップ対策、地域住民への魅力的な情報発信</p> <p><b>【幼児教育】 園児と園児・園児と学校がつながる</b>                  発達障害児の視覚支援、書画カメラによる理解促進、幼小連携</p> <p><b>【主体的・協働的な学び】 子ども同士がつながる</b>                  コミュニケーション力、表現力など非認知能力の育成、国際交流、地域連携</p> <p><b>【不登校支援】 不登校の子どもと教室がつながる</b>                  大型画面で臨場感、授業参加の機会確保</p> <p><b>【特別支援、色弱等支援】 子どもと先生がつながる</b>                  特性に応じたデバイスの選択、ユニバーサルカラー、インクルーシブデザイン</p> <p><b>【災害時の避難所】 被災者と行政がつながる</b>                  避難所の災害情報ダッシュボード</p>		 <p>The diagram illustrates the digital blackboard as a central hub. It is connected to several key areas:                 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>インクルーシブデザイン</b> (Inclusive Design): Facilitating universal design for all.</li> <li><b>幼児教育</b> (Early Childhood Education): Supporting communication and interaction between children and staff.</li> <li><b>特別支援教育</b> (Special Support Education): Providing visual support and understanding for children with developmental disabilities.</li> <li><b>不登校児童生徒と学校をつなげる</b> (Connecting Non-attending Children and Schools): Supporting children who do not attend school through large screens.</li> <li><b>避難所の災害情報ダッシュボード</b> (Disaster Information Dashboard for Evacuation Sites): Providing real-time disaster information to evacuees and administrators.</li> <li><b>主体的・協働的な学び</b> (Active and Collaborative Learning): Enhancing communication and non-cognitive skills through group activities.</li> </ul> </p>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 協働学習・不登校・特別支援教育で利用した回数</li> <li>② 幼児教育で利用した回数</li> <li>③ 災害対策、感染症等の対策のために発信した情報数</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育活動の質 — 保育士・保育教諭の満足度の向上</li> <li>② 協働学習による非認知能力の向上</li> <li>③ 児童生徒・教職員の防災意識の向上</li> </ol>		

# 事業概要 【美作市学校図書館デジタル化事業】

自治体名	岡山県美作市	人口	25,540人	事業費	3,762千円
事業概要	<p>学校図書館の運営をデジタル化することで、児童生徒が読みたい本を探すことや、調べ学習等で必要な資料を探すことが容易となる。学校図書デジタル化により、蔵書が「見える化」され、図書の貸出冊数の増加につながる。また、資料検索が容易になることで、学校図書館を学習支援のための「学習センター」等として活用することを可能となり、児童生徒のアクティブラーニングの向上を目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【学校図書館システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①クラウド型蔵書管理システム                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 蔵書のデータ化</li> </ul> </li> <li>②タブレット版図書館検索システム                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 1人1台端末を活用した蔵書検索機能</li> <li>→ 新着図書紹介機能等</li> </ul> </li> </ul> <p>クラウド型のシステムであることから、蔵書の「学習件名検索」「教科書単元検索」「読み物キーワード検索」が可能となる。また、1人1台端末を活用し、教室等からでも蔵書検索が可能となる。図書館及び蔵書の利用が向上することで、児童生徒のアクティブラーニングの向上が可能となる。</p>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①システム利用回数</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①システムを導入した学校図書館の年間貸出冊数</li> <li>②システムの利用満足度</li> </ul>		

## 事業概要 【電子黒板を用いたオンライン学習環境整備事業】

自治体名	岡山県里庄町	人口	11,006人	事業費	49,069千円
事業概要	町内全小・中学校の各教室に電子黒板を整備し、欠席時・休校時に家庭と繋いだり、校内の別室と繋いだりするオンライン授業を実施し、多様な学び方を行えるような環境を整備するとともに、デジタル教材を最大限に活用し、協働的な学習を推進する。				
具体サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板と、現状整備しているクラウドアプリを利用することで、教室や家庭、校内の別室で学習している児童生徒が同時双方向オンライン授業に参加でき、様々な状況にあっても、学びを進めることができる。</li> <li>電子黒板を活用することで、児童・生徒が協働的に学習できる環境が整い、主体的で対話的な学習の推進を行うことができる。</li> </ul>				
主なKPI	<b>【アウトプット指標（活動指標）】</b> ①電子黒板を活用した授業の回数		<b>【アウトカム指標（成果指標）】</b> ①児童生徒の満足度		

# 事業概要【県立学校入学者選抜等デジタル化推進事業】

自治体名	広島県	人口	2,737,070人	事業費	49,050千円
------	-----	----	------------	-----	----------

**事業概要**

1 インターネット出願システムの新規機能追加  
 広島県公立高等学校入学者選抜において、出願の主たる手続はオンライン化しているが、志願変更等、一部の手続のオンライン化が未了である。これらの手続を完全に電子化することにより、志願者等の利便性の更なる向上を図る。

2 採点支援システムの導入  
 県立中・高等学校に「採点支援システム」を導入し、教員が行う定期考査や入学者選抜等の採点時間を縮減し、「子供と向き合う時間」を確保するとともに、システムの成績分析データを活用し、生徒の学びの定着状況に応じた授業改善や個別最適な学びの支援を充実させ、教育の質の向上を図る。

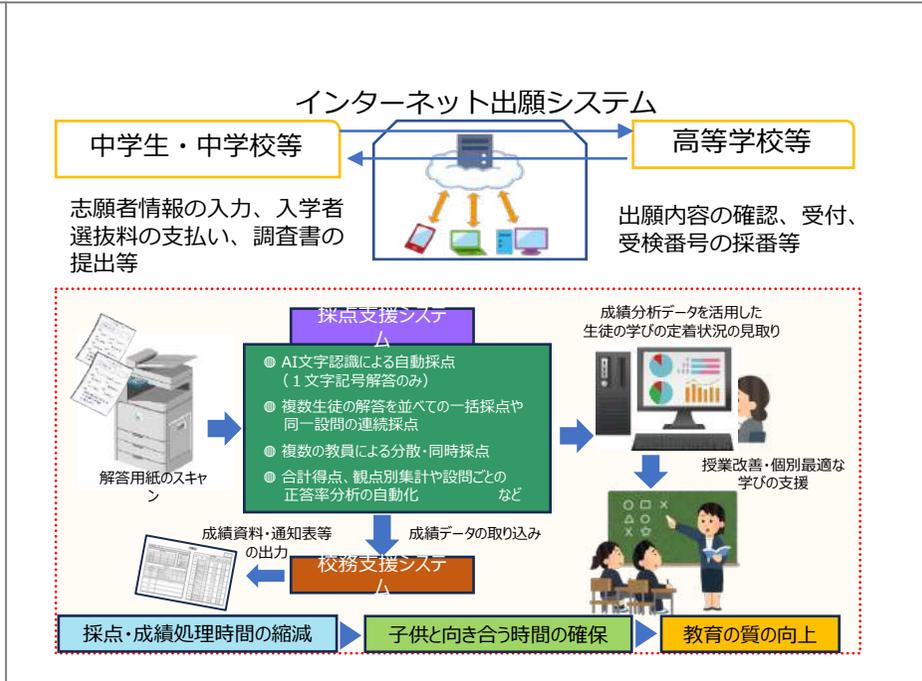
**具体サービス**

【インターネット出願システムサービス】

- 出願から合格発表までオンラインシステムで実施する。
- 志願変更について、現在志願変更願を紙媒体で持参により提出しているが、電子化することにより手続の利便性向上を図る。
- 現在紙媒体で提出されている調査書を電子化することにより、出願手続の利便性の向上及び高等学校における事務処理の効率化を図る。

【採点支援システム】

- AIの読み取りによる自動採点機能等の活用や採点データを校務支援システムに取り込み、データ連携させることで、採点・成績処理業務の一元化と効率化を図り、教員の「子供と向き合う時間」を確保する。
- 教員が、定期考査等の成績分析データ等を活用し、生徒の学びの定着状況等に応じた授業改善や評価問題の作成につなげる。
- 各学校が、入学者選抜の学力調査の正答率分析データ等を活用し、入学生徒の学力の状況に応じたスタートアップカリキュラムを充実させる。



**主なKPI**

【アウトプット指標（活動指標）】

- ① 調査書電子化対応校の割合
- ② 志願変更における電子申請の割合
- ③ 採点支援システムを利用している教員の割合

**【アウトカム指標（成果指標）】**

- ① システム利用者の満足度
- ② 採点支援システムを利用する前に比べ、採点業務等の時間が短縮し、子供（在校生）と向き合う時間が確保できるようになった教員の割合
- ③ 採点支援システムの成績分析データを、授業改善や生徒の個別指導に活用している教員の割合
- ④ 学校が育成を目指す資質・能力を身に付けようとしている生徒の割合

## 事業概要【教育DXの推進】

自治体名	広島県呉市	人口	205,747人	事業費	42,223千円
事業概要	校務の効率化と質の高い公教育を推進するため、デジタル技術を活用する。呉市立小・中・義務教育学校全59校へ保護者連絡アプリを導入することで、教職員・保護者双方の負担軽減を実現する。また、AI型デジタルドリルを導入し、児童生徒の主体的な学びを実現するとともに、教職員の働き方改革を実現する。				
具体サービス	<p>【保護者連絡アプリの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの欠席等連絡機能及び学校から保護者スマートフォンへのデジタル一斉配信機能を有するアプリの導入</li> </ul> <p>【AI型デジタルドリルの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人一人の主体的及び個別最適化された学習機会の提供・充実</li> </ul>	<p>保護者連絡アプリ →保護者の利便性向上 及び 教職員の負担軽減</p> <p>AI型デジタルドリル →主体的・個別最適化学習 を実現</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>保護者連絡アプリの導入世帯の割合</li> <li>AI型デジタルドリルの利用実績（利用している割合）</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>保護者連絡アプリの満足度</li> <li>全国学力・学習状況調査結果 全国平均との差</li> <li>児童生徒のAI型デジタルドリル利用満足度</li> </ol>			

# 事業概要 【個別最適な学びの実現と保護者へのきめ細かな対応を実現するデジタル化推進事業】

自治体名	広島県福山市	人口	458,460人	事業費	200,000千円
事業概要	<p>統合型校務支援システムを導入・活用することで、学校と保護者との連絡手段や学校における現金徴収業務をデジタル化し、保護者の利便性向上を図る。同時に、児童生徒の学籍・成績・保健等の情報を小1から中3まで蓄積・一元管理することで、教職員がこどもの情報を共有しやすくし、個別最適な学びの実現や支援を必要とする児童生徒や保護者へのきめ細かな対応につなげる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【統合型校務支援システム】</p> <p>○徴収金・保護者ポータル機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おたより, メッセージ通知</li> <li>・ 学校徴収金管理</li> <li>・ 連絡ノート</li> <li>・ アレルギー情報登録 等</li> </ul> <p>○校務支援機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒情報管理</li> <li>・ 出欠管理</li> <li>・ 成績管理</li> <li>・ 保健管理</li> <li>・ グループウェア 等</li> </ul>	<p style="text-align: center;">統合型校務支援システム</p> <p>※学校数 (小)69校 (中)30校 (義務)2校</p>			
<p>主な KPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者ポータルの利用登録者割合</li> <li>②口座振替利用者割合</li> <li>③児童生徒の日常所見登録件数</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校徴収金の負担感に対する満足度</li> <li>②先生からきめ細かいフォローを受けていると感じる子どもの割合</li> <li>③学校に行くのが楽しいと感じる子どもの割合</li> </ol>			

# 事業概要 【大崎上島町教育DX推進事業】

自治体名	広島県大崎上島町	人口	6,898人	事業費	25,355千円
事業概要	デジタル技術を組み合わせた教育DXの推進 ・ゼロトラスト型セキュリティと校務支援システムの導入により、教職員の児童生徒と向き合う時間を確保する ・学習系データと校務系データの連携等により、教育データの利活用を進める ・AIドリルと電子黒板の整備により、質の高い且つ効率的な学びを提供する				
具体サービス	【統合型校務支援システム】 ・統合型校務支援システム導入により、教員の業務負担軽減を図り、児童生徒および保護者と向き合う時間を拡大する。 ・教員間、教員・保護者間のコミュニケーション手段をデジタル化し、保護者の利便性向上を図る。 ・多要素認証を導入し、校務及び学習システムを利用する教職員の認証を厳格化。アクセス場所を問わず安全にシステム利用を可能として生徒情報の適切な保護を図る。 ・【AIドリル、電子黒板】 ・AIドリルを導入し、個々の習熟度に応じた問題を提示し、個別最適な学習を実現する。 ・電子黒板を整備し、個人の端末でまとめた考えを電子黒板で表現したり、遠隔地の学校や講師とのオンライン授業が可能となり、デジタルならではの質の高い且つ効率的な学びを提供する。				
主なKPI	【アウトプット指標（活動指標）】 ①児童生徒日常所見データの登録数 ②AIドリルの活用頻度 ③電子黒板を利用した授業頻度	【アウトカム指標（成果指標）】 ①児童生徒および保護者と向き合う時間の増加数 ②全国学力・学習状況調査			

## 事業概要 【ICTの活用による教育環境向上事業】

自治体名	山口県宇部市	人口	158,611人	事業費	1,153千円															
事業概要	デジタル採点システムの導入によって生み出された時間を、授業準備等の教材研究の時間として確保し、学習指導の充実を図るとともに、自動集計された結果をもとに生徒の学習状況を分析したり、学習指導の改善に生かしたりするなどして、生徒の個別最適な学びの充実を図る。																			
具体サービス	<p>【デジタル採点システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト答案のデジタル採点</li> <li>・観点別自動集計</li> <li>・個別最適な学びの充実</li> </ul> <p>学習状況に応じた補充発展学習・指導方法の改善</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>0分</th> <th>50分</th> <th>100分</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導入前</td> <td>テスト回収</td> <td>採点</td> <td>集計</td> <td>テスト返却</td> </tr> <tr> <td>導入後</td> <td>テスト回収</td> <td>自動採点</td> <td>自動集計</td> <td>テスト返却</td> </tr> </tbody> </table> <p>採点集計時間約40~60%削減          ⇒教材研究の時間確保          ⇒⇒個別最適な学びの充実</p> <p>(導入前の採点業務時間を100分と仮定した場合)</p>					0分	50分	100分		導入前	テスト回収	採点	集計	テスト返却	導入後	テスト回収	自動採点	自動集計	テスト返却
	0分	50分	100分																	
導入前	テスト回収	採点	集計	テスト返却																
導入後	テスト回収	自動採点	自動集計	テスト返却																
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①デジタル採点システム利用教員の割合</li> <li>②デジタル採点システムを活用した学習指導の回数</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査の結果</li> <li>②デジタル採点システムの利用満足度</li> </ol>																		

## 事業概要 【学校欠席連絡デジタル化事業】

自治体名	山口県周防大島町	人口	13,929人	事業費	2560千円
事業概要	<p>日本国内で多数の利用者がいるLINEを用いて構築した「スマホ役場」を利用して、児童の欠席連絡を保護者から学校へLINEを用いていつでもどこでも連絡することが可能となるサービスを提供する。</p> <p>保護者は朝の忙しい時間に電話をする必要がなくなり、学校側も電話応対による業務負担を軽減することができる。また学校側からLINEを用いて保護者宛の連絡を行うことも可能とする。</p>				
具体サービス	<p>【GovTech Express】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンアプリのLINEを用いて、電子申請が可能なサービスを用いて、学校の欠席連絡を実現する。</li> <li>欠席連絡において電話を不要として、24時間連絡を可能とする。</li> <li>トーク型の一問一答形式での入力となるため、保護者もわかりやすく欠席連絡が可能。</li> <li>情報発信ツールとしても使用でき、保護者向けにプッシュ型の連絡をクラス等別に送信することが可能</li> </ul>		<p>児童の欠席連絡</p> <p>保護者 (LINEアプリ)</p> <p>GovTech Express</p> <p>学校・教職員</p> <p>学校からのお知らせ</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校欠席連絡のLINE利用率</li> <li>②学校から保護者宛の連絡数</li> <li>③</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①利用者満足度</li> <li>②周防大島町公式LINEの登録者数</li> <li>③</li> </ol>		

# 事業概要 【WEBQUを活用した学級生活満足度向上事業】

自治体名	香川県善通寺市	人口	30,336人	事業費	1,848千円
事業概要	<p>学校生活での満足度と意欲、学級集団の状況を確認するため、児童・生徒全員を対象に年2回実施している紙媒体での「hyper-QU（楽しい学校生活を送るためのアンケート）」から、GIGAスクール構想により整備した1人1台端末を活用した「WEBQU」へ移行し、児童・生徒の状態を理解することで、学級運営に反映し、いじめ・不登校を未然に防ぐよう努める。</p> <p>児童・生徒のソーシャルスキルを向上することで、学級生活満足度が向上し、子どもたちが安心・安全に学校生活を送れる環境を整備する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>これまで紙媒体で実施していたhyper-QUからGIGAスクール構想により整備した1人1台端末を活用したWEBQUに移行する。</p> <p>【WEBQU】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が児童生徒の状態を多角的に知ることができるアンケートツール。</li> <li>・児童生徒一人ひとりの学級生活の満足度や学校生活への意欲、学級集団の状態等を測定できる。</li> <li>・ソーシャルスキルトレーニングの効果測定が行える。</li> <li>・回答結果をデータですぐに活用できることにより、関連する組織への情報連携、児童への素早い対応が行える。</li> </ul>	<p>The diagram illustrates the data flow of the WEBQU system. At the top, a cloud icon contains the text 'WEBQU' and a database icon. Two blue arrows point towards the cloud: one from the left labeled '・WEBQU回答データダウンロード' (WEBQU response data download) and one from the right labeled '・WEBQU回答' (WEBQU response). Below the cloud, on the left, a teacher is shown sitting at a desk with a laptop. A blue arrow points from the teacher to the cloud. Below the teacher is a blue box containing the text '学級運営状況の把握 必要なソーシャルスキルの把握' (Understanding of classroom management status, understanding of necessary social skills). On the right, two students are shown sitting at a desk with laptops. A blue arrow points from the students to the cloud. Below the students is a blue box containing the text 'ソーシャルスキルトレーニングの実施' (Implementation of social skills training). A horizontal blue arrow points from the teacher's box to the students' box. Below this arrow is the text '・結果を学級運営に反映' (Reflecting results in classroom management) and '・早期のいじめ・不登校等対策' (Early measures against bullying and absenteeism).</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①WEBQUに回答した児童生徒の割合</li> <li>②実施回数</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学級生活満足群の児童生徒の割合</li> <li>②親和的なまとまりのある学級集団の割合</li> </ol>			

# 事業概要 【電子黒板等整備事業】

自治体名	香川県東かがわ市	人口	27,955人	事業費	24,882千円
事業概要	子どもたちを誰一人取り残すことのない学習環境を目指し、学習者へ配布したタブレットと電子黒板を連携させることで、デジタル教科書などを用いた双方向型の授業を実施するもの。また、オンライン授業を視野に入れ、外部カメラ等にも活用できる実物投影機を、電子黒板と同時に整備する。				
具体サービス	<p>電子黒板の整備により、児童生徒が個人の端末でまとめた考えを表示可能な状態にし、1人1台端末を最大限活用する。また、オンライン授業を視野に入れ、Webカメラにも活用できる実物投影機を併せて整備する。</p> <p>【電子黒板の機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ワイヤレス画面共有機能</li> <li>②双方向書き込み機能</li> <li>③タッチディスプレイ機能</li> <li>④ホワイトボード機能</li> </ul> <p>【実物投影機の機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①書画カメラによる拡大表示機能</li> <li>②アプリ利用による授業支援機能</li> <li>③電子黒板とのワイヤレス接続機能</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査における小学6年生及び中学3年生の授業でのICT機器利用率</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教材の利用満足度（教員・児童）</li> <li>②使用率の向上</li> </ul>		

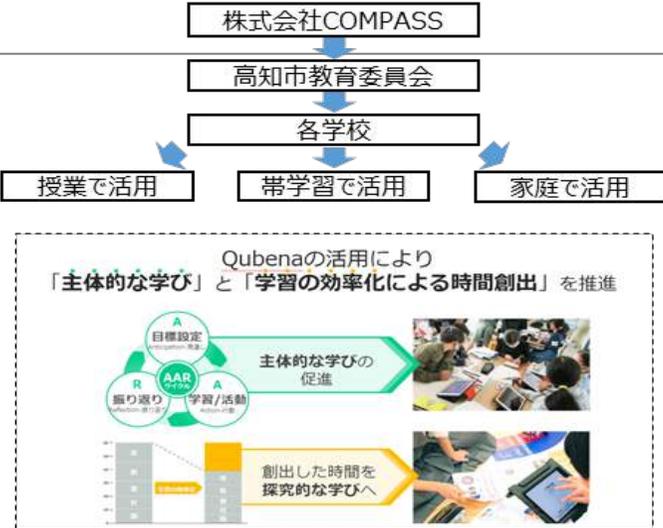
# 事業概要 【校務支援システム構築事業】

自治体名	香川県多度津町	人口	22,445人	事業費	23,842千円
事業概要	<p>子どもたち及び教職員に関する情報が一元管理されることで、学校内や教育委員会と情報共有され、課題に対する早期対応に期待ができる。</p> <p>また、データ管理による業務の効率化から事務作業時間の削減が可能となり、子どもたちと向き合う時間が確保されることで、教育環境の質の向上を図る。</p>				
具体サービス	<p><b>【統合型校務支援システム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校基本情報</li> <li>児童・生徒名簿管理</li> <li>成績管理</li> <li>指導要録作成</li> <li>出欠席管理</li> <li>個別教育支援計画</li> <li>帳票作成</li> <li>教職員基本情報</li> <li>日常所見</li> <li>通知表作成</li> <li>調査書作成</li> <li>出席簿</li> <li>個別指導計画</li> </ul> <p><b>【グループウェア】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポータル</li> <li>行事予定</li> <li>アンケート</li> <li>掲示板</li> <li>施設備品予約</li> <li>週案時数管理</li> <li>メール</li> <li>ファイル管理</li> <li>文書回覧收受</li> <li>お知らせ</li> <li>学校日誌</li> <li>出退勤管理</li> </ul>		<p>サービス提供事業者 Webサーバー</p> <p>統合型校務支援システム (グループウェア機能含む) クラウド上に構築</p> <p>校務系 ネットワーク</p> <p>児童・生徒、教職員の 設定・管理</p> <p>教育委員会</p> <p>学校入力情報の 共有</p> <p>児童の出欠・成績 日常所見などを管理</p> <p>メール・スケジュール 掲示板機能など</p> <p>A小学校 B小学校 C中学校</p>		
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①生徒、保護者に対する面談回数</p>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①子どもたちに対するアンケート結果の満足度（小学校）</p> <p>②子どもたちに対するアンケート結果の満足度（中学校）</p>		

# 事業概要 【学校図書館蔵書管理システム構築業務】

自治体名	香川県多度津町	人口	22,445人	事業費	3,131千円
事業概要	<p>学校図書館（中学校1校、小学校4校）の蔵書（約80,000冊）の管理をデジタル化することで、子どもたちが読みたい本を探したり、調べ学習などで必要な本を簡易に探すことができるようになる。</p> <p>蔵書管理がシステム化されることで、教職員の負担軽減や子どもたちのニーズに合った図書の選定が行われる等、図書環境の充実が図られる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【学校図書館蔵書管理システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○管理機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・書誌、所蔵、利用者の管理をデジタルで行う。</li> </ul> </li> <li>○カウンター機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出、返却、検索を行う。</li> </ul> </li> <li>○WEB機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットに接続している端末からの検索を行う。</li> <li>・町立学校内での書誌の検索を行う。</li> </ul> </li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 児童の1人当たりの貸出冊数</li> <li>② 生徒の1人当たりの貸出冊数</li> <li>③ 検索システムを利用した児童の割合</li> <li>④ 検索システムを利用した生徒の割合</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもたちに対するアンケート結果の満足度（小学校）</li> <li>② 子どもたちに対するアンケート結果の満足度（中学校）</li> </ol>			

# 事業概要 【GIGAスクール構想推進事業】

自治体名	高知県高知市	人口	316,666人 (R5.12.1現在)	事業費	58,808千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想の下で整備した学習用端末を活用して、児童生徒一人ひとりが自発的な学習に取り組めるよう、令和3年度にデジタルドリルを整備したが、習熟状況や学習プロセスをAIが解析することによって得られる学習データを活用した「指導の個別化」や、児童生徒が自身の学習履歴を確認し、AIが提案する定着状況に応じて出題される問題等に取り組む「自己調整的な学習活動」及び「学習の個性化」といった「個別最適な学習」をより一層推進するため、新たにAIドリルを整備するもの。</p> <p>また、高知市立学校の児童生徒の課題として挙げられる「学力」及び「家庭学習時間」を改善するために、全ての学校でAIデジタルドリルを活用して課題解決のための取組をすすめるもの。</p>				
具体サービス	株式会社COMPASSが提供するAI型デジタルドリル【Qubena】				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①一週間当たりのAIドリルの利用率</p> <p>②児童生徒一人当たりの月平均解答数</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①全国学力・学習状況調査 全国平均正答率比</p> <p>②学校の授業時間以外の勉強時間 高知県平均比</p>			

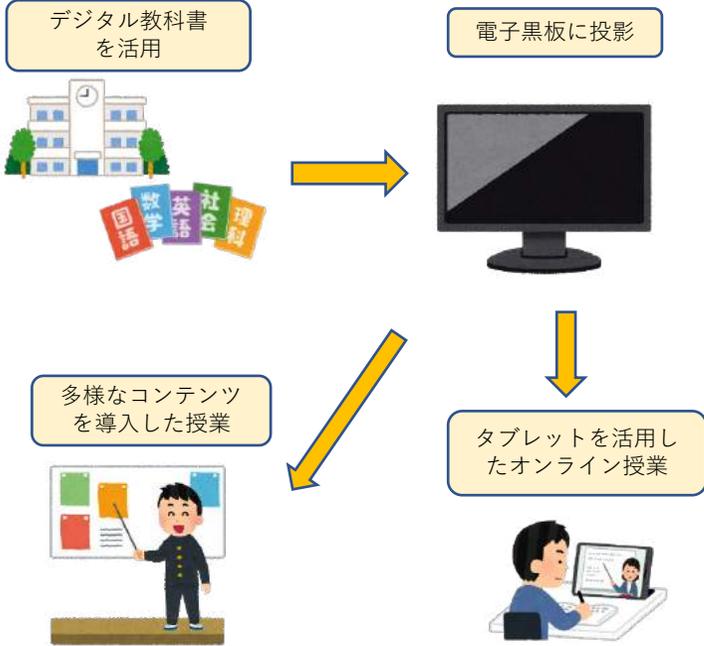
# 事業概要 【学校図書館への貸出・蔵書管理システムの導入】

自治体名	高知県土佐町	人口	3,524人	事業費	3,750千円
事業概要	<p>土佐町小中学校図書館に「貸出・蔵書管理システム」を導入することにより、下記の課題解決を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① システムの老朽化による土佐町小中学校図書館の利用の煩雑さを解消し児童・生徒の利用を促進</li> <li>② 人口減少等に伴い人員確保に苦慮している学校図書館スタッフの事務省力化</li> <li>③ 中山間地域における図書館の蔵書の充実</li> </ul>				
具体サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 土佐町小中学校図書館に「貸出・蔵書管理システム」を導入する。このことにより、下記を実現する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 図書カードの電子化による図書貸出の利便性向上</li> <li>✓ 蔵書管理システムによる貸出・書籍管理事務の省力化</li> </ul> </li> <li>• 土佐町立図書館のシステムと連携を行うことにより、町立図書館の蔵書の利用や、町立図書館と連携するオーテピア高知図書館の蔵書の利用を可能にし、学校図書館の蔵書機能の制約を改善する。</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校図書館貸出数</li> <li>②</li> <li>③</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①町立図書館利用者数</li> <li>②学校図書館における中学生利用冊数</li> <li>③</li> </ul>		

# 事業概要 【県立高校入試WEB出願システム導入事業】

自治体名	福岡県	人口	5,107,467人	事業費	100,694千円
事業概要	<p>公立高等学校入学者選抜の実施にあたり、入学願書の提出、入学選考料の納付及び受検票の受領等の出願に関する一連の手続きを全てWEB上で行うシステムを全県立高校に導入することにより、志願者・保護者の出願手続きの利便性を向上させ負担を軽減するとともに、出願関係書類の管理・確認等の入試業務の効率化により、中学校及び公立高校教職員の業務負担を大幅に軽減し、子どもと向き合う時間の確保や教育活動の充実を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【WEB出願システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立高校入学者選抜の出願から合格発表までの一連の手続きをオンラインで実施する。</li> <li>・休日や夜間を含め、24時間いつでも出願を可能とする。</li> <li>・必要事項の記入漏れや誤りを防ぐ仕様のフォームから入力することで、志願者の出願に要する時間を削減する。</li> <li>・入学選考料をクレジットやコンビニ決裁で納付可能にし、キャッシュレス化を図る。</li> <li>・合格発表（可否）をスマートフォン等から確認可能とする。</li> <li>・志願者情報や志願状況等をデータ管理することにより事務処理の軽減を図る。</li> </ul>		<p>▽WEB出願システムの導入</p> <p>&lt;出願の流れ&gt;</p> <p>出願手続きのオンライン化</p> <p>【WEB出願のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メリット① 期間内であれば24時間いつでも出願可能（入学選考料も電子決裁）</li> <li>メリット② IT・ITリテラシーにより書類チェックの負担軽減</li> <li>メリット③ 出願書類の格差不要</li> <li>メリット④ 受検票出力も自宅やコンビニで</li> <li>メリット⑤ 集計作業も自動化</li> </ul>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①WEB出願システムの利用率</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①志願者・保護者の出願利便性に係る満足度</p>		

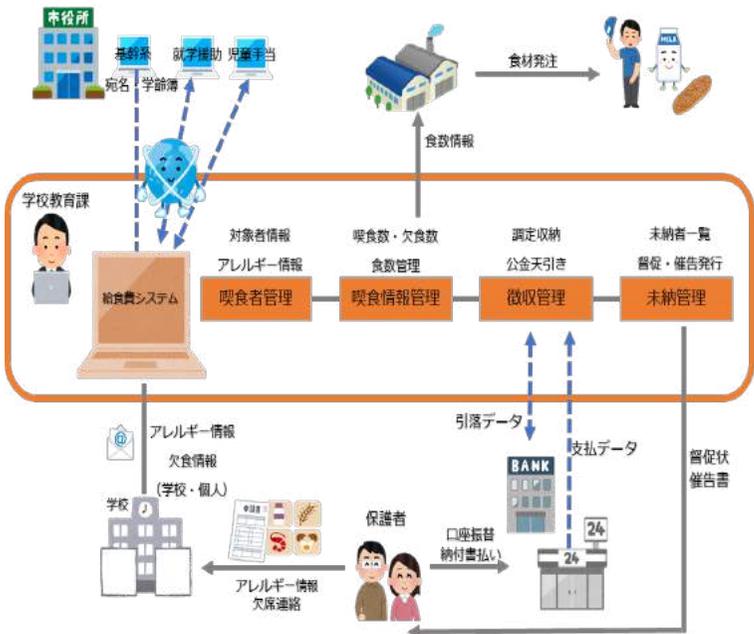
# 事業概要 【学校デジタル教科書導入事業】

自治体名	福岡県直方市	人口	55,168人	事業費	12,615千円
事業概要	<p>本市の重要課題である子どもたちの「基礎・基本を踏まえた確かな学力の定着の実現」を目指すため、教師用デジタル教科書の導入により、学習理解度の向上や電子黒板等の学校のICT環境の十分な活用を推進し、「これからの授業（デジタル機器を活用した未来型授業）」の整備を進めるものである。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>本市では、「これからの授業（デジタル機器を活用した未来型授業）」の実現を目指し、昨年度本交付金（R4年度補正）を活用して電子黒板の配置などICT環境の整備を行った。</p> <p>この度、本交付金において小学校における教師用デジタル教科書を導入することで、実装済みである電子黒板等と連携させ、一層の活用を促進し、子どもに視覚的・聴覚的に豊かな情報を体験させることを実現する。</p> <p>また、これまでの授業では困難であった音声教材や動画教材を授業に取り入れることで児童の興味や関心を引き出し、学習の習熟度・成績向上を図り、学校生活が楽しいと子どもが感じ取れる学習環境づくりを目指す。</p>		 <p>The diagram illustrates the implementation process of digital textbooks. It starts with 'Using digital textbooks' (top left), which leads to 'Projection on digital blackboard' (top right). From there, it branches into 'Diverse content integration' (bottom left) and 'Online lessons using tablets' (bottom right). The 'Diverse content integration' part shows a teacher pointing at a screen with various content icons. The 'Online lessons using tablets' part shows a student using a tablet.</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教師が利用可能な音声教材・動画教材等の教育用コンテンツ活用数</li> <li>②教師用デジタル教科書を活用した授業の実施数</li> <li>③</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童の学力向上</li> <li>②児童の学校生活満足度</li> <li>③</li> </ul>		

# 事業概要 【プログラミング教育推進事業】

自治体名	福岡県飯塚市	人口	124,987人	事業費	2,871千円
事業概要	<p>市内に理工系大学2校があるものの、進学する市内在住の生徒が少なく、結果的に人材の流出につながっている。市内の理工系大学へ地元進学者を増やすためには、理工系分野への興味関心を高めることが必要である。中学生のうちから、プログラミング学習を通じた「地域課題の解決」を体験することにより、本市への愛着を沸き立たせ、市内の理工系大学へ進学、その後の地元への定着を一体的に図ることを目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 提供事業者：ライフズテック株式会社</li> <li>● サービス名：ライフズテックレッスン</li> <li>・プログラミングを通じた検索機能付きWebサイト（双方向性コンテンツ）制作教材の提供</li> <li>・制作する検索機能付きWebサイト（双方向性コンテンツ）のテーマを「地域の課題解決」とすることで郷土愛を育むような課題解決型の学習ができる。</li> <li>● 導入予定中学校数 10校</li> <li>● 対象生徒数 3,290人（R5.10.1推計）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サービスの特徴</li> <li>① 双方向性コンテンツを学ぶことが出来るため、課題解決に向けたスキームを分かりやすく学ぶことが可能</li> <li>② プログラム画面上をオリジナルキャラクターがレクチャーすることで生徒の学習意欲を引き出すことが可能</li> <li>③ 生徒の進捗が分かる管理画面により、一人ひとりの理解度に合わせた丁寧なサポートが可能</li> </ul>   			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒がプログラミング学習教材にログインした割合</li> <li>② 生徒がプログラミング学習教材を授業以外で利用した割合</li> </ul>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① プログラミング学習教材の理解度</li> <li>② 進路選択・職業選択への影響に関する評価</li> <li>③ プログラミング学習教材の学習による自己効力感の向上</li> </ul>			

# 事業概要 【給食費管理システム導入事業】

自治体名	福岡県筑後市	人口	49,230人	事業費	14,649千円
事業概要	<p>学校給食費について、文部科学省はこれまでの学校やPTAが管理する私会計から市が管理する公会計への移行を推進している。このことから本市では令和7年度からの公会計実施に向けて準備を進めており、実施にあたっては給食費管理システムを一体的に構築・運用することで、保護者の納入における利便性向上と学校事務の効率化を図り、もって児童生徒へ安全安心な給食を引き続き提供できる体制を構築するものである。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【給食費管理システム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 喫食者管理 基幹系システムの学齢簿や就学援助データと連携し、児童生徒や保護者の基本情報を管理するとともに、給食費納入方法やアレルギー情報等を一元的に管理。</li> <li>● 喫食情報管理 学校行事による実施状況と日々の喫食状況をシステム上のカレンダーによって個人単位で管理。</li> <li>● 徴収管理 給食費の納入方法の多様化（複数の金融機関での口座振替、コンビニ納付、スマホ決済、児童手当や就学援助からの天引き等）を行うとともに、調定・請求・入金等の会計管理の簡素化</li> <li>● 未納管理 未納者を把握して督促状や催告書等を発行</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①口座振替登録件数</li> <li>②コンビニ納付件数</li> <li>③スマホ決済件数</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者の満足度調査</li> <li>②過誤納入件数の割合</li> <li>③</li> </ol>		

# 事業概要 【ICT環境整備による主体的・対話的で深い学びの実現】

自治体名	福岡県行橋市	人口	72,586人	事業費	49,260千円
事業概要	市内小中学校にAIドリル、デジタル教科書を導入し、AIやデジタル教材を活用した「個別最適な学び」を充実させる。また、電子黒板を整備し、タブレット端末と連携した「協働的な学び」を充実させる。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進することで児童生徒の「主体的・対話的な学び」を実現させる。				
具体サービス	<p>【AIドリル】 教科：国語、算数、理科、社会、英語</p> <p>【デジタル教科書】 小学校 指導者用：算数 学習者用：算数 中学校 指導者用：英語、数学 学習者用：数学</p> <p>【オンライン配信】（電子黒板） タブレット端末、デジタル教材との連携により、オンライン交流学習や教員と児童生徒または児童生徒同士が協働して学ぶ環境を整備する。</p> <p>【オンライン配信】（配信用タブレット） 授業の配信や電子黒板等ICT機器と連携し、教室内外を問わない双方向型の教育環境を整備する。</p>		<p style="text-align: center;"><b>主体的・対話的で深い学び</b></p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">個別最適な学び ・指導の個別化 ・学習の個性化</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">協働的な学び ・教室外での学び ・探求的な学び</p> <p style="text-align: center;">電子黒板 タブレット</p> <p style="text-align: center;">デジタル教科書 デジタルドリル</p> <p style="text-align: center;">学びの還元</p> <p style="text-align: center;">成果の活用</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①AIドリルの利用実績 ②デジタル教科書の利用実績 ③電子黒板の利用実績</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①全国学力学習状況調査の成績 ②不登校児童生徒数 ③教職員へのアンケート</p>		

# 事業概要 【統合型校務支援システム導入に伴うICT整備事業】

自治体名	福岡県嘉麻市	人口	34,964人	事業費	10,111千円
事業概要	<p>統合型校務支援システムを導入することで、校務情報の適正管理や校務の効率化に加え、ICTを活用した教育活動による学習系データと校務系データの連携による質の高い教育に取り組むことで、教職員が児童生徒に関わる時間を捻出し、データに基づいたきめ細かなアプローチを実現させる。さらに、保護者との連絡ツールとして活用することで、学校・保護者・教育委員会の情報共有・連携体制を整備し市全体で児童生徒を育てる環境を醸成する。</p>				
具体サービス	<p>【統合型校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の学籍管理</li> <li>児童生徒の個人情報</li> <li>児童生徒の出欠管理</li> <li>児童生徒の成績管理</li> <li>児童生徒の保健管理</li> <li>保護者からの欠席連絡</li> <li>学校からの一斉配信</li> </ul> <p>小中学校間で情報の引継ぎができ、9年間の変化が把握できます。また、地域間連携を行う市町村間では紙媒体ではなくデータで引継ぎが可能となります。</p>		<p>・教材研究、自己研鑽の時間の確保 ・児童生徒と向き合う時間の確保</p> <p>・校務の効率化 ・紙 ⇒ デジタル ・地域間連携</p> <p>・連絡ツールの利活用 ・情報共有、連携</p> <p>・質の高い教育の提供 ・きめ細やかな支援</p> <p>・校務支援システムを核として、学校に携わるすべてのひとがデジタル技術の利便性やメリットを享受できる学校ICT基盤の整備を図る。 ・近隣市で共同構築することにより、コストを抑制するとともに、地域間の情報連携等のデジタル化によるメリットを最大化する。</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教員の時間外勤務の削減</li> <li>②保護者連絡ツールの利用割合</li> <li>③ダッシュボード機能を使用して個別面談を行った教員の割合</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教職員による導入効果の評価</li> <li>②保護者連絡ツールの満足度</li> <li>③</li> </ol>		

# 事業概要 【AIデジタルドリル実装による個別最適化学習事業】

自治体名	福岡県嘉麻市	人口	34,964人	事業費	7,214千円
事業概要	<p>AIデジタルドリルを活用した「個別最適な学び」の推進。          学習者へのタブレット等の配布により、個々の学習進捗度合いに応じて問題を提示し、知識・技能の効率的な学習による学力向上を実現する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>基礎知識の習得場面においてデジタルドリルを活用した「個別最適な学び」を展開することで、学習効率の最大化を図る。</p>	<p>先生が作ったワークブックを配信すると、生徒の学習履歴をAIが判定し、一人ひとりに個別最適化した問題を適切なタイミングで自動出題されるように機能を拡張しました。</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①AIデジタルドリル利用率（毎月）</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① A I デジタルドリル利用率（年間）</li> <li>②標準学力検査（小3～小5）の標準化得点</li> <li>③全国学力・学習状況調査（小6）の標準化得点</li> </ol>			

# 事業概要 【統合型校務支援システム導入に伴うICT整備事業】

自治体名	福岡県 那珂川市 他10団体	人口	635,977人	事業費	94,194千円								
事業概要	<p>統合型校務支援システムを導入することで、校務情報の適正管理や校務の効率化に加え、ICTを活用した教育活動による学習系データと校務系データの連携による質の高い教育に取り組むことで、教職員が児童生徒に関わる時間を捻出し、データに基づいたきめ細かなアプローチを実現させる。さらに、保護者との連絡ツールとして活用することで、学校・保護者・教育委員会の情報共有・連携体制を整備し参加自治体全体で児童生徒を育てる環境を醸成する。</p>												
具体サービス	<p>【統合型校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の学籍管理</li> <li>児童生徒の出欠管理</li> <li>児童生徒の成績管理</li> <li>児童生徒の保健管理</li> <li>児童生徒の個人情報 など</li> </ul> <p>【保護者連絡システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの欠席連絡、家庭の様子の報告</li> <li>保護者アンケート など</li> </ul> <p>小中学校間で情報の引継ぎができ、9年間の変化が把握できます。また、地域間連携を行う市町村間では紙媒体ではなくデータで引継ぎが可能となります</p>	<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <h3 style="text-align: center;">ふく電協推奨システム※</h3> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed blue; padding: 5px;">学籍管理 成績管理</td> <td style="padding: 5px;">保護者からの欠席連絡</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed blue; padding: 5px;">出欠管理 保健管理</td> <td style="padding: 5px;">家庭の様子の報告</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed blue; padding: 5px;">校務情報管理 連絡共有</td> <td style="padding: 5px;">保護者アンケート</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed blue; padding: 5px;">ダッシュボード</td> <td style="padding: 5px;">GIGAスクールアカウント管理</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center;">自治体ごとの接続方式 (境界分離/ネットワーク統合)</p> <p style="text-align: right; color: red;">円滑な情報共有 欠席連絡の送付</p> <p style="text-align: center;">自治体を越えた 情報連携</p> <p style="text-align: center;">保護者</p> <p>※「ふくおか電子自治体共同運営協議会」（県及び県内53自治体で構成）で共同調達するシステム。利用市町村は今後順次拡大。</p>				学籍管理 成績管理	保護者からの欠席連絡	出欠管理 保健管理	家庭の様子の報告	校務情報管理 連絡共有	保護者アンケート	ダッシュボード	GIGAスクールアカウント管理
学籍管理 成績管理	保護者からの欠席連絡												
出欠管理 保健管理	家庭の様子の報告												
校務情報管理 連絡共有	保護者アンケート												
ダッシュボード	GIGAスクールアカウント管理												
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者連絡ツールの利用割合</li> <li>②統合型校務支援システムの利用回数</li> <li>③ダッシュボード機能を使用して面談を行った教員の割合</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者連絡の満足度</li> <li>②児童生徒一人ひとりと向き合う時間に関する評価</li> </ol>											

# 事業概要 【デジタルの活用による教育環境充実事業】

自治体名	福岡県糟屋郡宇美町	人口	37,022人	事業費	23,992千円
事業概要	<p>協働授業・双方向型の学びの機会が減少し、児童生徒の主体的な学習意欲が低下している。ICTを活用したアクティブラーニングを促すために電子黒板・授業支援システムおよびその活用を最大化する校内ネットワーク環境を整備する。ICTを活用した双方向・個別最適な学びの実現により、支援を必要とする児童生徒への個別支援を拡充するなど教育環境の充実を図っていく。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p><b>【電子黒板整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒同士の画面を一覧表示することによる授業の活性化</li> <li>・オンライン同時双方向の授業により、自宅待機・不登校の児童生徒への授業配信</li> </ul> <p><b>【授業支援システム（スクールタクト）導入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働学習の運営支援・活性化</li> <li>・システムを通じた課題の配布・提出によるデータ分析</li> </ul> <p>※電子黒板と連携することにより、双方向性の授業展開教材</p> <p><b>【校務用パソコンの無線化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所を問わない授業支援システムの利用</li> <li>・校務のロケーションフリー化を実施し、教職員の働く環境の改善</li> </ul> </div> <div style="flex: 2;"> </div> </div>				
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業支援システムの使用回数</li> <li>②電子黒板の活用割合</li> </ol>	<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒のアクティブラーニングの発達段階</li> <li>②授業支援システム利用児童生徒の満足度</li> <li>③いじめ・不登校の可能性が低い児童・生徒の割合</li> <li>④電子黒板利用児童生徒の満足度</li> </ol>			

## 事業概要 【デジタル教科書導入事業】

自治体名	福岡県大刀洗町	人口	16,069人	事業費	3,285千円
事業概要	指導者用及び学習者用デジタル教科書を導入し、多種多様なデジタルコンテンツを分かりやすく提示することで、授業の幅を広げ、児童生徒の学習理解度の向上を図る。また、授業のICT促進を図り、学習効率を向上させる。				
具体サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者用及び学習者用デジタル教科書と既存の電子黒板を活用し、動画やアニメーション、授業スライド等、学習のモデルをわかりやすく提示し、児童生徒の学習の習熟度を高め、学力向上を図る。</li> <li>・授業のICT化促進を図り、学習効率を向上させ、教職員の働き方改革をサポートする。</li> </ul>		 <p>デジタル教科書 (こくこ)</p> <p>投影</p> <p>電子黒板 (既存)</p>		
主なKPI	<b>【アウトプット指標 (活動指標)】</b> ①デジタル教科書利用頻度 ②デジタル教科書使用科目数		<b>【アウトカム指標 (成果指標)】</b> ①児童生徒の満足度		

# 事業概要 【デジタル技術を活用した教育推進事業】

自治体名	福岡県京都郡苅田町	人口	37,711人	事業費	2,211千円
事業概要	<p>学習者の1人1台端末にデジタルドリルを導入し、個々の習熟度に応じた「個別最適化された学び」の機会を提供し、子どもの学習意欲と学力の向上を図る。またデジタル採点ソフトを教員PCに導入することで生徒の個別指導の時間が生み出されることや学習習熟度を分析し授業改善につなげることができる。</p>				
具体サービス	<p>1.デジタルドリル導入事業 【個別最適化学習支援】 学習者の個々の進捗度合・理解度に応じた難易度の問題を提示し一人ひとりにあった効率的な学習を支援する。 【学習履歴を活用した授業改善】 教員は、学習の過程で蓄積された学習履歴を教員用コンピュータを使って確認することができ、クラス全体や子どもたち一人ひとりの学習目標の達成度を確認でき、タイミング良く適切な個別指導が行える。</p> <p>2.デジタル採点ソフト導入事業 【回答傾向を活用した授業改善】 自動採点され教員の業務負担軽減につながるとともに学習習熟度を分析し授業改善につなげることができる。</p>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①②デジタルドリルの1週間あたりの平均利用回数 （国語・算数）（理科、社会、英語）</p> <p>③デジタル採点ソフトを使用した教員の数の割合</p> <p>④デジタル採点ソフトを使用して授業改善につながった教員の数の割合</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①②デジタルドリルの満足度 （国語・算数）（理科、社会、英語）</p> <p>③デジタル採点ソフトの満足度</p> <p>④授業内容の理解度</p>		

# 事業概要 【学校・保護者間連絡システム導入事業】

自治体名	福岡県苅田町	人口	37,711人	事業費	1,188千円
事業概要	<p>学校と保護者間の連絡手段として連絡システム(アプリケーション)を導入し、メール送信、欠席・遅刻連絡や配布資料の電子化等、新たな双方向型の連絡体制を構築し、保護者、教職員の時間の効率的な利用を促し、教職員や保護者が子どもたちと向き合う時間を確保する。併せて、学校関係団体や放課後児童クラブなど地域の支援者と学校、保護者との情報共有を図る。</p>				
具体サービス	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p><b>【学校・保護者間連絡システム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から保護者への連絡機能(ペーパーレス化)</li> <li>・教育委員会及び各団体から保護者への連絡機能</li> <li>・児童生徒欠席遅刻連絡及び健康観察記録機能</li> <li>・各種アンケート機能</li> <li>・多言語対応</li> </ul> </div> <div style="flex: 2; text-align: center;"> <p>The diagram illustrates the 'unification of communication channels' (連絡手段の一元化). On the left, three categories are listed in rounded boxes:           <ul style="list-style-type: none"> <li><b>学校 (School):</b> Includes '働き方改革' (Work style reform) and '地域学校協働活動' (Community school collaboration activities).</li> <li><b>家庭 (Family):</b> Includes '家庭の負担軽減' (Reduction of family burden) and '子どもの安全確保' (Child safety assurance).</li> <li><b>地域 (Community):</b> Includes '放課後児童クラブ' (After-school children's club) and '地域ボランティア' (Community volunteers).</li> </ul>           An arrow labeled '連絡手段の一元化' points to a central circular diagram. This diagram features a central circle labeled '連絡システム' (Communication System), surrounded by three smaller circles labeled '学校' (School), '家庭' (Family), and '地域' (Community), all connected by a circular line.</p> </div> </div>				
主なKPI	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①連絡システム登録者数</li> <li>②アプリを通じた情報通知数</li> </ul>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①システム導入における保護者満足度</li> </ul>		

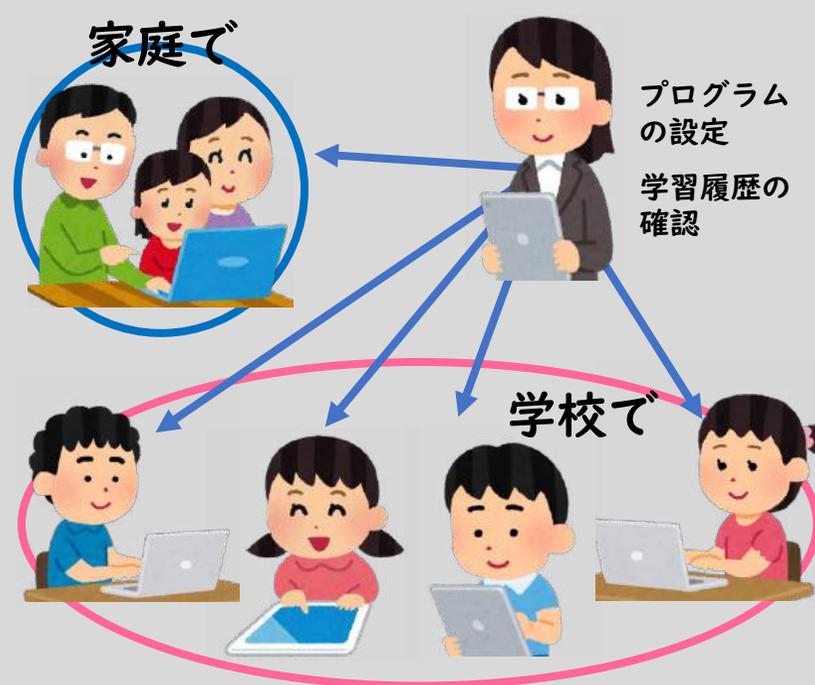
# 事業概要 【統合型校務支援システム導入に伴うICT整備事業】

自治体名	福岡県みやこ町	人口	18,069人	事業費	7,668千円
事業概要	<p>統合型校務支援システムを導入することで、校務情報の適正管理や校務の効率化に加え、ICTを活用した教育活動による学習系データと校務系データの連携による質の高い教育に取組み、子どもの健やかな成長を実現する環境整備と、教職員が児童生徒に関わる時間を捻出し、データに基づいたきめ細かなアプローチを実現させる。さらに、保護者との連絡ツールとして活用することで、学校・保護者・教育委員会の情報共有・連携体制を整備し町全体で児童生徒を育てる環境を醸成する。</p>				
具体サービス	<p>統合型校務支援システムを中心として、保護者・地域と学校、教育委員会が連携をとることで、児童生徒に高水準の教育環境を提供する。</p> <p>【統合型校務支援システムの機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の情報管理 学籍管理、個人情報、成績管理、保健管理</li> <li>・保護者との連絡ツール</li> <li>・学校からの一斉配信ツール</li> </ul> <p>【導入する学校数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校 4校</li> <li>・小学校 6校</li> </ul> <p>※小中学校間で情報の引継ぎができ、9年間の変化が把握できます。また、地域間連携を行う市町村間ではデータで引継ぎを可能とします。</p>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者連絡ツールの利用割合</li> <li>②ダッシュボード機能を使用して個別面談を行った回数の割合</li> <li>③</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒による学校満足度</li> <li>②保護者連絡ツールの満足度</li> <li>③</li> </ol>		

# 事業概要【WEB-QUの実施】

自治体名	佐賀県佐賀市	人口	228,121人	事業費	8,712千円
事業概要	<p>学校生活での満足度と意欲、学級集団の状況を確認するため、児童・生徒全員を対象に実施している「Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）」について、紙媒体での実施から、一人一台端末を活用したWEB上での実施に変更します。これにより、集計や分析に要する時間の短縮を図り、即時に出力された分析結果を学級運営に活かし、児童生徒が安心して学べる環境を創出します。</p>				
具体サービス	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想の実現に向けて整備した一人一台端末を活用し、WEB-QUを実施する。</li> <li>・児童・生徒一人ひとりの学級生活の満足度や学校生活の意欲、学級集団の状態等を測定する。</li> <li>・体調や人間関係、いじめや不登校傾向など児童・生徒の状態の変容を即時に把握でき、分析結果を踏まえ、学級運営を行う。</li> </ul> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;"> <p>WEB-QUの実施</p> </div> </div>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①アンケートに回答した児童・生徒の割合</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①「学級生活満足群」の児童・生徒の割合</p> <p>②WEBQUの利用満足度</p>		

# 事業概要 【包括支援プログラム導入事業】

自治体名	佐賀県佐賀市	人口	228,121人	事業費	5,170千円
事業概要	<p>特別支援学級に在籍している児童生徒や通級指導教室を利用している児童生徒において、話をきちんと聞くことができない、何度も同じ間違いを繰り返してしまう、集中力が続かないといった困りごとの背景にある認知機能の弱さに対し、包括支援プログラムの「覚える」「数える」「写す」「見つける」「想像する」といったトレーニングを行うことによって、認知機能の強化を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>一人一台端末での、認知機能を高めるトレーニングに取り組むことで、児童生徒の学習面や生活面の困りごとを軽減させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒用 履歴閲覧 「がんばりノート」 ログイン状況やトレーニングに取り組んだ回数を、児童生徒自身がいつでも確認することができる。</li> <li>・一週間のメニューを設定 「今週のコグトレ」 教師が、児童生徒一人一人の課題に応じた、トレーニング内容の設定ができ、児童生徒は授業だけではなく、家庭での実践にも取り組むことができる。</li> <li>・教師による履歴の管理 「学習履歴管理」 カリキュラムの進捗やトレーニングの結果を確認ことができ、児童生徒へのきめ細かな指導が可能となる。</li> </ul>		 <p>The diagram illustrates the program's reach. At the top right, a teacher is shown with a laptop, labeled 'プログラムの設定 学習履歴の確認' (Program setting, Learning history confirmation). Blue arrows point from the teacher to a family circle labeled '家庭で' (At home), where a parent and child are using a laptop. Another blue arrow points to a classroom circle labeled '学校で' (At school), where four children are using laptops and tablets. A pink oval encircles the school scene.</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】 ①「自立活動」の時間にプログラムに取り組んだ児童生徒の割合</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】 ①認知機能の強化がみられた児童生徒の割合</p>		

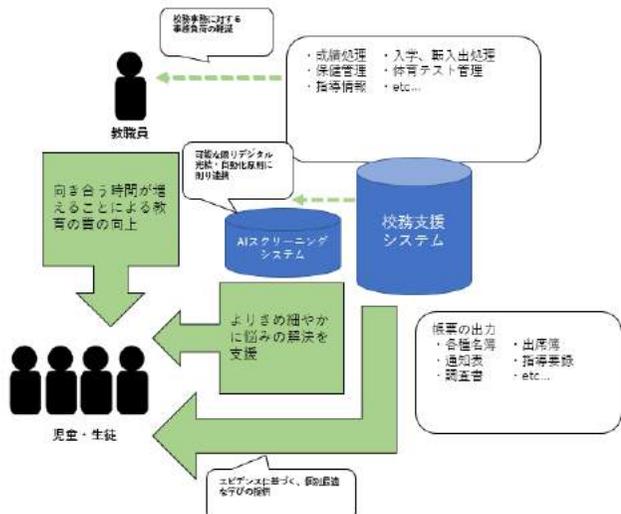
# 事業概要 【学校ICT基盤整備事業】

自治体名	佐賀県鳥栖市	人口	74,526人	事業費	127,582千円
事業概要	<p>国のGIGAスクール構想の推進、個別最適な学びと協働的な学びの充実、児童生徒の情報活用能力の向上を図るためにICT基盤の整備が必要となっている。加えて、慢性的な教員の業務負担の軽減に向けてもDXによる教育環境の改善が必要となることから、鳥栖市では学校ICT基盤の整備のための基本計画を策定した。計画の第一弾の事業として電子黒板の整備、及び学校・保護者間の連携強化のための仕組みを取り入れる。</p>				
具体サービス	<p><b>① 電子黒板の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 教科「日本語」の実施における各コンテンツの表示</li> <li>➤ いじめ・不登校への対応としてのリモート授業支援の仕組み 等</li> </ul> <p><b>② 学校・保護者間連携の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 学校と保護者間の情報連携のデジタル化</li> <li>➤ 電子ファイル等のやり取り</li> <li>➤ 自動翻訳による多様な家庭への対応 等</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>基本方針（取組テーマと概要）</b></p> <p><b>① 新しい学び×ICT 個別最適な学びと協働的な学びの充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 鳥栖市独自の教科「日本語」において、ICT機器（電子黒板等）やデジタルコンテンツを効果的に活用し、教科「日本語」の新しい学び、授業創造を行う</li> <li>■ 教科「日本語」の授業創造における実績を、教科等の授業においても広げていくことで、学校教育全体に個別最適な学びや協働的な「主体的・対話的で深い学び」を実現する</li> </ul> <p><b>② いじめ・不登校対策×ICT 学校の多様性と包摂性の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 端末を活用したオンラインアンケートの実施や相談窓口の設置等、ICT機器等を活用した新しいいじめ対策を行う</li> <li>■ 学校内に設置された“別室”、教育支援センター、民間施設、家庭等、いつでも、どこでも“教室とつながる環境”を構築する</li> </ul> <p><b>③ 校務×ICT 教師による真に必要な教育活動の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保護者連絡システムの導入（翻訳機能等の活用等）により多様な家庭や、教員のコミュニケーションの負担軽減を図る</li> </ul> <p style="text-align: center;">学校ICT基盤整備のための基本方針</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 各授業での電子黒板利用率</li> <li>② 学校保護者間連絡システムの利用率</li> </ul>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>利用者の満足度（オンラインコンテンツを活用した授業）          保護者の利用満足度（学校・保護者間連絡システム）          教員の利用満足度（学校・保護者間連絡システム）</p>			

# 事業概要 【特別支援教育支援ソフト導入事業】

自治体名	佐賀県伊万里市	人口	52,289人	事業費	3,625千円
事業概要	<p>・特別支援教育支援ソフトを活用し、個別の教育支援計画や指導計画の作成や引継ぎ、教材検討や校内研修に保護者からの家庭でのアセスメントを反映させ、それをデジタルに置き換えることで、〈①地域住民全体で切れ目ない支援体制を実現するデータ基盤を作る〉〈②教員の特別支援教育に関する専門的な資質・能力の向上、及び業務の効率化により対象者への支援の拡充と地域住民の知識の向上と支援体制の拡充を図る〉2点を目的に、市内の小・中・義務教育学校現場で活用する。支援ソフトの活用により地域住民を含めた支援体制の構築、及び教員の専門性を高め、業務負担を減らしながら児童生徒に合う個別最適な学びを実現することで、地域住民の意識の向上が図られ、児童生徒が自分らしく生きる力を育む環境づくりと支援を行うことができる。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【特別支援教育支援ソフトのサービス内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まなびプラン             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 保護者向けのwebアセスメントと結果の取り込み</li> <li>- アセスメントに基づいた児童生徒の特性の把握</li> <li>- 児童生徒の特性に応じた目標や指導上の工夫・合理的配慮の設定</li> <li>- 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を保護者等にわかりやすい資料として保存・出力</li> </ul> </li> <li>・まなび教材、まなび動画             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「計画作成」で立てた目標に紐づく児童生徒に個別最適化されたコンテンツを選択、活用</li> <li>- 専門家による特別支援教育に関する基礎動画</li> <li>- 地域住民を含めた支援体制の研修に活用可能な動画</li> </ul> </li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①個別支援が必要な児童生徒に対して当ソフトを活用した、子どもの個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用した面接等の回数</li> <li>②立てた計画や対象児童生徒の実態に基づいた自立活動の教材として児童・生徒に対しまなび教材を使用することができる</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒に合う計画作成を行うことで、支援の質が向上している（面接等での活用回数と保護者向けのアンケートにて回収）</li> <li>②児童生徒に合う教材選定を行うことで、個別最適な学びを実現している（保護者向けのアンケートにて回収）</li> </ol>		

# 事業概要 【校務支援システムを始めとした校務環境デジタル化事業】

自治体名	佐賀県みやき町	人口	25,000人	事業費	5,280千円
事業概要	<p>校務支援システムを導入することにより以下の課題解決及び効果を見込む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の校務事務負担軽減による児童生徒に向けた直接的な教育の質の向上</li> <li>・蓄積したデータの利活用によるAIスクリーニングシステムと連携した児童生徒への支援強化</li> </ul>				
<p>具体サービス</p>	<p>【校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績処理 ・入学、転入出処理</li> <li>・保健管理 ・体育テスト管理</li> <li>・指導情報の蓄積 ・その他</li> </ul> <p>クラウドサービスを前提とし、文科省の定める下記セキュリティ要件に合致したものの導入を計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多要素認証、SSO、通信経路の暗号化、webフィルタリング</li> <li>MDM、アンチウイルス、データ暗号化、IDS/IPS</li> </ul> <p>【AIスクリーニングシステム】（既に導入済み）</p> <p>校務支援システムで管理するデータをAIスクリーニングシステムへ投入し、迅速で確度の高い児童生徒支援を実施する。</p>		 <p>校務支援システム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績処理 ・入学、転入出処理</li> <li>・保健管理 ・体育テスト管理</li> <li>・指導情報 ・etc...</li> </ul> <p>AIスクリーニングシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりきめ細やかに個々の解決を支援</li> </ul> <p>児童・生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席簿</li> <li>・出席簿</li> <li>・通知状</li> <li>・指導要録</li> <li>・etc...</li> </ul> <p>教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務事務に対する業務負担の軽減</li> </ul> <p>可搬なクラウドサービスと連携・自動化処理により連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向き合う時間が増えることによる教育の質の向上</li> </ul> <p>セキュリティ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多要素認証、SSO、通信経路の暗号化、webフィルタリング</li> <li>MDM、アンチウイルス、データ暗号化、IDS/IPS</li> </ul> <p>エビデンスに基づく、個別最適化への対応</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①民生児童委員と連携して、対応した件数</li> <li>②個別生徒に対する面談、家庭訪問等対応件数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の学級生活満足度群割合</li> <li>②児童生徒の学級生活不満足群割合</li> <li>③町立小中学校不登校者数</li> </ol>		

# 事業概要 【有田町校務デジタル化推進事業】

自治体名	佐賀県有田町	人口	18,855人	事業費	23,351千円
事業概要	<p>現在、「手書き」「手作業」で管理している児童・生徒の9年間のデータを「統合型校務支援システム」を導入することで一元管理を行う。これまで事務作業に割いていた時間を学習指導や生徒指導などの教育活動に振り向けるとともに、蓄積されたデータを学校経営の改善や指導の充実に役立て、児童・生徒がよりよい教育を受けることのできる環境を構築する。また、学校⇔保護者との連絡ツールを導入し、保護者の利便性を向上する。</p>				
具体サービス	<p>【統合型校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名簿情報管理</li> <li>・成績処理</li> <li>・指導要領作成</li> <li>・保健管理 など</li> <li>・出欠席情報管理</li> <li>・通知表作成</li> <li>・調査書作成（中学）</li> </ul> <p>アナログで個別に管理されていた出欠、成績、学習履歴等の様々な情報をクラウドベースにより校務のシステム化を行うことで、校務系・学習系システムを接続できる環境を整える。</p> <p>将来的には、学習系データを含めた学校教育分野の「ダッシュボード」を構築することで、分析・共有が容易になり、学習指導や生徒指導にこれらの情報を活用する。</p> <p>【保護者との連絡ツール】</p> <p>電話で行われていた出欠連絡をスマートフォンからできるようにする。</p>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①システム利用率の増加</li> <li>②連絡ツール登録保護者数の増加</li> <li>③保護者との面談回数の増加</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校に対する満足度の増加</li> <li>②不登校時間の減少</li> <li>③いじめ報告数の減少</li> </ol>		

# 事業概要 【AIドリル導入事業】

自治体名	佐賀県有田町	人口	18,855人	事業費	26,400千円
事業概要	<p>有田町の児童生徒は、文部科学省が毎年度実施している全国学力・学習状況調査の結果、「知識・技能」の習得が課題となっている。この課題解決のためAIドリルを町立小中学校6校に導入することにより、児童生徒の学力を向上、学習習慣を定着させ、また、個別最適な学びにつなげていく。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【AIドリル実装】</b> 個に応じた学習支援や授業改善に向け、学習履歴の可視化による児童生徒の学力向上を図るため、AIドリルを導入する。</p> <p><b>【サービス概要】</b> 小1～中3の「算数・数学」「英語」「国語」「理科」「社会」の5教科が一つにまとまったAI型学習ドリル。一人ひとりに個別最適化された問題を出題できる。</p> <p><b>【効果】</b> AIドリルを導入することにより有田町の児童生徒の学力が向上し、得られた学習ログから効果的な活用法を探り、さらに学力向上できるようにしたい。</p>		<p>The diagram illustrates the flow of the AI drill implementation. On the left, a box for 'Qubena' states it is 'simple and easy to get correct answers' and 'AI's strengths are used for individualized learning'. This leads to a central box for 'learning towards human nature' which focuses on 'how to engage with society and the world for a better life'. This process is supported by 'teachers' on the right, who identify 'areas where their strengths can be leveraged' to promote 'collaborative and exploratory learning' and 'create time for STEAM education'. Below the central box, a flow shows 'understanding and skills' leading to 'understanding and how to use it', which then leads to 'thinking, judgment, and expression'.</p>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①月の解答問題数を増やす。</li> <li>②週の利用率を上げる。</li> <li>③家庭学習に位置づける。</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力・学習状況調査「知識・技能」正答率が上がる</li> <li>②全国学力・学習状況調査「家庭での学習時間が30分以下」の割合が下がる</li> </ol>		

# 事業概要 【学校DX推進事業】

自治体名	長崎県	人口	1,265,037人	事業費	10,428千円
事業概要	<p>定期考査等の採点を効率化するための「デジタル採点システム」の導入により採点作業の時間短縮や観点別評価の省力化を図ることで、生徒へのきめ細やかな学習指導や生徒・保護者との面談に充てる時間を増やし、教育の質向上を目指す。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【デジタル採点システム】百問繚乱</b></p> <p>紙答案をスキャンしてPDF化し、クラウド上にアップロードして採点するブラウザ型の採点システム。設問ごとの一覧表示ができ、複数人で分担しながらの作業が可能のため、効率的な採点が可能となる。また、観点別評価・自動集計・採点結果の分析等の機能を持つ。</p>		<p>The diagram illustrates the 'Digital Grading Service' (百問繚乱) ecosystem. At the top, 'Prefectural High Schools' (各県立高校) are connected to the service via 'School Efficiency Improvement and Sharing of Assignment Models' (校務効率化・授業モデルの共有). The service itself is a cloud-based platform (デジタル採点サービス) that provides 'Digitalization of Answers for Grading and Evaluation Efficiency' (解答のデジタル化による採点・評価の省力化) and 'Individual/Group Understanding' (個別・集団の理解度把握). Teachers (教員) use 'Paper-based Test Solutions' (紙媒体によるテスト解答) to interact with the system, which then provides 'Integration of Guidance and Evaluation for Optimal Lesson Content' (指導と評価の一体化による授業内容の最適化) back to them. Finally, the service enables 'Individual Feedback from Answer Analysis of Regular Exams' (定期考査等の解答分析による個別フィードバック) for students (生徒).</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 紙答案のスキャン・デジタル化</li> <li>● 自動採点、自動集計</li> <li>● 設問ごとの一覧表示</li> <li>● 複数人での同時共同採点</li> <li>● 観点別評価</li> <li>● 採点結果の分析</li> </ul>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①分析機能を用いた生徒へのフィードバック回数</p>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①生徒の学習理解度</p>		

# 事業概要 【学力向上に資する教育データ利活用に関するモデル事業】

自治体名	長崎県長崎市	人口	393,112人	事業費	10,574千円
事業概要	<p>児童生徒の確実な学力定着を図るためのプラットフォームとして、学習eポータル+AI型教材「Qubena」を長崎市立学校の小学4年生から中学3年生に導入することで「個別最適な学び」の実現を図るとともに、蓄積された教育データを効果的に利活用することにより授業改善に向けた研究を進めるもの。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>●児童生徒の学習意欲向上と基礎学力定着につながる。</p> <p>(1) 学習eポータルとAI型教材の操作方法を市内全体で統一</p> <p>(2) 学習履歴（スタディログ）の効果的な活用とレコメンド（分析結果の提案）</p> <p>(3) MEXCBTや学習者用デジタル教科書等との連携・利活用</p>	<p>The diagram illustrates the integration of Qubena, MEXCBT, and Digital Textbooks. Qubena (labeled '小中5教科') receives 'メタデータ付与' (meta-data attachment) and performs 'AIが分析' (AI analysis). This leads to 'テスト結果を含めた学習の最適化' (learning optimization including test results). MEXCBT (labeled 'メグビット') provides 'テスト結果をフィードバック' (test result feedback) to Qubena. Digital Textbooks (labeled 'デジタル教科書') provide '教科書の閲覧状況や取り組み状況をフィードバック' (feedback on textbook viewing and engagement status) to Qubena. Qubena also provides '教科書とシームレスに連携した学習' (seamless learning with textbooks) to Digital Textbooks. Additionally, '日々の学習とテスト結果の相関関係を分析' (analysis of correlation between daily learning and test results) feeds into the optimization process. Finally, 'メタデータ連携で問題に対応する教科書コンテンツをダイレクトに参照' (direct reference to textbook content for problem-solving using meta-data linkage) is shown as a benefit of the system.</p>			
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①WAU率※1</p> <p>②月間平均回答数</p> <p>※1 児童生徒が週に1回以上問題を解いている割合</p>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①教育委員会から各学校に一斉配信するワークブックの正答率</p> <p>②Qubena活用に効果を感じている児童生徒と教職員の割合</p>			

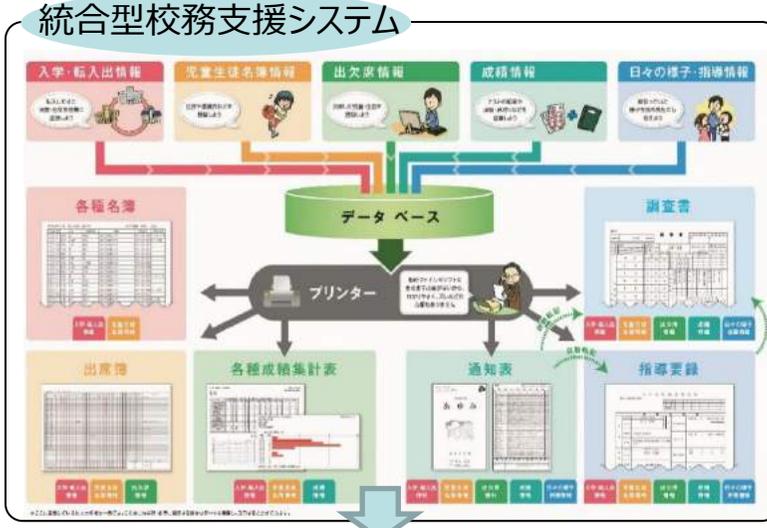
## 事業概要 【心の状況調査CBT化事業】

自治体名	長崎県佐世保市	人口	233,459人	事業費	6,657千円
事業概要	<p>これまで紙（PBT）で実施してきた「心の状況調査」について、パソコンで実施できるように（CBT化）することで、検査結果の分析が迅速かつ正確にできるようになり、適切で速やかな児童生徒の指導・支援に繋げることができるようになる。</p>				
具体サービス	<p>【心の状況調査CBTサービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「心の状況調査」を、児童生徒1人1台端末上で実施することができるようになる</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①心の状況調査児童生徒実施率</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①学校生活に満足している児童生徒の割合</p>		

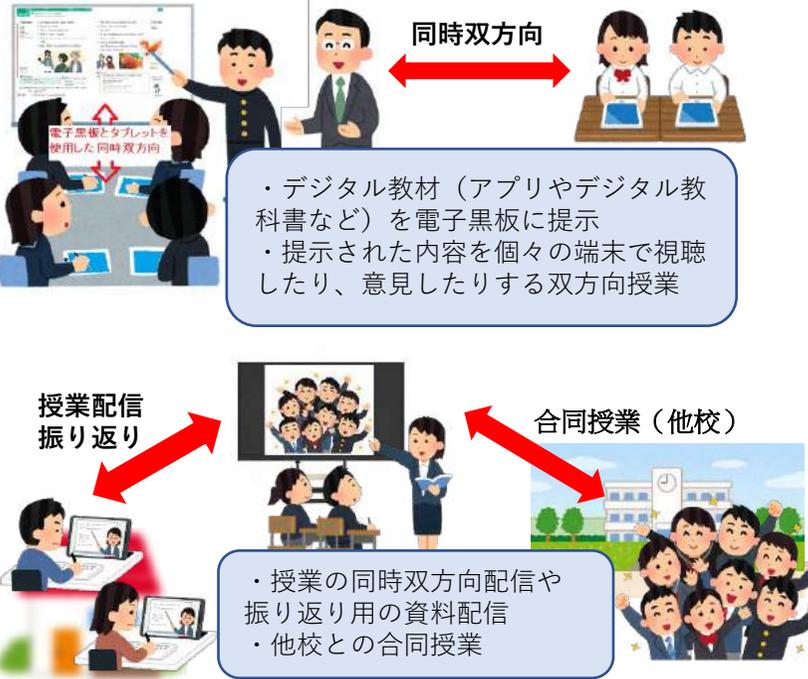
# 事業概要【ICTの効果的活用と授業のデジタル化推進事業】

自治体名	熊本県玉名市	人口	63,550人	事業費	48,299千円
事業概要	<p>本市では、GIGAスクール構想に伴い一人一台のタブレット端末を整備した一方、「電子黒板の整備」、「学習用端末でのAIドリルの整備」及び「プログラミング学習を効果的に行う為の機器」が十分に整備出来ていない。そこで、これらのICT機器を整備することで、個別・最適化された学びと協働的な学びの一体的な充実、また、主体的対話的で深い学びを可能とし、『教育の質の向上』と教育のDX化により教員の働き方改革を実現する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>【電子黒板の活用による授業のデジタル化等推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が個人の端末でまとめた考えを電子黒板に大型提示しての発表や協働学習を行う。</li> </ul> <p>【学習支援サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライズeライブラリアドバンス</li> <li>・小学校プリントパック</li> </ul> <p>【プログラミング支援サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Pepperロボットを活用したプログラミング教育</li> </ul> </div> <div style="flex: 2;"> </div> </div>				
<p>主なKPI</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板の使用頻度</li> <li>②AIドリルの活用時間及び宿題のデジタル化率</li> <li>③Pepperロボットを活用したプログラミング教育時間</li> </ol> </div> <div style="flex: 2;"> <p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の授業理解度</li> <li>②県及び全学調の平均点向上と児童の満足度向上</li> <li>③プログラミング学習に対する児童生徒の満足度向上</li> </ol> </div> </div>				

# 事業概要 【上天草市統合型校務支援システム導入事業】

自治体名	熊本県上天草市	人口	24,322人	事業費	5,341千円
事業概要	<p>本市の小中学生の学力が国及び県平均を下回っており、学力を向上させるために授業の質を向上させる必要があるが、教職員の校務に係る作業時間が膨大であり、授業の調査研究やICT教育が充実できていない。</p> <p>このことから、校務作業に係る教職員の時間を大幅に削減させ、児童生徒一人ひとりに向き合う授業を実施することで学力を向上させるとともに、学校側と保護者のコミュニケーションの向上を図り、より良い学習環境を確保する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【統合型校務支援システム】</b></p> <p>学校指導要録を始め、名簿情報、出欠席情報、通知表等の児童生徒の個別情報を統合型校務支援システムを導入し、情報管理を一元化することで、校務に係る業務量を大幅に削減し、児童生徒の学力を向上させるための時間に充てる。</p> <p>▶搭載機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名簿情報管理</li> <li>・出欠席情報管理</li> <li>・成績処理</li> <li>・通知表作成</li> <li>・指導要録作成</li> <li>・調査書作成(中学校)</li> <li>・保健管理</li> </ul> <p>▶効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の情報を学校内で共有することで、適格な学習指導や生活指導ができる。</li> <li>・校務時間の削減により、児童生徒に向き合う時間やICT活用を含めた教材研究の時間の確保を行い、学力向上等に結び付ける。</li> <li>・学習成績等の個々の情報を管理することで保護者と児童生徒に係るきめ細やかな情報共有が図れる。</li> </ul> <p>▶導入校数</p> <p>16校 → 小学校11校 中学校5校</p>		 <p>統合型校務支援システム</p> <p>教職員が教材研究等に費やせる時間の確保</p> <p>児童生徒の学力向上 保護者とのコミュニケーションの充実</p>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①超過勤務者(45時間未満)の割合</li> <li>②統合型校務支援システムにより指導要録を作成した割合</li> </ol>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の県学力学習状況調査の成績結果</li> <li>②保護者に対する学校運営満足度調査の結果</li> <li>③児童生徒の個別指導にかかる時間の増加数</li> </ol>		

# 事業概要 【大型提示装置を活用した同時双方向授業の充実】

自治体名	熊本県宇城市	人口	57,004人	事業費	36,000千円
事業概要	<p>教育現場において、電子黒板を十分に活用できておらず、効果的なICT教育を推進できていない。そのため、管内全中学校の教室にディスプレイ型通信機能付き電子黒板を整備し、教師が日常的にICTを活用する環境を構築することで、登校できない生徒の授業参加の機会創出や電子黒板機能を活用した質の高い授業の展開が可能となり、場所を超えた生徒の学びの保障や同時双方向授業等による生徒の学習意欲の向上及び授業等の理解向上を図る。</p>				
<p>具体サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●板書や授業内容のファイル化により、振り返り学習等の利便性が向上。</li> <li>●校外に居る生徒への授業配信が高画質化。</li> <li>●オンライン機能やデジタル教材と組み合わせた同時双方向授業の実現。</li> <li>●自宅待機中・不登校等の生徒への授業配信。</li> <li>●授業展開が効率化し、生徒の主体的学習時間の増加。</li> <li>●教師の授業準備の負担軽減による日常使用の実現。</li> <li>●教育支援センターでの、就学中学校の授業等の遠隔受講。</li> <li>●他校との合同授業の実施。</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板の使用頻度</li> <li>②オンライン同時双方授業を実施した回数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の授業理解度</li> <li>②同時双方向授業に対して満足と回答した生徒の割合</li> </ol>		

# 事業概要 【統合型校務支援システム整備事業】

自治体名	熊本県玉東町	人口	5,193人	事業費	8,784千円
事業概要	<p>統合型校務支援システムを整備することにより、児童生徒の校務系データと学習系データの連携により、教員間での情報共有を促進するとともに校務の標準化、ペーパーレス化により教職員の業務負担の軽減を図ることで、教員の校務処理の時間短縮により子どもと向き合う時間を確保することにつなげる。</p> <p>また、児童生徒の学習・健康等の情報を小学校から中学校へと切れ目なく一元化することで一人ひとりの状態に応じたきめ細かで迅速な学習支援や生徒指導につなげる。</p>				
具体サービス	<p>【スズキ統合型校務支援システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロトラスト型セキュリティ（総合認証基盤）の導入</li> <li>・パブリッククラウド型の校務支援システムの導入</li> <li>・標準規格による異なるシステム間での各種データの総合運用</li> <li>・学習系データと校務系データの連携</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の学習内容の理解度</li> <li>②教職員の一日あたりの勤務時間</li> <li>③</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自分には良いところがあると感じる児童生徒の割合</li> <li>②時間外勤務が月45時間を超えている教員の割合</li> <li>③</li> </ol>			

## 事業概要 【統合型校務支援システム等導入事業】

自治体名	熊本県長洲町	人口	15,442人	事業費	19,316千円
事業概要	<p>・統合型校務支援システム等の導入により、平時や緊急時等において、保護者への円滑な情報提供を始め、地域住民へ学校情報を発信できる環境を構築し、児童生徒がより安全・安心に学校生活を送る体制の整備とともに、開かれた学校運営を実現する。また、システムの導入を通して、教職員の業務負担の軽減を図り、児童生徒や保護者に寄り添ったきめ細かな指導体制の構築にも寄与する。</p>				
具体サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリッククラウド対応型の校務支援システムの導入</li> <li>・標準規格による異なるシステム間での各種データの総合運用</li> <li>・学習系データと校務系データの連携</li> <li>・学校グループウェアサービスの導入</li> <li>・保護者連絡ツールの導入</li> </ul>				
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①モバイル端末等によりサービスを利用した保護者の割合</li> <li>②児童・保護者との面談回数</li> <li>③保護者・地域住民への情報発信を行った回数</li> </ul>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①面談による教育に対する満足度</li> <li>②学校における教育に対する満足度</li> <li>③保護者連絡ツールによる教育に対する満足度</li> </ul>		

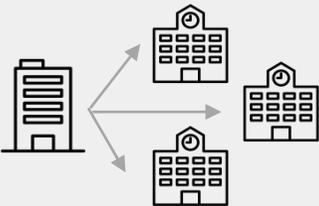
# 事業概要 【甲佐町校務デジタル化推進事業】

自治体名	熊本県甲佐町	人口	10,156人	事業費	7,293千円
事業概要	<p>甲佐町に設置している4小学校と1中学校に、それぞれ児童生徒の情報を一元管理するためのシステムを導入する。情報の一元管理による児童生徒情報の蓄積と活用、事務負担を軽減して子どもたちと向き合う時間や教材開発の時間を確保し、これにより、児童生徒の受ける教育の質の向上、支援時間の確保に伴う満足度の向上を目的とする。また、教職員の事務負担軽減を図り、働き方改革の一助とする。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>校務支援システム</p> <p>①情報の一元管理による情報の活用 個別に管理されていた児童生徒の出欠、成績、学習履歴等の様々な情報が共通のシステムで管理されることで、分析・共有が容易になり、学習指導や生活指導にこれらの情報を活用しやすくなる。</p> <p>②帳票機能による校務の効率化 通知票作成、指導要録作成といった、時間がかかる書類作成の時間が削減できる。</p> <p>期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務作業時間が短縮されることにより、教材研究に取り組む時間が増え、子どもたちの理解度向上、学力の向上に繋がる。</li> <li>・児童生徒と関わる時間が増えることで一人一人の様子をより把握出来るようになり、支援が必要な子どもに多くの時間を使うことができるようになる。</li> </ul>		<p><b>校務支援システム</b></p> <p>R6年度にシステム基幹サーバで導入後、R7年度からのクラウド型への移行に伴い、R6年度中に移行作業を行う。</p> <p><b>グループウェア</b> メール、掲示板 特別教室施設予約 校内アンケート 週案簿、学校日誌</p> <p><b>帳票機能</b> 名簿情報管理 出欠席情報管理 通知表作成 指導要録作成 保健管理</p> <p>クラウド</p> <p>サーバー</p> <p>職員室</p> <p>校務用PC</p> <p>各小中学校</p> <p>教職員</p> <p>運用サポート</p> <p>ICT支援員</p> <p>・情報の一元管理 ・校務効率化 等</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①校務支援システムによる指導要録の作成割合</p> <p>②教職員の時間外勤務の削減</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①児童生徒アンケート回答結果</p> <p>②保護者に対するアンケート回答結果</p>		

# 事業概要 【山都町校務デジタル化推進事業】

自治体名	熊本県山都町	人口	13,300人	事業費	11,070千円	
事業概要	<p>山都町に設置している5小学校と3中学校に児童生徒の情報を一元管理するためのシステムを導入する。情報の一元管理による児童生徒情報の蓄積と活用、事務負担を軽減して子どもたちと向き合う時間を確保し、これにより、児童生徒の受ける教育の質を向上させることを目的とする。また、保護者との連絡アプリを併せて導入し、教員の事務負担軽減を図り、働き方改革の一助とする。システム導入後の運用に際してICT支援員を配置し、スムーズな運用をサポートする。</p>					
<p>具体サービス</p>	<p>校務支援システム</p> <p>①情報の一元管理による情報の活用</p> <p>個別に管理されていた児童生徒の出欠、成績、学習履歴等の様々な情報が共通のシステムで管理されることで、分析・共有が容易になり、学習指導や生活指導にこれらの情報を活用しやすくなる。</p> <p>②帳票機能による校務の効率化</p> <p>通知票作成、指導要録作成といった、時間がかかる書類作成の時間が削減できる。</p> <p>③保護者連絡アプリの導入</p> <p>保護者との相互連絡アプリの導入により、学校からの書面による通知の削減や保護者との連絡に伴う教員の負担軽減を図る。</p> <p>期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務作業時間が短縮されることにより、教材研究に取り組む時間が増え、子どもたちの理解度向上、学力の向上に繋がる。</li> <li>・児童生徒と関わる時間が増えることで一人一人の様子をより把握出来るようになり、支援が必要な子どもに多くの時間を使うことができるようになる。</li> </ul>					
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①校務支援システムによる指導要録の作成割合</li> <li>②教職員の時間外勤務の削減</li> <li>③アプリ使用による連絡割合</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒回答のアンケート結果改善</li> <li>②保護者回答のアンケート結果改善</li> </ol>			

## 事業概要 【遠隔教育システムによる個別最適な学び提供事業】

自治体名	大分県	人口	1,094,566人	事業費	45,710千円
事業概要	<p>どの地域においても、生徒自らの可能性を最大限に伸ばし、多様で質の高い高校教育を提供できる配信センター方式による遠隔教育サービスを行う。</p> <p>本サービスを提供することにより、教員配置数の減少により開講できる科目数や習熟に応じた授業数が減少することがないよう、教育の質の担保を図る。</p>				
具体サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の普通科高校に遠隔教育を提供するサービス</li> <li>・習熟度別に応じた質の高い授業を提供する。</li> <li>・多様な科目における実施や、習熟度別授業により、生徒一人ひとりの理解度が高まり、生徒の進路目標の達成を図る。</li> <li>・県内公立高校を対象として、数学・英語の2教科の配信を行う。（初年度は4校を想定）</li> </ul> <p>【サービスで活用するアプリケーション】（配信校と受信校の双方向型オンライン授業に要する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ZoomRooms</li> <li>・MetaMojiClassRoom</li> </ul>		<p>[Aタイプ] 配信センター方式</p>  <p>大分市内の配信センターから地域の学校に習熟度遠隔授業を配信</p> <p>（実施事例：数学、英語など）</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①県内の配信センター型遠隔授業実施率（試行段階含む）</li> <li>②配信授業の延べ実施科目数</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①遠隔教育受講者のアンケートによる満足度</li> <li>②生徒保護者の該当校に対する学校満足度</li> </ol>		

# 事業概要 【子育てしなくなる教育環境のあるまちづくり事業】

自治体名	大分県臼杵市	人口	34,026人	事業費	35,420千円
事業概要	<p>小中学校の普通教室等に電子黒板を配備し、これからの社会で求められる力を、より効果的なICT環境の中で育み教育水準の向上を図る。加えて、本市の豊かな自然と食文化、有機の里づくり等も併せて、子育て世代が「子育て好適地」として本市に魅力を感じ、移住・定住につなげることで人口減少対策（社会増）につなげ、子どもたちの適正な規模等の学習環境の持続的な保持をめざす。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p><b>【電子黒板を活用した高次なICT教育環境の実現】</b>  <b>小中学校の普通教室等に電子黒板を設置し</b>、以下のようサービスを提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1人1台タブレット端末やデジタル教科書と相互活用することで更なる授業のクオリティ向上を図る（相互投影、画像・図などの拡大・縮小により視覚的優位性から理解度が向上）</li> <li>○ 教員の板書時間を省き、教員間、学校間など、授業教材の共有化など、授業の効率化を図る（中身の濃い授業の実現）</li> <li>○ 欠席や不登校の児童・生徒への板書画像等の送信を行い、学力の保障につなげる（誰一人取り残さない「個別最適化」の実現）</li> <li>○ 遠隔授業や交流が容易に実施できる環境が整う</li> <li>○ ICT教育で効果的とされる「主体的・対話的・協働的で深い学び」の一層の向上が可能な環境を整える（考えをまとめ表現（発表）するなど、主体的な学びの実現）</li> </ul>		<p><b>めざすサービスの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒にとって適正な規模等の学習環境が持続的に保持されている</li> <li>移住者の増加や市内在住者の転出が抑制され、人口の社会増につながっている</li> <li>教育環境が整い、学力の高い臼杵市を「子育て好適地」として魅力を感じ、移住する子育て世帯が増加している</li> <li>より高い教育環境を求めて都市部へ転出する子育て世帯の流出抑制</li> </ul> <p><b>ギャップを埋めるための行動内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな自然 + 「教育環境のよいまち」、「学力の高いまち」という評価の定着 + 豊かな食文化、有機の里づくり</li> <li>高次のICT教育（個別最適化、協働的学び等）のさらなる進化</li> <li>既存ICTツール等と相互活用</li> <li>【既存ツール】1人1台学習用タブレット端末、授業支援アプリ、中学校教員用のデジタル教科書 等</li> <li>電子黒板の配備</li> </ul> <p><b>取組みによる変化のベクトル</b></p> <p><b>本市の現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加速する出生数の減少 → 自然増減の歯止めが困難な状態であり、社会増による対策が急務</li> <li>児童・生徒の減少 → 集団により得られる社会性の醸成がされにくい環境となっている学校が増加</li> <li>部活動（中学校） → チーム競技部が成立しなくなるケースの増加、希望する部活動が存在しないケースの増加</li> </ul>		
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①電子黒板活用割合</li> <li>②教員のICT活用指導力</li> <li>③</li> </ol>	<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全国学力学習状況調査におけるポイント</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>			

# 事業概要 【デジタル教育環境向上事業】

自治体名	大分県竹田市	人口	18,782人	事業費	2,723千円						
事業概要	<p>保護者から学校への欠席連絡ツールが電話のみに限られ、保護者は、不便を感じている。また、A Iドリルについても子供が家庭学習で取り組む意欲が向上させるコンテンツが弱く、出された宿題は行うが、自主的に取り組む児童生徒が少ないという課題がある。下記のシステム導入より教育環境の向上を図る。</p> <p>①教育委員会・学校と保護者等間の双方向の情報連絡システムの導入          ②デジタルドリルを活用した「個別最適な学び」の推進          ③認知機能強化トレーニング『コグトレオンライン』導入</p>										
<p>具体サービス</p>	<p><b>【デジタル教育環境向上事業】</b></p> <p>①学校-家庭-地域における連絡手段の一元化により、学校-家庭-地域が連携することで、より良い教育環境の実現のために双方向連絡システムを導入する。</p> <p>②学習予約管理や習熟度に応じた内容や子供のやる気を向上させるコンテンツが提供できる学習アプリの導入よりさらなるオンライン持ち帰り学習の推進と学習支援ソフトの導入により、児童生徒が一人ひとりの異なるつまづきの解消を図る。</p> <p>③市内小学校児童全員の端末に認知機能強化トレーニング『コグトレオンライン』を導入。</p> <p>④就学援助費補助にかかる保護者の利便性の向上と学校並びに学校支援センターの煩雑な事務の軽減のためにオンライン申請・通知が行えるようする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="1218 565 1425 782"> <p>教育現場の課題</p> <table border="1"> <tr> <td>学校</td> <td>働き方改革 地域学校協働活動</td> </tr> <tr> <td>家庭</td> <td>子どもの安全確保 家庭の負担軽減</td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td>地域としての 協力体制の構築</td> </tr> </table> </div> <div data-bbox="1458 588 1562 682"> <p>連絡手段の一元化により課題を解決</p> </div> <div data-bbox="1583 559 1819 788"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="1106 848 1570 1025"> </div> <div data-bbox="1603 819 1848 1002"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="1620 1011 1893 1162"> </div> </div>					学校	働き方改革 地域学校協働活動	家庭	子どもの安全確保 家庭の負担軽減	地域	地域としての 協力体制の構築
学校	働き方改革 地域学校協働活動										
家庭	子どもの安全確保 家庭の負担軽減										
地域	地域としての 協力体制の構築										
<p>主なKPI</p>	<p><b>【アウトプット指標（活動指標）】</b></p> <p>①学校-家庭-地域連絡アプリの登録数          ②アプリを活用した情報配信数          ③家庭（持ち帰り）学習で「デジタルドリル」・「コグトレオンラインドリル」を利用した児童生徒の割合</p>		<p><b>【アウトカム指標（成果指標）】</b></p> <p>①児童生徒、保護者、教員の満足度（ユーザ満足度）サービスごと          ②学校における教育の情報化の実態等における調査（国）          ③全国学力・学習状況調査（小6・中3）の調査結果</p>								

# 事業概要【ひなた教育DX整備事業】

自治体名	宮崎県	人口	1,039,751人	事業費	5,698千円
事業概要	生徒の学習活動をデジタル採点システムを活用して共有・分析し、客観的なデータに基づいた個別の学習支援（成績分析データの返却、教科担当教員による個別面談等）を行うことによって、生徒1人1人の到達度に合わせた個別最適な学習機会を提供を実現する。				
具体サービス	<p>【デジタル採点システム】 導入先：県立学校39校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紙媒体で実施したテストをスキャナーでデジタル化し、専用ソフトウェアを用いて、クラウド上で複数の教員が同時に採点・集計を行う。</li> <li>採点された答案や個別成績表（設問別の得点等を記載）を生徒にデータで返却し、教員との学習面談や振り返り等で活用する。</li> <li>設問別の得点状況（全体、個別）を客観的なデータで把握し、教員の指導計画に反映させる。</li> <li>採点・集計は全てクラウド上で行うため、集計ミスや不正防止等に繋がる。</li> </ul>	<p>テスト実施（紙媒体） → スキャナー（データ化） → 採点・集計（クラウド）</p> <p>デジタル採点システム</p> <p>1人1台端末を活用して 答案・個別成績表を返却</p> <p>把握 ↓ 分析</p> <p>学習支援</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① データを活用した学習支援（個別面談など）を行っている教員の割合</li> <li>② デジタル採点システムを用いて採点業務を行っている教員の割合</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ICTを活用することで「自ら学ぶようになった」と回答した生徒の割合</li> <li>② データを活用することで「学習の理解が深まった」と回答した生徒の割合</li> </ol>			

# 事業概要【教育DX推進事業】

自治体名	宮崎県宮崎市	人口	397,529人	事業費	108,524千円
事業概要	GIGAスクール構想により整備された児童生徒1人1台端末を使った各種アプリケーションの活用やこれに伴い取得した教育データの利活用への取り組みは重要である。このため、次の3点により教育DXの推進を図る。①1人1ID環境の整備による適切なアカウント管理②1人1ID環境とダッシュボードを活用した学習支援の実施③デジタル採点システムの整備による答案開示までの時間短縮				
具体サービス	<p>【1人1ID環境の整備】 SSOを実現できる1人1ID環境を整備 対象：市内全市立小中学校 生徒数31,531人 (見込)【学校数：73校】</p> <p>【1人1ID環境とAIドリルの連携による学習支援】 児童生徒のIDとAIドリルの学習データを連携することで、データに基づいた教員による指導や児童生徒自らの学習振り返りができる環境を整備 対象：市内市立小学校5、6年生及び全中学校 生徒数17,397人(見込)【学校数：73校】</p> <p>【デジタル採点システムの整備】 答案をスキャンすることで、パソコン上で設問毎に採点することができ、データとして保存できる 対象：市内全市立中学校 生徒数9,973人(見込)【学校数：26校】</p>		<p>The diagram illustrates the data flow and integration process. On the left, '1人1ID' (1-person-1-ID) and 'AIドリル' (AI drills) are connected to '宮崎市教育DB' (Miyazaki City Education DB) via '連携' (integration). Above this flow are two boxes: 'データを集める' (Collect data) and 'データを貯める' (Store data). On the right, '宮崎市教育DB' is connected to 'データを活用する' (Use data) via '連携'. This leads to two dashboards: '学習者用ダッシュボード' (Student dashboard) and '教員用ダッシュボード' (Teacher dashboard), both utilizing 'BIツール' (BI tools).</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①SSOを活用して作成するダッシュボードの累計数 ②AIドリルの取組問題数 ③デジタル採点システムを活用して生徒への指導・評価・支援等を行った教員の割合</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①SSOを活用して作成するダッシュボードに対する児童生徒の利用頻度 ②児童生徒のAIドリルの満足度 ③答案開示までの日数短縮率</p>		

# 事業概要 【GIGAスクール推進事業（AIドリル）】

自治体名	宮崎県日南市	人口	49,088人	事業費	5,566千円
事業概要	AI型デジタルドリル教材を導入し、個々に応じた学びを推進する。学習進捗度の異なる児童・生徒に対して、個々の学習状況に応じた問題を提示し、学習効果を高めることに加え、自動採点やAIによるデータの収集・分析等により教職員の業務を改善し、よりきめ細やかな指導や支援を行うことができるようにする。これらにより本市の教育活動の量的・質的改善を図る。				
具体サービス	<p>対象：小学校1年生から中学校3年生までの児童・生徒約3,400名</p> <p>教科：国語、社会、算数・数学、理科、英語</p> <p>【AI型ドリルによる効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒の基礎学力の定着</li> <li>教職員による生徒への学習支援をAIがサポート</li> <li>教職員の負担の軽減</li> </ul>	<p>学習支援 AI</p> <p>・進捗にあった問題 ・自動採点</p> <p>・AIドリルを使った学習 ・学習データの収集</p> <p>分析された学習データ</p> <p>一人ひとりの進捗度にあわせた指導</p> <p>児童・生徒</p> <p>教職員</p>			
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①AI型デジタルドリル教材の活用頻度①</li> <li>②AI型デジタルドリル教材の活用頻度②</li> <li>③日常的な持ち帰り学習への活用状況</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①AI型デジタルドリル教材の自主的活用頻度</li> <li>②全国学力学習状況調査における全国平均との比較</li> </ol>			

# 事業概要 【教育DX関連事業】

自治体名	鹿児島県鹿児島市	人口	586,496人	事業費	31,563千円
事業概要	<p>GIGAスクール構想に基づき整備された既存のICT機器を更に活用するとともに、新たな機器やサービスを導入することで、教育課程内外の教育DXを加速し、すべての児童生徒に学びの機会を与え、「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」の実現を推進する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【①電子黒板整備事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が個人の端末でまとめた考えや指導者用デジタル教科書等を表示したり、オンライン授業で活用できる電子黒板を導入し、授業等におけるICT機器の活用を促し、児童生徒間、学校間の双方向の情報共有による活発な意見交換や主体的な学習の実現を図る。</li> </ul> <p>【②フレンドステップ・メタバース導入事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>欠席が続いている児童生徒に対して、メタバースを活用した支援を導入し、社会的自立につなげる。</li> </ul>		<p>The diagram illustrates the interaction between schools and families. At the top, 'School' and 'Family' are connected by a double-headed arrow. Below this, '(登校) 児童生徒' (Attending Children) and '不登校児童生徒' (Non-attending Children) are shown. A central box labeled '①電子黒板による授業等' (Digital Blackboard-based classes) is connected to '(登校) 児童生徒' and '不登校児童生徒' with double-headed arrows labeled '双方向の情報共有 意見交換' (Two-way information sharing, opinion exchange). A dashed arrow labeled '学校へ復帰' (Return to school) points from '不登校児童生徒' to '(登校) 児童生徒'. Another dashed arrow labeled '校外交流' (Out-of-school exchange) points from '(登校) 児童生徒' to '①電子黒板による授業等'. A dashed arrow labeled '通級' (Cross-grade) points from '不登校児童生徒' to 'フレンドシップ等' (Friendship, etc.). A yellow box labeled '②メタバース空間' (Metaverse space) is connected to '不登校児童生徒' with a double-headed arrow labeled '学習支援等' (Learning support, etc.). Below 'フレンドシップ等' is another '不登校児童生徒' box. A dashed arrow labeled '学校' (School) points from 'フレンドシップ等' to '(登校) 児童生徒'.</p>		
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <p>①授業等での電子黒板利用率</p> <p>②メタバースを活用した不登校児童生徒数</p>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <p>①電子黒板利活用にかかる教員・児童生徒の満足度</p> <p>②支援を受けていない児童生徒の割合</p>		

# 事業概要 【SBS推進事業（デジタル教科書）】

自治体名	鹿児島県志布志市	人口	29,213人	事業費	38,558千円
事業概要	本市の小学校では、一部の教科のみデジタル教科書を導入しているが、紙媒体との教科で授業の質に格差が生じている状況から、他の教科に対しても導入し、音声教材やモニタ等を使用して動画教材等を使用するなど、より効果的で多様性のある授業展開を図り、学習理解度の向上や学習効率を向上させる。				
具体サービス	<p>市民、事業者、行政が一つの輪となって、誰でも「簡単（Simple）」で、「最良（Best）」のサービスとなるよう協働で取り組み、様々な「相乗効果（Synergy）」を生み出すことに繋がる「志布志（SBS）」の姿勢を形成し、人も地域も輝くまちとなるよう「デジタルでつなぐ志（こころざし）の輪」を基本理念に寄与した取組となるよう構築する。</p> <p>デジタル教科書の導入による授業のICT化促進を図り、学習効率を向上させることを目的とする。</p> <p>紙の教科書にはない音声教材や動画教材を授業に活用することで、児童生徒の学習の習熟度を高め、成績向上を図る。</p> <p>【デジタル教科書導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校16校分のデジタル教科書導入</li> </ul>		<p>The diagram illustrates the integration of digital textbooks into existing classroom equipment. At the bottom, a digital textbook is shown with '算数' (Mathematics) and '国語' (Language) covers. An arrow labeled '投影' (Projection) points from the textbook to a screen labeled '既存機器' (Existing equipment). From the screen, four lines connect to circular icons representing digital content: '動画' (Video), '音声' (Audio), '拡大表示' (Zoomed display), and '書き込み・保存' (Writing and saving).</p>		
主なKPI	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教員におけるICT機器（デジタル教科書含む）活用頻度</li> <li>② 児童におけるICT機器（デジタル教科書含む）活用頻度</li> </ol>		<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① デジタル教科書活用による成績向上</li> </ol>		

# 事業概要 【県立学校入学者選抜WEB出願システム事業】

自治体名	沖縄県	人口	1,469,435	事業費	10,144千円
事業概要	<p>受験生（保護者）、中学校、高校の入試業務の負担を軽減するため、県立学校入学者選抜Web出願システムを導入する。</p>				
<p>具体サービス</p>	<p>【WEB出願サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校入試の出願をオンラインで実施する。</li> <li>・ 県立高校の入学者選抜等の出願手続きをオンライン化することで志願者や保護者の負担を軽減させるとともに、志願者の中学校は志願書類作成の自動化、高等学校は志願情報をデジタルデータで取得することで、入力作業等の負担軽減を図る。</li> <li>・ 志願者情報をデータ化し、事務処理の軽減を図る</li> <li>・ 令和6年度より導入される新しい入試制度に伴い、特色選抜校、一般選抜校間で得点及び合否情報をWEB出願システムで共有することで、志願者情報の交換にかかる時間と労力を削減し、迅速な合否判定を実施することができる。</li> </ul>				
<p>主なKPI</p>	<p>【アウトプット指標（活動指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①WEB出願件数</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>	<p>【アウトカム指標（成果指標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①WEB出願サービスの満足度</li> <li>②</li> <li>③</li> </ol>			